

○齊ノ桓公 龍頭  
管仲が致す 參説

十八史略講義大全卷六

東京 島寄友輔 著

其後任之 願

管子ノ書及

史記ニ見

仲疾ニ疾ス

桓公來リ 問

ラ曰ク 仲父

疾不幸ニ

シテ起タズ

仲病桓公問群臣誰可相易牙何如仲曰殺子以食君非

人情不可近開方何如曰倍親以適君非人情不可近蓋

聞故衛公子來奔者也豎不何如曰自宮以適君非人

情不可近仲死公不用仲言卒近之三子專權公內寵如

夫人者六皆有子八薨五公子爭立相攻公尸在床無殯

斂者六十七日尸蟲出于戶

事ヲ誰ニカ

移サニ仲未

ダ之が對、  
為サズ、公曰  
久、鮑叔ハ何  
如對ヘテ曰  
久、鮑叔ハ君  
子ナリ、千乘  
ノ國モ、其道  
ヲ以テ之ニ  
予ヘザレバ  
受ケズ、然リ  
ト雖、臣國政  
ヲ執ラシム  
ベキ人物ニ  
非ズ、如何ト  
ナレバ、其人  
善ク好ミテ

輕重ナシト雖、此處ニ  
テハ、危篤ナルヲイフ、  
○何如  
其意味少シク異ナリ、如何ト書クトキハ、  
ルゾトイフマデノ一ニテ、何如ト書クトキハ、  
デアアルゾトイフウチニ、  
イフ意味ヲ含メルナリ、但シ是モ時ニヨリテハ用  
ヒ方差異ナシト雖、先ヅ此區別アル者ト心得テ  
可ナリ、易牙ハ何如、閔方ハ何如、豎刁ハ何如、トイヘ  
バ、孰モ他ヲバ兼ネ合セタ  
ル間ヒノ辭トナルナリ、  
○食君  
倍親以適君、自宮以適君、ト並バテ見ルトキハ、殺子  
以適君トスル方穩ナルベシ、桓公嘗テ蒸兒ノ味ヲ  
嘗メント欲セシカバ、易牙其兒ヲ蒸シテ、之ヲ獻ジ  
タリ、易牙割烹ノ術ヲ以テ、桓公ニ容レラレシ

惡ヲ惡ム  
已其ス  
惡ヲ見レバ  
終身之ヲ忘  
レザルガ故  
ナリ、公曰ク  
然ラバ則チ  
孰カ可ナラ  
ン、曰ク、隲朋  
可ナリ、臣聞  
ク善ヲ以テ  
人ニ勝ツ者  
ハ、未ダ人ヲ  
服スル者ア  
ラズ、善ヲ以  
テ人ヲ養フ

求ハ、故ニカ、ル殘忍ノ牙業ヲ為セリトイヘバ、食  
君トアルモ、事ニ害ナシト雖、管仲ガ其君ニ對シ  
テイフ語氣ニ取リテハ、ウチツケニ食君トイハン  
ヨリ、婉曲ニ適君トイフ方然ルベシ、適君ハ君ノオ  
ホシメシニカナフヤウニシタリトノ義ナリ、或ハ  
云フ、桓公易牙ノ子ヲ憎ミシニヨリ、易牙之ヲ殺シ  
テ以テ、君ノ意ヲ迎合セシニテ、實ニ其肉ヲ食ハシ  
メルニハ非ズ、イカニ春秋時代ノ人情ニテモ、人ノ  
兒ヲ食フトイフハ、アルマジキ事ナリト、  
此說當ヲ得ルニ近シト雖、舊說ニ從フ、  
○倍  
音モ義モ通シテ、ウラ  
ハラニナルヲナリ、  
○豎刁  
ソレヨリ、  
ニナルナリ、  
イフ者ナリ、  
姓ト為スハ非ナリ、  
○宮  
ク墨ニニ曰ク、  
三ニ曰ク

ハ、未ダ人ヲ  
服スル者ア  
ラズ、善ヲ以  
テ人ヲ養フ

テ人ヲ養フ

ハ、未ダ人ヲ  
服スル者ア  
ラズ、善ヲ以  
テ人ヲ養フ

ハ、未ダ人ヲ  
服スル者ア  
ラズ、善ヲ以  
テ人ヲ養フ

ハ、未ダ人ヲ  
服スル者ア  
ラズ、善ヲ以  
テ人ヲ養フ

ハ、未ダ人ヲ  
服スル者ア  
ラズ、善ヲ以  
テ人ヲ養フ

ハ、未ダ人ヲ  
服スル者ア  
ラズ、善ヲ以  
テ人ヲ養フ

ハ、未ダ人ヲ  
服スル者ア  
ラズ、善ヲ以  
テ人ヲ養フ

ハ、未ダ人ヲ  
服スル者ア  
ラズ、善ヲ以  
テ人ヲ養フ

ハ、未ダ人ヲ  
服スル者ア  
ラズ、善ヲ以  
テ人ヲ養フ

ハ、未ダ人ヲ  
服スル者ア  
ラズ、善ヲ以  
テ人ヲ養フ

ハ、未ダ人ヲ  
服スル者ア  
ラズ、善ヲ以  
テ人ヲ養フ

ハ、未ダ人ヲ  
服スル者ア  
ラズ、善ヲ以  
テ人ヲ養フ

ハ、未ダ人ヲ  
服スル者ア  
ラズ、善ヲ以  
テ人ヲ養フ

者ハ未ダ人ヲ服セザル者アラマ、明ガ人ト為リ、其家ニ居テ、公門ヲ忘レズ、公門ニ居テ、其家ヲ忘レズ、君ニ事ヘテ、其心ヲニセズ、亦其身ヲ忘レズ、是、其事ニ任ズ、ベキ所、以ナリ、公曰ク、不幸ニシ

刑、四ニ曰ク宮、五ニ曰ク大辟、是ナリ、墨ハイレズ、ノ、刺ハ莫クソカ、刺ハ足ヲキルトニテ、又膠、尸イフ、宮ハ淫刑ニテ、男子ハ勢ヲ割キ、女子ハ宮中ニ幽閉スルヲナリ、大辟ハ死罪ナリ、但シ勢ハ陰、核ノ一ニテ、陰、莖ニハ非ズ、勢ヲ割クハ、キンタマヲヌク一ナリ、男子キンタマヲヌカ、トキハ、情ヲ通ズルヲ得ズ、故ニ後宮ニ仕事スル者ハ、婦女子ト相居ルヲ以テ、此刑ヲ受ケテ後ニ入ル者トス、  
床ニシテ、今ノネカイノ如キモノナリ、  
シテ第三日ニ斂シ、斂シテ而シテ後ニ葬ル、斂ハ尸ヲ棺ニ斂ムルヲナリ、殯ハカリモガリトイヒテ、塚ノ掘リテ棺ヲスエオクヲナリ、但シ葬穴ニ埋ムルニハ非ズ、

**講義** 管仲久シク桓公ニ相トシテ、威名天下ニ彰ケルガ、其後、**鴆**ニ罹リテ、命危ク見エシトキ、

テ仲父ヲ失ハシ、二三ノ大夫、其猶ホ能ク國ヲ寧ンズル者アリヤ、曰ク、鮑叔ノ人ト為リハ、直ヲ好ミ、賓客無ガ人ト為リハ、善ヲ好ミ、寧戚ガ人ト為リハ、事ヲ能クシ、孫在ガ人ト為リハ、言ヲ善クス、

桓公仲ガ枕上ニ就テ、其後任ヲ問ヒテ曰ク、多人數ノ臣下ノ中ニ於テ、誰ヲ宰相ト為シテ然ルベキヤ、寡人ガ所存ニテハ、餘人ヨリモ易牙ガ善カルベシト思フナリ、汝が見込ニテハ、孰カ可ナラン、仲對ヘテ曰ク、易牙ハ其子ヲ殺害シテ、君ノ御意ニ適ヒタル者ナレバ、人情ヲ缺キタル人物ナリ、宰相ノ任ニ當ルベカラズ、公曰ク、然ラバ、開方ガ善カルベシト思フナリ、汝が見込ニテハ、孰カ可ナラン、曰ク、開方ハ親ノ心ニ倍キテ、君ノ御意ニ適ヒタル者ナレバ、是モ亦人情ヲ缺キタル人物ナリ、其任ニ當ルベカラズト對ス、開方トハ、タバン故ノ衛ノ公子ノ其國ヲ奔リテ齊ニ來リシ者ナルベシ、サテ易牙、開方ノ二人共ニ不可ナリトノ事ナレバ、公又問ヒテ曰ク、然ラバ、我が近臣ナル刀ガ善カルベシト思フナリ、汝が見込ニテハ、孰カ可ナラン、曰ク、刀ハ自ラ宮刑ヲ受ケテ、五體ヲ不具ニシ、君ノ御意ニ適ヒタル

然レ凡皆國ヲ寧ンカ  
器量ニ非ズ  
巴ムナク  
ハ朋其可ナ  
ランカ天ノ  
照朕ヲ生カ  
ルハ以テ夷  
吾ガ舌ト為  
スナリ其身  
死セバ舌馬  
ガ生ズル  
ヲ得ンヤト  
テ、喟然トシ  
テ大息シク  
リトゾ、コ

者ナレバ、是モ亦不人情ナリ、其任ニ當ルベカラズ  
ト對ヘタリ、程ナク管仲死シケルガ、公其言ヲ用ヒ  
カシテ、卒ニ此三人ヲ親近セシカバ、三子並ビニ權  
柄ヲ專ニシテ、國政大ニ亂レタリ、且、桓公ニハ長衛  
姫、少衛姫、鄭姫、葛蕪、密姫、宋華子ト曰フ六人ノ内寵  
アリテ、權勢夫人ニ均シク、各男子アリ、公嘗テ管仲  
ト識シテ、鄭姫ノ子ヲ立テント欲セシガ、公ノ堯バ  
ルニ及ビテ、餘ノ五公子立タントテ争ヒ、各黨派ヲ  
樹テ、相攻撃シ、宮中為ニ空シクシテ、華禮ヲ行フ  
不能ハズ、公ノ尸床上ニ在リテ、之ヲ斂シ之ヲ殯ス  
ル者ナキトテ、六十七日、其尸腐敗シテ、滿身小蟲ヲ生  
ジ、室ノ戶外ニ達ヒ出テ、臭穢掩フベカラザルニ  
至リシ  
ト云フ、

自桓公八世景公有晏子者、事之名顯、字平仲、以節儉

ハ管子ノ書ニ載セタル

力行重於齊、一狐裘二十年、豚肩不掩豆、齊國之士待以

概略ナリ、蓋シ管仲ガ眼

舉火者七十餘家、晏子出其御之妻、從門間窺其夫擁大

中ニ齊國ノ大政ヲ托ス

蓋策駟馬、意氣揚揚、自得既而歸、妻請去、曰、晏子身相齊

ベキ者ハ、照朋一人ニシ

國名顯、諸侯觀其志、嘗有以自下、子為人僕、御自以為足

テ、其人モ亦已ニ衰ヘタ

妾是以求去也、御者乃自抑損、晏子怪而問之、以實對、薦

ルヲ嘆ゼシ者ト見エタ

為大夫、公使晏子之晋、與叔向私語、以為齊政必歸陳氏

リ、史記ニ載スル所ハ、史

如其言、景公後五世至康公、田和受周安王命、為侯、遷康

略ノ本文ト同ジケレバ

公海濱、以死、姜氏遂絶不祀

此ニ掲ゲズ、  
宋ノ蘇洵論

輯釋 豚肩不掩豆

豚肩ハ、アタノカタナリ、周人ハ肉ノ肩ヲ貴ブ、故ニ之ヲ祭祀ニ享ス、

ビテ曰ク、管仲桓公ニ相

豆ハ前ニモ述ベタル如ク、菹醢ヲ盛ルモノニレテ、牲肉ヲ盛ルモノニハ非ズ、然ルニ豆ヲ掩ハズトイフハ、肉ノ小ナルヲ名狀セ、

トシテ、諸侯ニ覇トシ、戎狄ヲ撲ヒ、其身ヲ終ルマ

○擁持スル  
○駟馬  
○嘗  
○舉

テ、齊國富強ニシテ、諸侯叛カズ、仲死シテ、豎刁易

○火  
○觀  
○妾  
○私語

牙開方用ヒラレ、桓公亂ニ覺ビ、五公子立タシ

リ、コ、ニテハ、トクト念  
○嘗  
○妾  
○私語

牙開方用ヒラレ、桓公亂ニ覺ビ、五公子立タシ

ニ必ズレモ人ノメカケ  
○私語

牙開方用ヒラレ、桓公亂ニ覺ビ、五公子立タシ

ニ非ズ、氏、自ラ妾ト稱ス、

牙開方用ヒラレ、桓公亂ニ覺ビ、五公子立タシ

○私語

講義

桓公ヨリハ世ヲ登テ、景公ニ至ル、晏子トイフ者アリテ、景公ニ事ス、名ハ嬰、字ハ平仲ト曰フ

ヲ争フ、其禍蔓延シテ、簡公ニ訖ルマ

節儉ニシテ奢ラズ、功行シテ怠ラザルヲ以テ、齊人ノ貴重スル所ト為ル、古昔高官ノ輩ハ、狐ノ裘ヲ服スルガ故ニ、晏子モ亦之ヲ穿ツト雖、一枚ノ裘ヲ

テ、齊寧歳ナシ、夫齊國ハ三子アル

バ、三十年ノ間着用シ、家ノ祭ニ牲肉ヲ縵スルニ當リ、豚肩ノ小ナル、俎ニ盛ルヲ要セズ、豆ニ盛リテモ、

ヲ患ヒカシテ、仲ナキ

猶ホ一パイニナラヌホドナリ、其已レ、憂スル

ヲ患フ、仲アレバ、三子者ハ三匹夫ノ

ノ如ク、儉約ニシテ、専ラカヲ國事ニ盡シ、仁政ヲ施シケレバ、齊國ノ寒士、ソノ供給ニ頼リテ、炊烟ヲ舉

ハ三匹夫ノ然ラズン

グル者、七十餘家ニ至ル、晏子嘗テ外ニ出ヅル時、其御者ノ妻、門ノ欄隙ヨリ之ヲ窺ヒ、其夫車上ニ在リテ、晏子ノ為ニ大蓋ヲ持シ、駟馬ニ繫チテ、

ハ天下豈三子ノ徒以ナカラシヤ、桓公幸ニシテ

穢揚トシテ、自縛セル様子ナリケレバ、既ニ其時ヲ過ヤテ、歸リ來ルニ及ビ、夫ニ向ヒテ離別ヲ請ヒ

バ、天下豈三子ノ徒以ナカラシヤ、桓公幸ニシテ

テ曰ク、吾ガ晏君ハ、其身齊國ノ宰相トナリテ、英名

公幸ニシテ

ニ、其志ヲ觀察スレバ、敢テ驕傲奢侈ノ念ナク、嘗ニ

公幸ニシテ

ニ、其志ヲ觀察スレバ、敢テ驕傲奢侈ノ念ナク、嘗ニ

仲ニ謀テ此  
三人ヲ誅ス  
一難氏其餘  
ノ者仲能ク  
悉ク敷ヘテ  
之ヲ去ラン  
マ、嗚呼仲ハ  
本ヲ知ラザ  
ル者トイフ  
ベレ桓公ノ  
問ニ因リテ  
天下ノ賢ヲ  
舉ゲテ以テ  
自ラ代ヘバ  
仲死スト雖  
氏齊國未ダ

自ラ謀逐シテ人ニ下ルノ色アリ然ルニ子ハ人ノ  
僕御トナリテ微賤ノ極ニ在リナガエ自ラ以テ足  
レリトセラシムルハ、淺マシキ限リナラズヤ、是妾ガ  
去ラシムルヲ求ムル所以ナリト述ベケレバ、御者大  
ニ愧ヂテ、ソレヨリ自ラ柳紉頰城ニ其舉止幾シド  
前日ノ人ト異ナリケレバ、晏子之ヲ不審ニ思ヒテ、  
其仔細ヲ尋ネケルニ、御者妻ノ言ニ感徴セシ事ヲ  
バ包マズ對ヘケレバ、晏子大ニ嘆賞シテ之ヲ薦メ  
テ齊ノ大夫トセリ、景公嘗テ晏子ヲ晉ニカシメ  
シ時、晏子晉ノ叔向ト私語シテ以テ、我が齊國ノ政  
權ハ他日必ズ陳氏ノ手ニ歸スベシトイヒケルガ  
果レテ晏子ガ言ノ如ク景公ヨリ五世ナル康公ノ  
時ニ至リ、陳ノ公子完ノ後田和トイフ者、周ノ安王  
ノ命ヲ受ケテ、諸侯ト為リ、康公ヲ放逐シテ、海濱ニ  
遷シ、其地ニ於テ死去セシメタリ、是ニ於テ、  
姜姓全ク斷絶シ、遂ニ其祀ヲ奉ズル者ナレ、

仲ナシトセ  
ズ、夫何ゾ三  
子者ヲ患ヒ  
ン言ハズシ  
テ可ナリ、賢  
者ハ其身ノ  
死スレトフ  
悲マカシテ、  
其國ノ衰フ  
ルト憂フ、  
故ニ必ズ復  
賢者アリテ  
而シテ後ニ  
以テ死スベ  
シ、彼ノ管仲  
ハ何ヲ以テ

田氏齊者本媯姓故陳厲公佗子完之後也完奔齊為陳  
氏後又以陳為田氏完事齊桓公為工正卒諡敬仲五世  
至釐子乞事齊景公為大夫其收賦稅於民以小斗受之  
其粟予民以大斗行私惠於民而公弗禁由是得齊衆乞  
專政卒子成子桓弒簡公立平公封邑大於公所食  
○**輯釋** 工正 百工ヲ主リ器用ヲ利スル官ニ  
シテ工事ヲ管理スル職掌ナリ ○**諡** 周ノ  
時ニ始マル、其人一代ノ善惡ヲ考ヘテ適當ノ文字  
ヲアツル者ナリ、死後ニ付スルヲ以テ、和クリナト  
イ、○**所食** 言多在上ノ人ハ、食ヲ田租ニ取ルヲ  
ス、○**所食** 以テ領分ノ地ヲ所食トイフ、

死スルカト

明ノ衰黄モ

亦論ジテ曰

ク仲ガ純叔

ヲ薦ノザリ

レハ蓋シ賢

ヲ蔽フニ非

ズ誠ニ叔ガ

併容スルヲ

能ハサルヲ

譏ヒテ之ニ

禍センヲヲ

畏レテナリ

是仲ガ叔ノ

為ニ計ルニ

過ギテ未ダ

講義

姜姓ノ齊ヲ奪ヒテ諸侯ト為リタル田氏ノ齊

ノ末孫ナリ完齊ニ奔リテ後其本國ノ名ヲ取リテ

陳氏ト稱シ後又陳ヲ改メテ田氏ト為ス是ハ齊ニ

於テ田トイフ邑ニ封セラレシニ因レリ完齊ノ桓

公ニ事ヘテ工正ノ官ト為リ卒レテ敬仲ト諡スソ

レヨリ五世ヲ歷テ釐子乞ニ至リ齊ノ景公ニ事ヘ

テ大夫ト為リ民政ニ與リケルガ其賦稅ヲ人民ヨ

リ徵收スルニハ家量ノ小斗ニテ受ケ取り粟穀ヲ

人民ニ貸付スルニハ公量ノ大斗ニテ予ス此ノ如

ク私情ヲ以テ恩惠ヲ行ヒケレバ景公敢テ之ヲ禁

セザリケレバ齊ノ人衆之ヲ愛戴シテ國君ヨリモ

有リ難キ者ニ思ヒタリ乞卒レテ後其子成子桓ト

イフ者簡公ヲ弑シテ平公ヲ立ツ數世以來田氏齊

ノ土壤ヲ濫食シテ此時ニ至リ桓ノ樹

絶平公ノ所食ヨリモ廣大トナレリ

恒卒襄子盤之與韓趙魏通使蓋三家且有管而田氏且

有齊也歷莊子白至太公和遂以周安王命為侯卒子桓

公午卒子威王因齊之初不治諸侯皆來伐八年楚大

發兵加齊齊使淳于髡請救于趙齊金百斤車馬十駟髡

仰天大笑王曰先生少之乎髡曰臣見道傍有穰田者操

一豚蹄酒一壺祝曰甌窶滿篝汗邪滿車五穀蕃熟穰穰

滿家臣見其所持者狹所欲者奢故笑之王乃益黃金千

鎰白璧十雙車馬百駟髡乃行

齊ノ為ニ計

ルニ及バヤ

リレナリ知

ラガ叔ニシ

テ齊ニ相々

ラバ必ズ三

子ノ亂ナカ

ルベキヲヲ

何トナレバ

叔惡ヲ惡ミ

テ忘レズ其

能ク三子ヲ

忘レンヤ昔

蜀ノ董允直

ヲ兼リテ主

ヲ匡ミ義氣





僅ニ一ノ穀蹄ト一壺ノ酒トヲ掃リテ神ニ捧ゲナ  
 カラ祝辭ヲ述ベテ曰ク高田ニ作レル穀物モ善ク  
 實リテ箕ニ滿テ低田ニ作レル穀物モ善ク登リテ  
 車ニ滿テ九ノ我が地面ニ生ズル五穀悉ク蕃熟シ  
 テ獲ヤト我が家ニ滿テシメヨト臣其所持スル品  
 一減少ニシテ願望ノ奢多ナルヲ見今之ヲ思ヒ出  
 グレテ覺エズ一笑ヲ發セシナリト暗ニ威王が國  
 ノ安危ニ臨ミ謀儀ヲ致シテ趙ノ援兵ヲ得ントス  
 ルノ迂拙ナルヲ諷刺シタリケレバ王之ヲ悟リ  
 テ更ニ黄金千鎰白壁十對馬車用ノ良馬四百頭ヲ  
 増加セリ是是ニ於テ命  
 ヲ奉ジテ趙ニ赴キケル  
 時齊國幾不振王乃召即墨大夫語之曰自子之居即墨  
 也毀言日至然吾使人視即墨田野辟人民訟官無事東

シテ内外ノ諸臣ト為シ桓公ヲシテ與ニ政務ニ  
 追勉セシメサルベカラズ桓公オアリト雖氏管仲ナカリマバ霸業成ルベカラズ其昔ヨリ入テ立ツノ日ハ恢復ノ念熾ニニシテ聲色ニ耽ルノ

暇ナカリレト雖氏在位四十年ノ久シキニ及ビ人情心漸ク生シ三小人ヲ親近シ六内寵ヲ肇幸シテ初志ニ異ナル者甚ダ多シ然レ氏善ク管仲ニ任ジテ一ニモニニモ仲父トイヒシヲナレバ

方寧是子不事吾左右以求助也封之萬家カ阿大夫語之曰自子之守阿譽言日至吾使人視阿田野不辟人民貧餒趙攻野子不救衛取薛陵子不知是子虐幣事吾左右以求譽也是日烹阿大夫與嘗譽者群臣從懼莫敢飾詐齊大治諸侯不敢復致兵

**輯釋** 幾 近シトイフ意味ヲ含ミタル辭ナリ幾不振トスル形勢ナリトイフナリ  
**辟** 關ノ字ト同キトビキタ  
 ○從懼 衆ハ悚ナリゾツトシルヲイフ  
 ○從懼 衆ハ悚ナリゾツトシルヲイフ

十八史記卷之六 齊世家 九

仲宣是時ニ  
於テ國家將  
來ノ事ヲ經  
營レ難キヲ  
アラシメ、縱  
令其舉グル  
所ノ人仲ノ  
器ニ及バズ  
氏、群賢朝ニ  
滿テテ桓公  
ヲ輔翼セバ、  
仲歿スルノ  
後一敗シテ  
大事ヲ誤ル  
ニ至ラシヤ、  
故ニ余ハ仲

**講義** サテモ是時齊國大ニ衰微シテ、モハヤ振起ス  
バ、威王發憤シテ、恢復ニ志シ、内治改良ノ手始メト  
シテ、即墨ノ大夫ヲ賞シ、阿ノ大夫ヲ罰シタリ、其實  
罰ヲ行フニ當リ、先ヅ即墨ノ邑ヲ守レル大夫某ヲ  
召シ出ダシテ之ニ語りテ曰ク、子ガ即墨ニ居リテ  
ヨリ、子ガ施設ヲ謀毀スルノ言、日ゴトニ吾ガ耳ニ  
入リシカ、氏、吾之ヲ信セズシテ、密ニ人ヲ遣ハシテ  
即墨ノ様子ヲ按察セシメシニ、田野ノ開拓善ク行  
キ届キテ、人民ノ供給餘リアリ、官衙靜肅ニシテ、我  
ガ東方ノ土地安寧ナリ、其レ此ノ如ク治績拔群ニ  
レテ、及リテ辱シキ評判ノ聞エレハ、全ク子ガ寡人  
ノ近臣ニ賄賂ヲ致シテ、補助ヲ求ムルナカリシ  
ガ故ナリ、是甚カ嘉スベキナリトテ、人口一萬家  
ノ珠池ヲ某ニ予ヘタリ、次ニ阿ノ邑ヲ守レル大夫  
某ヲ召シ出ダシテ之ニ語りテ曰ク、子ガ阿ヲ守リ

ガ臨終ノ一  
言ヲ以テ其  
得失ヲ論ゼ  
ズ、十數年ノ  
前ニ於テ、早  
ク之ガ計畫  
ヲセザリシ  
トテ憾トス  
ルナシ、是嬰  
其身ヲ處ス  
ルニ節儉カ  
行ヲ本トシ、  
一狐裘三十  
年、豚肩豆ヲ  
掩ハズ、是甚  
カ嘉スベキ

テヨリ、子ノ行為ヲ稱譽スルノ言、日ゴトニ吾ガ耳  
ニ入ル、吾密ニ人ヲ遣ハシテ、阿ノ様子ヲ按察セシ  
メシニ、田野葺菜ニ委シ、物産興ラズ、人民皆貧苦凍  
餒ノ狀アリ、趙鞅ノ地ヲ攻メシ時、子之ヲ傍觀シテ  
救援セズ、衛薛陵ノ地ヲ取リシ時、子之ヲ知ラズ、其  
レ此ノ如ク曠職素餐ニシテ、及リテ善キ評判ノ聞  
エシハ、全ク子ガ常ニ幣物ヲ厚クシテ、寡人ノ近臣  
ニ鑽入シ、以テ虚榮ヲ求メシガ故ナリ、是甚カ咎ム  
ベキナリトテ、即日ニ阿ノ大夫ト稱テ之ヲ稱譽  
セシ者トテ、錮鎖ニ投ジタリケレバ、滿朝ノ群臣悚  
然トシテ、聳懼シ、是ヨリ敢テ詐ヲ飾ル者ナク、齊國  
大ニ治マリ、諸侯敢テ復來寇スル者ナカリケル、

威王與魏惠王會于郊。惠王曰：齊有寶乎？王曰：無有。惠  
王曰：寡人國雖小，猶有徑寸之珠，照車前後各十二乘者。

十枚威王曰寡人之寶與王異五臣有檀子者使守南城

楚不敢為寇泗上十二諸侯皆來朝有盼子者使守高唐

趙人不敢東漁於河有黔夫者使守徐州則燕人祭北門

趙人祭西門有種首者使備盜賊道不拾遺此四臣者將

照千里豈特十二乘哉惠王有慚色。

輯釋田畝ト同シ○郊城外ノ地ナリ一説ニ地名ナリト云ス○枚一トイフ

枚トイス今一枚二枚トイハバ紙ノ如キ薄キモノ、數ニ限ルト思フ人モアレド、サニアラズ、○

盼子盼ハ當ニ盼ニ作ルベシ、齊ノ將田盼ノ事ナリ、陳殷ノ音釋ニ、盼ハ盼ト同シ讀ムト、盼ノ如シ

策ウツモ亦時トシテハ為サルベカラズ、只之ヲ以テ意氣揚々タルハ深ク愧ヅベキ所ナリ、須ク恭謙自ラ省リ

ニテ他日大ニ為スアラシト望ムベシ、世ノ無識ノ徒總ニ賤官微職ヲ得テ其志頓

トアルハ、誤リナリ、勝ト勝トハ各別字ナリ、盼ノ字ハナク、盼ノ字ハアリテ、其音ハ「ヘ」ナリ、即チ田盼ノ盼ト同シ音ナリ、檀子ト曰ヒ、盼子ト曰ヒテ、子字ヲ加ヘタルハ古者大夫皆子ト稱セシヲ以テナリ、

講義 威王嘗テ魏ノ惠王ト城外ノ地ニ會合シテ、傲廣大ナル、定メシ珍奇ノ異寶アラシ、果シテ何々ナリヤ、威王答ヘテ曰ク、何モナシ、惠王曰ク、寡人が國ハ小ナリト雖、尺ソレテサヘ、道經一寸ノ銘、銖十枚アリ、其一枚ヲ車上ニ懸クルトキハ、暗夜ニ光明ヲ放チテ、車ノ前後十二輛ノ間ヲ照ラシ、燭ナクシテ道ヲ行クヲ自在ナリ、餘ノ九枚モ皆同シト、誇耀シテ述ベケレバ、威王乃チ答ヘテ曰ク、寡人が貴重スル寶物ハ、王ノ愛玩セラル、者ト異ナリ、吾が臣下ニ檀子トイフ者アリテ、南城ノ地ノ守ト為シ置ケルニ、楚人敢テ其近傍ナル泗水ノ上ニ寇セズ、其訪

ルニ、楚人敢テ其近傍ナル泗水ノ上ニ寇セズ、其訪

ルニ、楚人敢テ其近傍ナル泗水ノ上ニ寇セズ、其訪

ルニ、楚人敢テ其近傍ナル泗水ノ上ニ寇セズ、其訪

ルニ、楚人敢テ其近傍ナル泗水ノ上ニ寇セズ、其訪

ルニ、楚人敢テ其近傍ナル泗水ノ上ニ寇セズ、其訪

ニ驕ル者必  
カラズ御者  
ノ妻ニ懸ツ  
ル多シ晏  
嬰叔向ト談  
シテ齊政ノ  
陳氏ニ歸セ  
シトヲ私語  
セシハ偶然  
ニ非ズ是時  
登子乞景公  
ニ事ハ天私  
惠ヲ民間ニ  
施キ家量ヲ  
以テ貸シ公  
量ヲ以テ收

趙人敢テ東ノ方河水ニ臨ミテ魚ヲ捕ラズ又黔夫  
トイフ者アリテ徐州ノ守ト為シ置ケルニ燕人ハ  
我が北方ノ城門ヲ祭リ趙人ハ我が西方ノ城門ヲ  
祭リテ各弊邦ノ侵伐ナキトヲ冀ヘリ又種首トイ  
フ者アリテ盜賊ノ警備ト為シ置ケルニ國中ノ人  
民敢テ其禁令ヲ犯サズ道路ニ遺タル物アリ氏私  
ニ拾フトナシ是四臣ハ實ニ寡人が至寶ニシテ一  
人各千里ノ遠ヲ照サントスル者ナリ豈特ニ車ノ  
前後十二輛ノ間ノミニ止ランヤトテ惠王ヲ歴シ  
ケレバ惠王赧然トシテ慚ル色アリシトナリ十二  
諸侯ハ國踰詳ナラズ燕ハ齊ノ北ニ在リ故ニ北門  
ヲ祭リ趙ハ齊ノ西ニ在リ故ニ西門ヲ祭リシトバ  
威王卒子宣王立喜文學游説之士騶衍淳于髡田駢慎

ム實ニ齊國  
ノ罪人ナリ  
權衡度量ハ  
國各定制ア  
リ若シ之ヲ  
私スル者ア  
ラバ宜シク  
之ヲ律ニ問  
フベシ然ル  
ニ景公之ヲ  
禁ゼザリシ  
ハ田完以來  
數世ヲ歷テ  
田氏ノ威勢  
既ニ公ノ制  
スルヲ能ハ

到之徒七十六人皆爲上大夫是以齊稷下學士盛且數  
百千人然而孟子至而不能入

權衡度量ハ  
國各定制ア  
リ若シ之ヲ  
私スル者ア  
ラバ宜シク  
之ヲ律ニ問  
フベシ然ル  
ニ景公之ヲ  
禁ゼザリシ  
ハ田完以來  
數世ヲ歷テ  
田氏ノ威勢  
既ニ公ノ制  
スルヲ能ハ

百千人然而孟子至而不能入

輯釋游説  
リ論說陳說說法說教ナド、イヒテ一ツノハナシト  
ナリ又ハモノゴトヲトキアカス義トナルトキニ  
ハ音ゼツトナリ言語ヲ以テ人ヲ諭シテ已ニ從ハ  
シムル義トナルトキニハ音ゼイトナリ悦ト通ズ  
ルトキニハ音エツトナリ脱ト通ズル  
トキニハ音カツトナル混ガベカラズ

講義  
威王卒シテ其子宣王立ツ王甚ダ文學游説ノ  
士ヲ喜ミケレバ騶衍淳于髡田駢慎到ノ輩來

游スル者七十六人皆舉ケラレテ上大夫ト爲ル王  
ノ士ヲ待ツ此ノ如キヲ以テ齊ノ稷下ノ館閣ニ足

士ヲ待ツ此ノ如キヲ以テ齊ノ稷下ノ館閣ニ足

士ヲ待ツ此ノ如キヲ以テ齊ノ稷下ノ館閣ニ足

士ヲ待ツ此ノ如キヲ以テ齊ノ稷下ノ館閣ニ足

士ヲ待ツ此ノ如キヲ以テ齊ノ稷下ノ館閣ニ足

ガリシ者ト見エタル淳子魁が趙ニ使スルトキ、成王が饒遺ノ僅少ナルヲ見テ穰田ノ喻ヲ引ケ之ヲ諷ス、此一事ヲ以テ當時ノ人情ヲ推シ測ルニ足ルベシ、夫諸侯ノ幾急相救フハ固ヨリ公義

留ムル學士ノ數、幾百千ニモ及バントスルホド盛シナリ、然ルニ孟子是國ニ來リテ、説クニ仁政ヲ以テセシカド、王遂ニ之ヲ用フル能ハズ、授ハ齊ノ城門ノ名ナリ、又山ノ名ナリ、又イフ、魏伐韓、韓請救於齊、齊使田忌爲將以救韓、魏將龐涓嘗與孫臏同學兵法、涓爲魏將軍、自以所能不及以法斷其兩足而黥之、齊使至魏、竊載以歸、至是臏爲齊軍師、直走魏都、涓去韓而歸、臏使齊軍入魏地者爲十萬、龐明日爲五萬、龐又明日爲二萬、龐涓大喜曰、我固知齊軍怯、入吾地三日、士卒亡者過半矣、乃倍日并行逐之、臏度其行暮當

正道ニ由ル安ゾ黃金車馬ノ多少ヲ以テ之ガ向背ヲ爲サシ、然ルニ魁ガ之ヲ要スル所以ノ者ハ贈報ノ厚薄實ニ成敗ノ機ニ關スレバナリ、堂々タル諸侯既ニ此ノ如シ、其餘ハ何ソ論ズルニ足

至馬陵道陝而旁多阻、可伏兵、乃斫大樹白而書曰、龐涓死此樹下、今齊師善射者萬弩、夾道而伏、期暮見火舉而發、涓果夜至、斫木下見白書、以火燭之、萬弩俱發、魏師大

亂、相失、涓自剄曰、遂成堅子之名、齊大破魏師、虜太子申、

輶釋臏、廣ハ刑ノ事ニテ、臏蓋○黥額ニ入墨ス

倍日并行、二日ノ里程ヲ一日ノ間ニ操リ上クルヲイフ、○弩ハシキ弓ナ

ノ如ク、ハシキガネアリ、○堅子童堅ナリ、孫子ヲ斥テ、矢ヲ射出ス者ナリ、○堅子レヲイフ、今アノ小

僧メガトイ、○虜ヲ虜トイフ、

フニ同ジ、

ラニ威王即  
墨ノ大夫ヲ  
賞シ阿ノ大  
夫ヲ罰スル  
ヲ以テ明ノ  
方孝肅ハ霸  
者ノ餘術ト  
為レテ曰ク  
賢者ハ特ニ  
即墨ノ大夫  
ノミニ非ズ  
不賢者ハ特  
ニ阿ノ大夫  
ノミニ非ズ  
左右ノ毀譽  
ニ因リテ此

二人ヲ賞罰  
ス其他賢ナ  
ルヲ即墨ニ  
過ギ不賢ナ  
ルヲ阿ヨリ  
モ甚シキ者  
アリ尺不幸  
ニシテ左右  
言ハザレバ  
賞罰スル所  
ナシ威王豈  
智アル者ト  
ヤンヤト余  
以為小臣ノ  
舌頭ニ動カ  
サレテ賢ヲ

**講義**

魏韓ヲ伐ツ韓救ヒテ齊ニ請フ齊田忌ヲ將ト  
シテ韓ノ急ヲ救ハシム是ヨリ先キ魏ノ將龐  
涿嘗テ孫子ト與ニ兵法ヲ學ビケルガ魏ノ將軍ト  
為ルニ及ビテ自ラ破散ノ孫子ニ及バザルヲ知  
リ彼ニ制セラレンコトヲ恐レテ事ヲ構ヘテ法網ニ  
陥イレ其兩足ヲ斷テ其額ニ入墨シテ之ヲ放チタ  
リケレバ時人其名ヲ呼バカレテ孫臆トゾイヒニ  
ケル其後齊ノ使者魏ニ至リテ其軍學ニ長ゼルヲ  
聞キ人知レズ車中ニ載セテ歸リケルガ今ヤ魏ヲ  
伐チ韓ヲ救フニ當リ之ヲ推シテ軍師ト為シ直チ  
ニ魏ノ都ヲ指シテ馳セ行キ又涓臆ガ齊軍ニ從ヒ  
テ本國ニ攻メ入ルト聞キ韓ヲ去リテ魏ニ歸ル臆  
乃チ一策ヲ運ラシ齊ノ人數ノ魏ニ入ル者ニ命ジ  
テ第一日ニハ野營ニ十萬ノ炊竈ヲ為ラシメ第二  
日ニハ少シク陣ヲ退ケテ五萬ノ炊竈ヲ為ラシメ  
第三日ニハ又少シク陣ヲ退ケテ二萬ノ炊竈ヲ為

ラシメカク漸々ニ竈數ヲ減ジテ士卒ノ散亡スル  
狀ヲ示シ而シテ後ニ其陣ヲ撤シテ魏ヲ去ラント  
スル狀ヲ為シケレバ涓大ニ喜ビテ曰ク我々タシカ  
ニ齊兵ノ怯懦ナルヲ知リタリ吾ガ地ニ入りテ  
ヨリ僅ニ三日ニシテ其士卒亡グル者半ニ過ヤス  
今之ヲ尾擊セバ必ズ全勝ヲ得ルニ疑ナシトテ即  
チ一日ノ間ニ二日ノ里程ヲ兼行シテ逐ヒカケタ  
リ臆豫ノ涓ガ逐ヒ來ルベキ行程ヲ度リ見ルニ其  
日ノ暮ニ馬陵マデ達スベシ此地道路隘隘ニシテ  
左右ニ險阻多ク伏兵ヲ設クルニ便ナリ善シ是ニ  
テ要擊ヤントテ乃チ馬陵ノ一大樹ノ皮ヲ斫リテ  
木ノ膚ヲ白クシ龐涓死シ此樹下トイフ六字ヲ大書  
シ齊ノ人數ノ中ニ於テ射術ニ長シタル者ヲ論選  
シ左右ノ險阻ニ據リ道ヲ夾ヒテ一萬ノ弩弓ヲシ  
カケ黄昏ニ火鼓ノ舉ルヲ見ルヤ否ヤ一度ニ之ヲ  
發スベシト約束ヲ定メ各用意ヲ整ヘタリカク氏

一ノ見  
卷之六  
十四  
魏成官

退ケ佞ヲ進  
ハル者古來  
少レトセズ  
威王ガ此舉  
固ヨリ霸者  
ノ餘術ヲ免  
カレバト雖  
氏亦大ニ見  
ルヰヤ呀ア  
リ且史ニ此  
一事ヲ掲ゲ  
タリトテ必  
ズレモ左右  
言ハサレバ  
賞罰スル所  
ナカリレ者

知ラズ龐涓ハヒタ逐ヒニ逐ヒカケ來リ果レテ膺  
ノ度リシ如ク日暮レテ馬陵ニ達シ大樹ノ下ニ至  
リケルガ其白キ所ニ文字アルヲ見テ何心ナク狄  
ヲ以テ之ヲ燭ラシ見ルニ豫テ待テ設ケタルナ  
レバ火影ヲ相圖ニ一萬ノ弩弓一度ニ發シケ  
レバ何カハ以テタマルベキ魏ノ軍勢ハ恰モ鼎ノ  
沸クガ如ク敵味方ヲ見失ヒテ進退繼ニ谷リケレ  
バ涓自ラ劍ヲ拔キテ鏖ネタリ其死ニ臨ミテ謂テ  
曰ク遂ニ堅子ガ名ヲ成シヌトテ向キニ孫子ヲ殺  
サハリシヲ悔イニケル是ニ於テ齊ノ師大ニ魏  
ヲ破リ太子申ヲ虜  
ニシテ覺旋セリ

ト斷按テ下  
スニモ及バ  
ガルナリ  
才氏ノ論恐  
ラクハ酷ト  
ルナキヲ得  
ンヤ孫子龐  
涓ト兵法ヲ  
學ビ涓其又  
バナルヲ以  
テ孫子ノ足  
ヲ斷テ面ニ  
黥シ終身廢  
棄セシメン  
トセシハ小  
人ノ所為ト

宣王卒涓王立靖郭君田嬰者宣王之庶弟也封於薛有子  
曰文食客數千人名聲聞於諸侯號爲孟嘗君秦昭王聞

其賢乃先納質於齊以求見至則止囚欲殺之孟嘗君使

人抵昭王幸姬求解姬曰願得君狐白裘獻孟嘗君嘗以

獻昭王無他表矣客有能爲狗盜者入秦藏中取裘以獻

姬姬爲之得釋即馳去變姓名夜半至函谷關關法鷄鳴

方出客恐秦王後悔追之客有能爲鷄鳴者鷄盡鳴遂發

傳出食頃追者果至而不及孟嘗君歸怨秦與韓魏伐之  
入函谷關秦割城以和孟嘗君相齊或毀之於王乃出奔  
輯釋質 質ハシツトトトノ三音アリ、性、質ノ義  
トナルトキニハ、シツノ音トナリ、質、攝ノ義

イフベシ孫  
子ノ略ハ方  
十ノ中ニ在  
リ手ナク足  
ナク耳ナク  
目ナシト氣  
息未ダ絶エ  
ザル間ハ必  
不當ニ報マ  
ル所アルマ  
シ宜ナルカ  
ナ馬陵ノ一  
舉消ヲミテ  
身ヲ脱スル  
ニ地ナカラ  
シメシト明

トナルトキニハ「子」ノ音トナリ、進物ノ義トナルト  
キニハ「子」ノ音トナル本文ニ納質於齊トアルハ即  
チ「子」トジチヲ齊ニ入レタル義ニテ、子ノ音ナリ、但  
シ「子」トモツトイヒトジチトイフモ、既ニ其音ヲ  
誤リタルニテ、「子」ハ「子」ノ轉ジタル音ナレバ、性  
質ノ義トナルナリ、サレド今耳新ラシク「子」モツト  
トチナドイヒタリトテ、通ゼザレバ、センカタ  
ナケレバ、書ヲ讀ム者ハ、心得置クマキナリ、  
姫女子ハ各、其本姓ニ從フガ常ニシテ、何姫トイフ  
姓ニシテ、當時他姓ヨリモ貴カリシヲ以テ、イッ  
カ姫姓ノ女子ニアラザル者マデモ、姫ノ字ヲ用ヒ  
テ、婦人ノ美稱ノヤウニ呼ビナシテ、寵幸ノ婦人ヲ  
幸姫寵姫ナド、イフニ至レリ、我が國ニテ「子」ト  
イフコトバニ姫ノ字ヲアテタル  
ト、此稱呼ノ推シ移リタルナリ、  
○傳ガ驛ト遮ナリ、傳  
ヲ發ストハ

ノ唐順之曰  
久孫子ガ麗  
涓ヲ築ル、  
燭ノ照ラシ  
蠶ノトスル  
ガ若シ何ゾ  
其明ナルヤ  
然レ氏人ヲ  
糝ルニ明ニ  
シテ、巳ヲ料  
ルニ昧シ早  
ク患ヲ刑セ  
ラル、ニ救  
フヲ能ハズ  
古人其賤ヲ  
見ザルノ譏

宿次ノ旅客ヲ通行セシメシナリ、陳  
殷ノ音釋ニ、驛券トアルハ非ナリ、  
○鷄鳴方出客  
於ハ「子」ヤウド、イフ義ナレバ、チヤウド鷄ノ鳴  
ク頃ニ、旅人ヲ關所ヨリ出ダストイフナリ、  
講義 宣王卒シテ、滑王立ツ、宣王ノ庶弟田嬰トイフ  
者、薛ノ地ニ封ゼラレテ、靖郭君ト號ス、男子ア  
リ、名ヲ文ト曰フ、客ヲ寄ミテ、常ニ數千人ヲ寄給セ  
シム、其名聲諸侯ニ聞エテ、孟嘗君ト號ス、秦ノ昭王  
其賢ナルヲ傳聞シ、人質ヲ齊ニ納レテ、之ヲ招キタ  
リ、戰國ノ頃ハ、人心危疑ノ念慮深クシテ、動モスレ  
バ、入質ヲ交換スル風習アリ、其人質トイフハ我が  
方ニテ大切ナル人ヲ、先ノ國ニ托シ置キテ、其異心  
ナキヲ表スルナリ、サレド人質モ亦恃ムニ足ラ  
ズ、往々之ヲ餌ニシテ、他ヲ欺クナリ、サレ  
昭王ハ、孟嘗君ヲ召ビ迎ヘケルガ、其至ルニ及ビテ、  
之ヲ獄ニ下シ、殺害セント謀リケレバ、孟嘗君大ニ



アル所ヲ以テ  
リト余謂フ  
涓ガ孫子ヲ  
刑セシハ孫  
子ガ與リ知  
ラザル所ナ  
リ孫子素涓  
ト俱ニ學ビ  
タリシトナ  
レバ其招キ  
ニ應ジテ來  
ルハアルバ  
キトナリ豈  
初メヨリ涓  
ガ奸計アル  
ト知ラン

愕キテ竊ニ人ヲ昭王ガ寵愛ノ婦人某ノ詐ニ擬ラ  
シメテ救解ヲ求メサセケルニ婦人曰ク君ガ依頼  
ハ承諾セリソレニ就テハ報酬トシテ先ヅ君ガ有  
スル狐ノ腋ノ白毛ヲ集メテ織リナシタル裘ヲ所  
望ナリト答ヘタリ察スルニコハ孟嘗君ガ嘗テ昭  
王ニ獻ヤシモノニシテ此婦人久シク之ヲ望ミ居  
タリシモノト見ユ然ルニ此裘只一領ノミニシテ  
今復獻ジ難カリケレバ孟嘗君如何ハセント心ヲ  
苦シメケルニ隨行ノ食客中能ク狗ノマネヲシテ  
物ヲ盜ムニ長タル者アリテ秦ノ寶藏ニ忍ビ入り  
其裘ヲ取リ來リケレバソシラヌ顔ニテ之ヲ獻  
ジケルニ婦人大ニ悦ビテ孟嘗君ノ為ニ昭王ニ請  
ヒテ釋リル、トヲ得タリ孟嘗君獄ヲ脱スルヤ否  
ヤ即時ニ秦ノ都ヲ馳ヤ去リ姓名ヲ變ジテ夜半ニ  
函谷關マデ至リケルガ関所ノ規則トシテ毎曉ナ  
ヤウド鶏ノ鳴ク頃ニ始メテ旅客ヲ関外ニ出カス

ヤ縱令何程  
兵法ニ達シ  
タリ凡此禍  
ヲ免ルバキ  
ニ非ズ故ニ  
其穿中ニ陷  
イリシヲ以  
テ巴ヲ料ル  
ニ味レトス  
ルハ當ラガ  
ルトナ山田  
文ノ秦ニ入  
リシハ昭王  
ノ延請ニ因  
ル初昭王  
文ガ賢ナル

定メナレバ時トホ早クシテ未ダ出カサルベクモ  
アラズサリトテ是ニ蹶躄セバ昭王必ズ後悔シテ  
追ヒ來ルベシト大ニ恐レ居タルヲリシモ又隨行  
ノ食客中能ク鶏ノ鳴キ聲ヲスル者アリテ関ノア  
トタニ時ヲツクリケレバ四近ノ群鶏曉ニ向ヒタ  
リトヤ思ヒケン盡ク羽ヲキレテ鳴キ立テケレ  
バ関吏ハ之ニ欺カレテ遂ニ真夜中ニ驛傳ハ旅客  
ヲ通行セシメケル孟嘗君関ヲ出デ、張燈ヲ喫ス  
ル頃ニ及ビ秦ノ追手果シテ函谷關ニ至リシカド  
既ニ去リヌト聞テ力及バヌ都ニ反ル孟嘗君齊ニ  
歸リテ後深ク秦ノ所為ヲ怨ミ韓魏兩國ト兵ヲ合  
セテ之ヲ伐テ函谷關ヲ打破リテ内地ニ攻メ入り  
ケレバ秦河東ノ三城ヲ割キ與ヘテ和議ヲ講ジタ  
リ其後孟嘗君齊ニ相トシテ文ノ名天下ニ重シト  
イフミキ程ニ盛ナリケルガ或ル人之ヲ潘王  
ニ毀リシカバ乃チ其國ヲ去リテ魏ニ奔リタリ

ヲ開入涇陽 君ヲ齊ニ質  
タラシメテ  
以テ請ヒク  
レバ、文來リ  
テ秦ニ入ル  
昭王以テ丞  
相ト為ス、或  
ル人王ニ謂  
テ曰ク、孟嘗  
君秦ニ相タ  
ラバ、必不齊  
ヲ先ニシテ  
秦ヲ後ニセ  
ニ、其危イカ  
ナト、王乃小

文ヲ囚ヘテ  
之ヲ殺サン  
ト欲セシナ  
リ、宋ノ尹起  
莘曰ク、田文  
ハ齊ノ臣ニ  
シテ、且又齊  
ノ族屬ナリ  
是時秦方ニ  
天下ヲ併吞  
スルノ志ア  
リ、文嘗ニ齊  
君ニ告ケテ  
カメテ其請  
ヲ辭スバシ  
齊君秦ニ迫

滑王滅宋而驕、燕昭王以齊嘗破燕之故、與諸侯合謀而  
攻齊。燕軍入臨淄，滑王走莒。楚將淖齒救齊，及殺滑王而  
與燕共分齊之侵地。王孫賈從滑王於莒，而失王處，其母  
曰：「汝朝出而晚來，吾則倚門而望。汝暮出而不還，吾則倚  
閭而望。汝今事王，王走汝，不知處，汝尚何歸？」馬賈乃攻淖  
齒，殺之，求滑王子，法章而立之，保莒以抗燕。

輯釋 倚門倚閭

倚ハ物ニヨリカ、リテモタレル  
門ハ家門、閭ハ里門ナリ、

講義

滑王宋ヲ滅ボシテ、其志驕リ、南楚ヲ侵シ、西三  
晉ヲ侵シテ、將ニ周室ヲ并吞セントスル勢ナ

リケルガ、燕ノ昭王嘗テ其國ヲ齊ニ破ラレシ故ヲ  
以テ、秦魏韓趙ノ四國ト謀議ヲ通ジ、齊ノ都臨淄ニ  
攻メ入リケレバ、滑王國中ノ衆ヲ悉シテ、之ヲ拒ギ  
ケレバ、遂ニ大敗シテ莒ニ走ル。時ニ楚ノ將淖齒齊  
ヲ救フヲ名トシテ、及リテ滑王ヲ殺シ、其侵シ取リ  
タル齊ノ土地ヲバ、燕ト共ニ分チタリ、滑王ノ臣王  
孫賈王ニ從ヒテ走リケルガ、途中ニ於テ、王ノ所在  
ヲ見失ヒ、空シク其家ニ歸リ來リシニ、其母之ヲ責  
メテ曰ク、汝朝ニ我が家ヲ出デ、晚ニ還リ來レバ、  
吾家ノ門ニ倚リカ、リテ、之ヲ望見シ、汝ヲ待ツト  
實ニ切ナリ、汝日暮ニ我が家ヲ出デ、還リ來ラザ  
レバ、吾里ノ門ニ倚リカ、リテ、之ヲ望見シ、汝ヲ待  
ツト又愈切ナリ、母ノ子ヲ思フノ情此ノ如シ、臣ノ  
君ヲ思フト、豈之ニ減ゼンヤ、然ルニ汝國王ニ事ヘ  
ナガラ、王出走シテ、汝其所在ヲ知ラズ、汝何ノ顔ア  
リテカ歸リ來レルヤト、痛ク勵マシタリシカバ、賈

ラレテ從ハ  
ガニバ、則チ  
當ニ秦ニ入  
リタル後ニ

於テ秦君ニ  
辭シテ可ナ  
リ安ッ隣敵

旦人ノ國ニ  
入リ、驪ニ相  
位ニ居リテ

危辱ノ禍ヲ  
キテアラシ  
キト、其秦ヲ

脱スルニ當  
リテ、二客ノ

カニ頼リタ  
ルヲ、宋ノ

蘇軾論ジテ  
曰ク、孟嘗君

ガ賓礼スル  
所ハ、鷄鳴狗

盗ニ至ルマ  
テ皆客ノ禮

ヲ以テ之ヲ  
食フ、其士ヲ

取ル、亦隨  
以然レ、此

二人ナカリ  
セバ、幾ンド

死ヲ脱セズ  
是時ニ當リ

慚愧感激シテ、直チニ市中ニ入り、同志四百人ヲ得  
テ、淖齒ヲ攻メ殺シ、湣王ノ子法章ヲ搜求シテ、齊王  
ト為シ、莒城ヲ保守シテ、燕軍ニ抗對シ、我が王已ニ  
立チテ莒ニ在リト、普ク國中ニ布告シタリケル、

特齊城惟莒即墨不下、即墨人推田單為將軍、身操版鍤、

與士卒分功、妻妾編於行、收城中得牛千餘、為絳繒衣、

畫五彩龍文、束兵刃其角、灌脂束葦於尾、燒其端、鑿城數

十六、夜縱牛、壯士隨其後、牛尾執炬、奔燕軍、所觸盡死傷、

而城中鼓譟從之、聲振天地、燕軍敗走、七十餘城皆復為

齊、迎襄王於莒、封單為安平君。

輯釋

版鍤

版ハ牆ヲ築ク版ナリ、鍤ハ牆ヲ築ク鍤ナリ、今土手ヲ築クニ、先ツ版クアテガヒテ

土ヲ盛リテ、版ト鍤トノ用ヲ知ルマシ、躬ヲ版鍤ヲ操

ルトハ、即チ城普講ノ分功、勞役ヲ分擔、○編於行

伍、編ハ組ミ入ル、トナリ、伍ハ五人組ナリ、行伍

脂、アブラナリ、説文ニ、角ヲ戴ク者ヲ脂ト曰ヒ、角ナ

ク者ヲ膏トイフナリ、正字通ニハ、禽獸ノ脰ノ凝リタ

ル者ヲ脂ト為シ、釋ケタル者ヲ膏ト為ストアリテ、

角ノ有無ニ關セズ、サレド脂ヲ准ガトアリテ、塗リ  
ツケタルニ非ヤルヲ見レバ、コ、ニイフ脂  
ハ、水油ノ如ク溶解シタル者ヲイフナリ、

云道德禮義ノ士ト雖凡之ヲ用フル所ナレ然レ凡道德禮義ノ士ハ當ニ之ヲ未ダ危カラサルニ救フマレ亦此士ヲ用フルト無キナリト西氏善ク田文ヲ論ズル者トイフベシ潘王ノ言ニ走リ

講義 是時ニ當リテ齊ノ諸城皆燕ニ屬レ惟、昔ト即墨トノ二城ノミ、未ダ降ラザリケルガ、即墨ノ人田單トイフ名士ヲ推シテ、將軍ト為シ、カバ、單身ヲ版鍤ヲ操リテ、城牆ノ築營ヲ為シ、部下ノ士卒ト勞役ヲ分ナテ、艱苦ヲ厭ハズ、妻ト妾トハ、行陣ノ軍伍ニ編入シテ、人數ノ不足ヲ補ヒ、サテ城中ノ牛ヲ救ノテ、一千餘頭ヲ得タリケレバ、鮮澤ノ衣ヲ為リ、五彩ノ龍文ヲ畫キテ、之ニ被ラシメ、其角ニハ兵刃ヲ味縛シ、其尾ニハ葦草ヲ束縛シテ、之ニ脂油ヲ澆キカケ、城ニ數十所ノ横穴ヲ掘リ鑿チテ、其牛ヲ穴ノ口ニ向ハシメ、夜ニ入リテ後、其尾ノ葦端ニ火ヲ點ジケレバ、牛尾焦熟シテ、大ニ怒リ穴ヲ脱シ外ニ奔リテ、燕軍ニ衝突シ、縱横狼藉ニ狂ヒ廻リケレバ、其角ニ觸ル者皆刀劍ニツンザカレテ、或ハ即死シ、或ハ負傷ス、其時カネテ牛ノ後ニ隨ヒ居タル壯年ノ兵士ヲ始メ、城中ノ人々群呼シテ之ニ從ヒ

三時、王孫賈從亡シテ、其所ヲ失ヒケルガ、慈母ノ一言ニ因リテ、遂ニ淖齒ヲ殺シ、潘王ノ子ヲ立ツ、蓋シ田單、火牛ノ計モ、嗣君ナクシバ、即墨ノ衆ヲ一致シテ、此大功ヲ奏スルト、餘ハ盛ニナル

無ニ無三ニ攻メ立テケレバ、其聲天地ニ鳴リワタリテ、山谷モ壞ル、バカリナリ、燕軍田單ノ奇計ニ遇ヒテ、其牛ナルトヲ知ラズ、非常ノ怪物見ハレ出デタリト心得テ、敢テ一人モ之ニ向フ者ナク、總クツレトナリテ、本國ニ逃ゲ去リケレバ、齊人亡ルヲ追ヒ北ルヲ逐ヒテ、過グル所ノ城邑ヲ恢復シ、七十餘城皆復齊ノ有ト為ル、是ニ於テ、襄王法章ヲ召ヨリ臨淄ニ迎ヘ、田單ヲ安平ニ封シテ、安平君ト為ス、單攻狄三月不克、魯仲連曰、將軍在即墨、曰無可往矣、宗廟之矣、將軍有死之心、士卒無生之氣、莫不揮以奮臂、欲戰今將軍東有夜邑之奉、西有淄上之娛、黃金橫帶、騁乎淄澠之間、有生之樂、無死之心、故不勝也、單明日厲氣巡

カナ賈母、其後田單、城之於矢石之所援、柝鼓之狄人乃下。

ヲ攻ムルニ當リテ、魯仲連ニ見エシトキ、仲連謂テ曰ク、將軍狄ヲ攻ムル下ス、能フマシ、軍曰ク、臣ハ即墨賊亡ノ餘卒ヲ以テ、萬乘ノ燕ヲ破リ、齊城ヲ復セシ者ナリ、今狄

封セラルル、故ニ云フ、○聘乎淄澠之間、淄澠トハ、齊ノ都ニ流常ニ其間ニ馬ヲ聘セテ、遊ビ娛レシタルナリ、○柝鼓ヲ擊ツ

其後田單狄縣ヲ攻メテ、三月ヲ越エルマデ、克シテ、他ニ歸往スベキ所ナシトイハレテ、將軍戰死ノ心アリ、士卒生還ノ氣ナク、一同ニ泣ク、齊ノ將軍、東ノ方ニハ、夜色萬戸ノ俸祿アリ、西ノ方ニハ、淄水ノ上、娼ノ娼アリ、常ニ黃金ヲ腰帶ニ横タヘテ、淄

酒ニ水ノ間ニ傲遊セラルル、ガ故ニ、生前ノ快樂アリテ、命ヲ棄ツル心ナシ、故ニ百日ノ久シキヲ歴テ、勝タガハルナリト述ベケレバ、單敬服シテ、翌日ヨリ氣カラ厲マシ、敵ノ城外ヲ巡按シテ、矢石ノ飛ビ來ル所ニ立テ、柝ヲ擊キテ、鼓ヲ擊テ、士卒ヲ指揮セシカバ、狄人其威ニ懼レテ、乃チ齊ニ降リケル。

襄王既立、而孟嘗君中立、爲諸侯無所屬、王畏之、與連和、初、馮驩聞孟嘗君好客、而來見、置傳舍十日、彈劍作歌曰、

長鋏歸來乎、食無魚、遷之幸、舍食有魚矣、又歌曰、長鋏歸來乎、出無輿、遷之代、舍出有輿矣、又歌曰、長鋏歸來乎、無以爲家、子嘗君不悅、時邑人不足、以奉客、使人出錢於薛、

仔細ヲ問ヒケルニ、仲連

テ、軍懼レテ再ビ仲連ノ許ニ抵リ、其

ガリニテ、以テ、軍懼レテ再ビ仲連ノ許ニ抵リ、其

ガ果シテ三月ノ久シキニ至ルマデ、克ツテ、敵ハ

テ去リケル

テ謝セズシ

キナリト

甚カ解シ難

ルマシトハ

乃チ死スル  
ノ心ナキ

ヲ告ケタリ  
ケレバ其體

日ヨリ氣ヲ  
屬マシテ矢

石ヲ犯シ遂  
ニ之ヲ下シ

タリシトバ  
此事ヤ當ニ

武夫ノ勇ニ  
止マラズ萬

事ニ通ジテ  
駁マヘキ事

ナリ允ソ人  
ノ事業ヲ與

サントスル  
トキハ誰モ

彼モ皆金石  
ヲ透スベキ

氣カアルガ  
故ニ向フ所

敵ナク當ル  
所碎ケザル

ハナシト雖  
氏一朝功成

リ望達スル  
ノ秋ニ逢ヘ

ハ進取ノ氣  
象頌ニ減ジ

天細小ノ事  
ニモ敗ヲ取

試者多不能與息  
孟嘗君乃進驪請責之驪往不能與者

取其美燒之  
孟嘗君怒驪曰今薛氏親君孟嘗君竟為薛

公斂於薛

輯釋長欽歸來乎

イカタナヲヲナツコ  
一ナリ來ハ添ヘ字ニテ歸來乎トヨムベシ

講義 孟嘗君魏ニ奔リテ其國ノ相ト為リケルガ襄  
王既ニ立ナテ後魏ニモ屬セズ齊ニモ屬セズ

其邑薛ニ據リテ中立シ自ラ諸侯ト為リケレバ襄  
王之ヲ畏レテ孟嘗君ト好ヲ通ジ和ヲ結ビタリ抑

薛民ノ孟嘗君ニ歸服セシ好ハ初メ馮驩トイフ  
者孟嘗君ガ賓客ヲ好ムト聞テ面謁ヲ求メケルニ

孟嘗君一見シテ之ヲ傳舍ニ居ラシメタリ蓋シ孟  
嘗君ガ客館ハ傳舍代ノ三舍ニ分チテ通常ノ來賓

ハ之ヲ傳舍ニ置キ其一等ヲ加フル者ハ之ノ幸舍  
ニ置キ其特別ナル者ハ之ヲ代舍ニ置クトニ定メ

タリ傳舍ハ暫時停宿スルノ處幸舍ハ賢士ヲ寵異  
スルノ處代舍ハ更代待奉スルノ處トス傳舍ノ客

ニハ未ダ美膳ヲ給セズ幸舍ノ客ニハ未ダ車乘ヲ  
給セズ代舍ノ客ニハ未ダ一家ヲ給セザルナリサ

テ馮驩ハ傳舍ニ在ル十日ニレテ心中之ヲ不滿  
ニ思ヒ帶ル所ノ長劍ノ把ヲ彈シ長劍歸ランカ

食ニ當リテ魚ヲ給ヒケレバ遷シテ之ヲ幸舍ニ置キ  
食ニ當リテ魚ヲ給ヒケルニ猶ホ之ヲ不滿ニ思ヒ

六長欽歸ランカ出ツルニ輿ナシト歌ヒケレバ遷  
レテ之ヲ代舍ニ置キ出ツルニ當リテ輿ヲ給レケ

ルニ猶ホ之ヲ不滿ニ思ヒ六長欽歸ランカ一家  
ノ生計ヲ懸ルナシト歌ヒケル孟嘗君之ヲ聞テ其



ヲ以テ五國ヲ滅スルヲ得タリ殊ニ知ラズ五國滅ビハ齊能ク獨リ存セシヤト蘇洵モ亦之ヲ論ジテ曰ク六國ノ破滅ハ兵ノ利ナラザルニ非ズ戰ノ善ナラザルニ非ズ其弊秦ニ路フニ在リ

夫敵城ヲ攻メ敵人ヲ殺サント欲スルトキ我が綱ヲシテ敵ノ綱ヲ利導シ之ヲシテ敵ヲ離間セシムルヲイフ即チ敵ノイヌヲツカヒテ敵ノナカヲサクナリ ○柏ハ陰木ナリスレ氏柏ハ陰ニ向ヒテ西ヲ指ス蓋シ木ノ貞徳アル者ナリ故ニ字白ニ從フ白ハ西方ノ正色ナレバナリト六書精蘊ニ見エタリ論語ニ歳寒クシテ然シテ後ニ松柏ノ彫ムニ後ルヲ知ルトアリテ冬月ニ葉ヲ落サヌモノナリ之ヲカシハト譯スルハ非ナリカシハハ櫛ニシテ柏ニアラズ

講義

襄王卒シテ其子建立ツ母ハ太史敫ノ女ニシテ襄王ノ后ナリ國人尊ビテ君王后トイフ君

齊ハ未ダ嘗テ秦ニ路ハズシテ終ニ五國ニ繼テ遷滅スルハ何ゾヤ靡ニ與シテ五國ヲ助ケザレバナリト蓋シ王建暗弱ニシテ天下ノ形勢ヲ觀ルノ識ナク秦兵首ニ韓ヲ滅シ次ニ趙ヲ滅シ次ニ

ク秦ノ間者ノ金ヲ受ケテ其心利慾ニ昏ニ敵ノ為ニウラ及リテ國情ヲ離間シ建ニ勸メテ秦ニ入朝セシメ攻戰ノ備ヲ修メズ楚燕趙魏韓ノ五國ヲ助ケテ秦ヲ攻メザリケレバ秦王政其機ニ乘ジテ五國ヲ滅シ燕ノ南ヨリ齊ニ臨淄ニ攻メ入りタリ國民敢テ之ヲ格ガ者ナク建遂ニ秦ニ降ル秦之ヲ故ノ魏ノ屬地ナル韓ニ遷シ松柏ニ樹ノ林間ニ處テ餓死セシメ齊國ヲ廢シテ郡トス齊人之ヲ歌ヒテ曰ク松カ柏カ建ヲ共ニ住マシムル者ハ容カト言フコノ口ハ建ヲ共ニ住マシムル者ハ松ナルカ柏ナルカ否ナ賓客ニモ非ズ畢竟王ガ自ラ為セル禍ナリトノ意ニテ建ガ賓客ノ説ヲ聽信シ諸侯ト合從セズシテ其國ヲ亡ボシタルヲ疾ミシナリ

趙

趙ヲ滅シ次ニ

趙之先本與秦同姓祖於非嬴有子李勝其後有造父者



ニ魏ヲ滅シ  
次ニ燕ヲ滅  
シ次ニ楚ヲ  
滅シ五國全  
ク并吞セラ  
ルニ至ル  
マデ徒ラニ  
日ノ安ヲ偷  
ミテ坐シテ  
敗亡ヲ取リ  
シ者ナリ趙  
ノニ客ガ趙  
家ヲ恢復セ  
シハ實ニ千  
古ノ義舉ト  
イフベシ但

事周穆王以功封趙城由是為趙氏春秋時有趙夙者事  
晉夙生成子衰衰生宣子盾人曰趙衰冬日之日也趙盾  
夏日之日也冬日可愛夏日可畏

**講義** 趙ノ先ハ本秦ト同ク嬴姓ニシテ夙廉ヲ祖ト  
ス夙廉男子アリ季勝ト曰フ其後胤ニ造父ト

イフ者アリ云周ノ穆王ニ事ハ勲功ヲ以テ趙城ニ  
封セラレ是ニ由リテ趙氏ト為ル春秋ノ時ニ趙夙  
トイフ者アリテ晉ニ事ス夙成子衰ヲ生シ衰宣子  
盾ヲ生ム時人語シテ曰ク趙衰ハ冬日ノ日ナリ趙  
盾ハ夏日ノ日ナリ冬ノ日ハ愛スベク夏ノ日ハ畏  
ルベシト蓋シ趙衰ガ人ト為リノ溫和ナルト趙盾  
ガ人ト為リノ猛烈ナルトス冬ト夏トノ  
日光ニ比シテ之ヲ品評シタリシナリ

程嬰ノ自及  
ハ古人以テ  
過激ニ先マ  
ル者トセリ  
既ニ費ヲ戮  
シ既ニ武ヲ  
立テ嬰ガ  
能事ハ了レ  
リト雖氏猶  
ホ其餘年ヲ  
全クウシテ  
趙氏ノ為ニ  
謀ルテアラ  
ハ誰カ之ヲ  
友ニ信ナラ  
サル者トセ

盾生胡大夫屠岸賈滅朔之族朔有遺腹子武賈守之不  
得胡客程嬰公孫杵臼相與謀曰孤與死孰難嬰曰死  
易孤難耳杵臼曰子為其難杵臼取它兒匿山中嬰出  
謬曰與我千金吾告趙氏孤處賈喜乃使人隨嬰殺杵臼  
及孤而趙氏真孤在嬰後與武滅賈竟武而自殺以下  
報宣王及杵臼武卒號文子

**輯釋遺腹子** 父ノ存生中ニ母ノ胎内ニヤドリ父歿  
シテ後ニ生マレタル子ヲイフ即チオ

トシガ○孤 釋名ニ孤ハ顧ナリ顧望シテ瞻見スル  
ネテリ○孤 丹ナキナリトアリテ幼キ時ヨリクノ

ニ誰カ之ヲ  
生ヲ偷ム者

トレン、然ル  
ニ嬰ガ其死

ヲ促セシハ、  
公孫杵臼ノ

我ニ先ダチ  
テ命ヲ授ケ

シニ感シ、慷  
慨ノ情自ラ

制スルヲ能  
ハズ、事成ル

ノ後、之ヲ心  
ニ忘レザリ

シガ故ナル  
ベシ故ニ其

志ハ實ムベ  
シト雖、凡、其

死ハ未ダ全  
タシトスバ

カラザルナ  
以テ、趙簡子ガ

千羊ノ皮ハ  
一狐ノ腋ニ

如カズトテ  
朝ニ譽諤ノ

風ナキヲ嘆  
ゼシハ、彼ノ

衛侯ノ自ラ  
是トシテ、群

臣ノ和スル  
ヲ悦ビシト

ムバキ父親ノナキ者ヲ  
イヌ即チヨシナシゴナリ、  
○它、他ナ  
○千金、十鎰ナリ、  
臣瓚曰ク

秦ハ一鎰ヲ以テ一金ト為シ、  
漢ハ一斤ヲ以テ一金ト為ス、  
○宣孟、宣子有

**講義** 趙盾朔ヲ生ム、晉ノ大夫屠岸賈トイフ者、朔ヲ  
下宮ニ殺レテ、其一門ヲ滅ボシケルガ、朔ノ妻

ハ、晉ノ成公ノ母ナルヲ以テ、公宮ニ走り、身ヲ免レ

テ、男子ヲ生ム、之ヲ武ト曰フ、賈之ヲ聞テ、宮中ヲ搜

索セシニ、成公ノ夫人武ヲ絝中ニ匿シテ、脱スルヲ

ヲ得タリ、是ニ於テ、朔ガ食客程嬰、公孫杵臼ノ二人

相謀リ、杵臼先ツ嬰ニ問ヒテ曰ク、趙氏ノ孤兒ヲ立

ツルト、一命ヲ棄ツルトハ、孰ノ方ヲ難シトスルヤ、

嬰對ヘテ曰ク、一命ヲ棄ツルハ易ク、孤兒ヲ立ツル

ハ難キヲ言フマデモナキナリ、杵臼曰ク、然ラバ

子ハ其難キ方ヲ為シクレヨ、吾ハ其易キ方ヲスバ

シトナソレヨリ、杵臼ハ他人ノ小兒ヲ取りテ、山中

ニ匿レタリ、サテ嬰ハ其匿レタル處ヲ見トバケテ

後、山ヲ出テ、市ニ來リ、謬リテ曰ク、我ニ千金ヲ與

フル者アラバ、吾趙氏ノ孤兒ノ所在ヲ告ゲ知ラス  
ベシト、言ヒフラシケレバ、賈之ヲ聞テ、大ニ喜ビ、乃  
チ人ヲシテ嬰ニ隨行セシメテ山中ニ入り、杵臼及  
ビ他人ノ孤兒ヲ殺シテ、今ハ心安シト思ヒ、趙氏ノ  
真ノ孤兒ノ世ニ在ルヲバ知ラザリケレバ、其後  
嬰ハ武ト與ニ兵ヲ舉ゲテ、賈ヲ滅ボシ、竟ニ武ヲ立  
テ、趙氏ヲ再興シ、而シテ後ニ、別ヲ諸大夫ニ告ゲ、  
武ニ謂テ曰ク、昔、下宮ノ難ニ吾死スルヲ能ハザリ  
レニハ、非ザレバ、趙氏ノ後ヲ立テシテ、今  
日マテ生ヲ貪リタルナリ、今ヤ吾ガ事既ニ成ルヲ  
以テ、此世ヲ辭シ、地下ニ至リテ、君ノ太公宣孟ト、吾  
ガ如キ杵臼トニ報ガベシトテ、遂ニ自殺シタリケ  
レバ、武為ニ三年ノ喪ヲ服シテ、永ク春秋ノ  
祀ヲ行ヒケルトナリ、武卒ス、文子ト號ス。

ハ天淵ノ差アリニ子ノ賢愚ヲ察シテ其優ナル者ヲ取リシハ是趙家ノ興ル所以ナリ尹鐸ノ意見ヲ聽テ民力ヲ舒暢セシハ其應ル所長シトイフベシ此數事以テ簡子ガ人ニ君タルノ量アル

ヲ見ルニ足レ山知伯ガ土地ヲ三家ニ求ムルヲ先ツ之ヲ韓康子ニ求ム其臣段規謀リテ曰ク知伯利ヲ好ミテ憐レリ與ハヤンバ將ニ我ヲ伐タントス之ヲ與フルニ如カズ彼地ヲ得ルニ枉レ

文子生景叔景叔生簡子鞅簡子有臣曰周舍死簡子每聽朝不悅曰千羊之皮不如一狐之腋諸大夫朝徒聞唯唯不聞周舍之鄂鄂也

**輯釋腋** 左右ノ解ノ間ヲ腋ト曰ス狐腋ノ白毛ノ極メテ貴キヲ孟嘗君ガ狐白裘ニテ知ルベシ

○唯唯 一ハイハイト返辭ヲスルマデニトント意見ノナキヲイフ ○鄂鄂 鄂ハ

通シテ直言ノ義ナリ史記商君ノ傳ニ千人之諾諾不如一士之諤諤トアルモ同ジナリ

**講義** 文子景叔ヲ生ミ景叔簡子鞅ヲ生ム簡子ニ一輔ケテ利害得失ヲ諫爭シタリケルガ舍死シテ後復之ニ繼グベキ人物ナカリケレバ簡子朝ニ臨ミ

テ政事ヲ聽クゴトニ甚ク之ヲ不滿ニ思ヒテ謂テ曰ク實ニ千頭ノ羊ノ皮ハ一頭ノ狐ノ腋毛ニ及バカトイフガ如ク諸大夫ガ朝ニ列シテ拙者ト事ヲ議スルニ當リ徳ニ拙者ガ言フ所ニ阿順スルノミニシテ周舍ノヤウナル直言ヲ聞クコトナシ誠ニ頼ミガヒナキ人々カナトテ嘆息シタリケル

簡子長子曰伯魯幼曰無恤書訓戒之辭於二簡以授二

子曰謹識之三年而問之伯魯不能舉其辭求其簡已失

之矣無恤誦其辭其習求其簡出諸懷中而奏之於是立

無恤爲後簡子使尹鐸爲晉陽請曰以爲繭絲乎以爲保

障乎簡子曰保障哉尹鐸損其戶數簡子謂無恤曰晉國

テ、必ズ他人ニ請ハシ、他人與ヘズンバ、必ズ之ニ

驚フニ共ヲ以テセン、然ラバ則チ我患ヲ免ル、

テ事ノ變ヲ待タント、康子乃チ邑萬家ヲ與フ、知伯悦ビテ又

魏桓子ニ求ム、其臣仕章

謀リテ曰ク、故ナクシテ地ヲ索ム、諸大夫必ズ懼

レシ、吾之ニ地ヲ與ヘバ、知伯必ズ驕

ラン、彼ハ驕リテ敵ヲ輕シ、此ハ懼

レテ相親マシ、相親ムノ兵ヲ以テ敵

ヲ輕ンズルノ人ヲ待タバ、知氏ノ命

有難必以晉陽為歸

輯釋

識ノ字、知ルトイフトキニハ、シヨクノ音ニ

フトキニハ、シノ音トナル、但シ、シル区ハ、書物ニ書

キルセハ、記勝セ

ヨトノ義ナリ、

家ノ藩籬ヲ堅固ニスルコトナリ、胡三省ガ通鑑ノ註

ニ、繭絲ハ民ノ膏澤ヲ浚ル、繭ノ緒ヲ抽キテ盡キ

ガレバ止マザルガ如キヲ謂フ、保障ハ民ノ生ヲ厚

クスルコト、保ヲ築キテ自ラ障ヘテ愈培ハバ愈厚キ

ガ如キヲ謂フトアリ、其保障ヲ解シテ、人民ヲ保護

スルノ義ト為スハ、穩ナラザルニ似タリ、之ヲ藩籬

ノ義ト為ス方、然

ルバ、シト思ハル

○損其戶數

ヲ減ズレバ、民戸ヨリ徵收スル賦税自ラ少ナ

クナリテ、人民愛國ノ情ヲ生ズルモノナリ、

簡子ニ二子アリ、長ヲ伯魯ト曰ヒ、幼ヲ無恤ト

曰フ、簡子其賢愚ヲ試ミンガ為ニ、嘗テ教訓警

講義

曰フ、簡子其賢愚ヲ試ミンガ為ニ、嘗テ教訓警

戒ノ言辭ヲ二枚ノ簡冊ニ書シテ、各一枚ヲ授ケ、兩

人共ニ謹ミテ之ヲ記勝セヨト命ジ置キ、三年ヲ過

ギテ後ニ、記勝セルヤ否ヤヲ問ヒケルニ、伯魯ハ其

言辭ヲ忘却シテ、父ノ前ニ之ヲ擲ガルコト、簡

冊ハ如何ト問ヘバ、已ニ失ヒヌトテ出サズ、無恤ハ

其言辭ヲ暗誦シテ、甚ガ習熟シ、簡冊ハ如何ト問ヘ

バ、直チニ諾ヲ懷中ヨリ取り出ダシテ進讀シタリ

ケレバ、是ニ於テ簡子ノ意決シ、無恤ヲ立テ、後嗣

ト為シヌ、其後簡子尹鐸トイフ者ヲシテ、晉陽ノ地

ヲ為メシメケルニ、鐸簡子ニ指揮ヲ請ヒテ曰ク、臣

今命ヲ奉シテ晉陽ニ赴クニ就テハ、豫メ施政ノ方

向ヲ定メタシ、臣晉陽ノ守トナリテ、專ラ賦税徵收

ハ必ズ長カ  
ラジ之ヲ與  
ヘテ以テ知  
伯ヲ驕ラレ  
ノシニハ加  
カスト、桓子  
モ亦邑萬家  
ヲ與フ、知伯  
悦ビテ又趙  
襄子ニ求ム、  
襄子之ヲ與  
ヘズ、遂ニ難  
ニ及ベリ、蓋  
レ韓魏ハ禍  
ヲ人ニ嫁シ、  
趙ハ自ラ之

ニ盡カスベキカ、又ハ藩屏守備ニ盡カスベキカ、簡子曰ク、ソハ念ノ入リタル尋ネナリ、言フマ、テモナク、國家ノ藩屏ニ盡カアリタレト答ヘケレバ、釋其意ヲ承ケテ、晉陽ニ赴キ、治下ノ人民ノ戶數ヲバ、從來ノ戶籍面ヨリ減損シテ、民戶ノ賦稅ヲ寬メシカバ、百姓皆簡子ノ仁意ヲ感戴シタリケル、簡子其行ヲ評ヲ見テ、大ニ喜ビ、無恤ニ謂テ曰ク、他日晉國ニ急難アラバ、必ズ晉陽ヲ以テ歸托ノ處トセヨ、彼ノ地ノ人民ハ、趙家ノ為ニ死カラ出カシテ、大勲ヲ建ツルコトアルベシトゾ教ヘケル、

簡子卒無恤立是爲襄子知伯求地於韓魏皆與之求於趙不與率韓魏之甲以攻趙襄子出走晉陽三家圍而灌之城不浸者三板沈竈產龍民無叛意襄子陰與韓約共

敗知伯滅知氏而分其地

輯釋甲

テハ兵卒ヲイフ、

○城不浸者三板

没ハ浸

ナリ、胡三省ハ浸ヲ没ニ作ルベシトイヘド、浸ニテモサレツカヘナシ、史記趙ノ世家ニハ、没ノ字ヲ用ヒタリ、板ハ版ト同ジ、胡三省曰ク、高サニ尺ヲ一版ト爲ス、三版ハ六尺ナリト、陳殷ガ音釋ニ、一丈ヲ板ト爲ストイフハ、毛萇ガ百堵傳ニ、牆ヲ築ク者一丈何休云ク、八尺ヲ版ト

講義

伯驕傲ニシテ、同列ヲ侮慢シ、韓魏兩家ニ向ヒ

命ヲ抛テシ

テ、何ノ謂レモナク土地ヲ分割センコトヲ要求セシニ、兩家皆其暴威ヲ避ケテ、之ヲ與ヘケレバ、韓ビテ

車ヲ宋ノ胡

二、

實ハ極メテ 稱揚シテ曰ク君子名譽ノ為ニ善ヲ為セバ其善必不誠ナラズ人臣利禄ノ為ニ忠ヲ效セバ其忠必不盡サズ知伯後ナシ氣勢倚ルベシ死ナク富貴求ムベキ所ナク子孫兆スベキ所ナシ而ルニ讓ヤ國士ノ遇ヲ忘レズ死ヲ以テ之ニ報ジ再三ニシテ愈篤シ則チ為ニスル所ナクシテ之ヲ為ス者ナリ此特ニ質ヲ委レテ人ニ事フルノ法トスベキノミナラズ大學ノ道ト雖也

趙ニ要求セシニ、襄子之ヲ與ヘザリシカバ、知伯怒リテ、韓魏ノ狎兵ヲ率ヒテ趙ヲ攻ム、襄子居城ヲ出テ、晉陽ニ走ル、三氏合セテ之ヲ圍ミ、水ヲ城中ニ灌ク、滿城忽、一面ノ海トナリテ、城頭僅ニ六尺許ヲ見ス、ノミ、屋舎ノ炊竈悉、水底ニ沈没シテ、翻テ生ジ、一同飲食ニ事缺クマデニ至リケレバ、絶エテ一人ノ背叛ヲ企ツル者ナク、心ヲ鉄石ノ如クニナシテ、防ギ戰ヒタリ、カクスルウチニ趙襄子ハ、辯士張孟談トイフ者ヲ潛ニ城外ニ出ダシ、韓魏ノ陣中ニ往キテ、解亡ブレバ齒寒シ、趙亡ビバ韓魏之ガ次、一為ラント言ハシメケレバ、韓魏固ヨリ知伯ヲ助クルノ心ナキヲ以テ、異議ナク之ニ同意シ、陰ニ期日ヲ約シテ、死、應スベシト答ヘタリ、襄子乃チ其日ノ夜ニ入りテ、人ヲレテ、阨ヲ守ル知伯ノ吏ヲバ殺サシメ、其水ヲ決レテ、知伯ノ陣營ニ灌ヤケレバ、知軍大ニ駭動レテ、之ヲ防ヤ過ノントレタルヲリレモ、韓魏ノ兩軍左右ヨリ之ヲ擊チ、襄子其前ヲ化シテ、遂ニ知伯ヲ殺シ、其族ヲ滅レテ、其地ヲ三分シタリケル、初、襄子が晉陽ニ走リレトキ、其從者ニ謂テ曰ク、我ニ與スル者ハ、晉陽ノ外アルバカラズ、尹鐸が平生寬ニスル所、民心必、一和スベシトテ、赴キケルガ、果レテ簡子ノ先見ニ違ハザリレト云フ。

襄子漆知伯之頭、以為飲器。知伯之臣豫讓欲為之報仇、乃詐為刑人、挾匕首入襄子宮中、塗廁。襄子如廁、心動、索之、獲讓。問曰：子不嘗事范中行氏乎？知伯滅之子、不為報讐、反委質於知伯。知伯死、子獨何為報仇之深也？曰：范中行氏、衆人遇我、我故衆人報之。知伯國士遇我、我故國士

ナシ而ルニ讓ヤ國士ノ遇ヲ忘レズ死ヲ以テ之ニ報ジ再三ニシテ愈篤シ則チ為ニスル所ナクシテ之ヲ為ス者ナリ此特ニ質ヲ委レテ人ニ事フルノ法トスベキノミナラズ大學ノ道ト雖也

趙ニ要求セシニ、襄子之ヲ與ヘザリシカバ、知伯怒リテ、韓魏ノ狎兵ヲ率ヒテ趙ヲ攻ム、襄子居城ヲ出テ、晉陽ニ走ル、三氏合セテ之ヲ圍ミ、水ヲ城中ニ灌ク、滿城忽、一面ノ海トナリテ、城頭僅ニ六尺許ヲ見ス、ノミ、屋舎ノ炊竈悉、水底ニ沈没シテ、翻テ生ジ、一同飲食ニ事缺クマデニ至リケレバ、絶エテ一人ノ背叛ヲ企ツル者ナク、心ヲ鉄石ノ如クニナシテ、防ギ戰ヒタリ、カクスルウチニ趙襄子ハ、辯士張孟談トイフ者ヲ潛ニ城外ニ出ダシ、韓魏ノ陣中ニ往キテ、解亡ブレバ齒寒シ、趙亡ビバ韓魏之ガ次、一為ラント言ハシメケレバ、韓魏固ヨリ知伯ヲ助クルノ心ナキヲ以テ、異議ナク之ニ同意シ、陰ニ期日ヲ約シテ、死、應スベシト答ヘタリ、襄子乃チ其日ノ夜ニ入りテ、人ヲレテ、阨ヲ守ル知伯ノ吏ヲバ殺サシメ、其水ヲ決レテ、知伯ノ陣營ニ灌ヤケレバ、知軍大ニ駭動レテ、之ヲ防ヤ過ノントレタルヲリレモ、韓魏ノ兩軍左右ヨリ之ヲ擊チ、襄子其前ヲ化シテ、遂ニ知伯ヲ殺シ、其族ヲ滅レテ、其地ヲ三分シタリケル、初、襄子が晉陽ニ走リレトキ、其從者ニ謂テ曰ク、我ニ與スル者ハ、晉陽ノ外アルバカラズ、尹鐸が平生寬ニスル所、民心必、一和スベシトテ、赴キケルガ、果レテ簡子ノ先見ニ違ハザリレト云フ。

襄子漆知伯之頭、以為飲器。知伯之臣豫讓欲為之報仇、乃詐為刑人、挾匕首入襄子宮中、塗廁。襄子如廁、心動、索之、獲讓。問曰：子不嘗事范中行氏乎？知伯滅之子、不為報讐、反委質於知伯。知伯死、子獨何為報仇之深也？曰：范中行氏、衆人遇我、我故衆人報之。知伯國士遇我、我故國士

報之襄子曰義士也舍之謹避而已

**輯釋** 飲器

三說アリ、類師古ハ以テ飲酒ノ器トシ、韋昭ハ以テ椀トシ、晉灼ハ以テ虎子ノ屬トス、類說ニ椀ルトキハ、酒ヲ飲ム者ナリ、韋說ニ椀ルトキハ、酒ヲ盛ル者ニシテ、酒ヲ飲ム者ニ非ズ、晉說ニ椀ルトキハ、溺器ナリ、而シテ酒器ノ說ヲ主トスル者ハ、賓會ゴトニ、之ヲ設ケテ、恨ノ深キヲ示セ

レナリトイヒ、溺器ノ說ヲ主トスル者ハ、死骨凶穢、惡人ノ頭顱、豈俎豆ノ宜レキ所ナランヤトイフ、今

罌、腰杯ノ○七首、其頭似ニ類シ、短クシテ用ニ便ナ

説ニ從ス、○七首、故ニ七首ト名ヅク、今短刀ニ似

ク、クジリトイフモノアリ、蓋レ此類ナランカ、劉向

説苑ニハ、其長サ一尺八寸ナリトイヒ、周禮ノ註ニ

ハ、二尺ナリトイフ、其寸法ハ○廁、便所、○心動、

品ニヨリテ異同アルベシ、○委質、委ハ置ナリ、質ハ執ト同ジク、進物

ギノスル、○委質、義ナリ、奉公ホミヲスル時、土

一ナリ、○委質、義ナリ、奉公ホミヲスル時、土

産物ナリ、質ヲ委ストハ、土産物ヲ主人ノ前ニ差シ

置キテ、主從ノ約ヲ固メタルヲイフ、一説ニ、質ヲ委

ヌト讀ミテ、質ヲ形、質ノ義ト為シ、其身體ヲ主

人ニ委托シテ之ニ事フルトナリトイヘリ、

講義 襄子既ニ知伯ヲ殺シテ、猶ホ未ダ憐ラズ、其壩

弄シテ、其意ヲ快クシタリケルガ、知伯ノ臣ニ豫讓

トイフ者アリテ、故主ノ為ニ仇ヲ報ゼンコトヲ欲シ

讓クル者ハ  
正ニ宜シク  
諄々トシテ  
之ニ告グベ  
シ、曰ク諸侯  
大夫ハ各分  
地ヲ守リテ  
相侵奪スル  
コトナシ、今故  
ナクシテ地  
ヲ人ニ取ル  
人與ヘズン  
バ、吾ガ念心  
必ズ生ゼム  
之ヲ與ヘバ  
吾ガ驕心必





ルナノ袖  
手傍觀シテ  
坐ナガラ成  
敗ヲ待ツ國  
士ノ報曾テ  
是ノ若クナ  
ランヤ故ニ  
國士ヲ以テ  
讓ヲ論ズル  
ハ未ダ當ラ  
ズト雖氏彼  
ノ朝ニ仇敵  
ト為リ暮ニ  
君臣ト為リ  
靦然トシテ  
自得マハ者

炭ヲ吞ミシナリ尺イヘリ、執ニシテモ、其音聲ヲ變  
ゼンガ為ニセシレトニテ、真ノ啞トナリシニハ非ズ、  
下文ニ其朋友トノ應對 ○行 アルキナガラ  
アルヲ見テモ知ルベシ ○趙孟  
趙氏世、趙孟ト稱ス、孟ハ長ナリ、美稱  
ナリ、知氏ノ知伯ト稱スルガ如シ、 ○顧及ノ義  
乃ノ字、通例ハゴゴトイフ接續ノ辭ナレ尺、稀  
ニハガヘリテトイフ語辭ニナルナリ、子乃ノ乃  
ハゴゴトナリ、何乃チノ ○愧 慙ナリ、辱トハ異ナリ、准  
乃ハガヘリテナリ、 ○愧 陰ノ少年ガ韓信ヲ辱シ  
メレハ、侮辱ノ義ニテ、コ、ノ愧レムルハ、其人  
ヲシテ心中ニ面目ナレト思ハスルナリ、  
講義 サテモ豫讓ハ襄子ニ脅サレテヨリ、敢テ其志  
操ヲ改メズ、身體ニ漆ヲ塗リテ、癩病ヤミノ如  
クニナリ、音聲ヲ變ズル毒物ヲ吞ミテ、瘖啞ノ如ク  
ニナリ、市中ニ徘徊シテ、乞食ヲ為シ、以テ襄子ヲ狙  
ヒスマシタリ、其妻嘗テ途ニ行キ逢ヒケレ尺、吾ガ  
夫トハツユバカリモ心付カズ、然ルニ其友某ハ之  
ヲ心付キテ、謂テ曰ク、子ノ才智ヲ以テ、趙氏ニ臣ト  
シ事ヘナバ、必ズ襄子ノ親近愛幸ヲ得ルニ疑ナシ、  
子ハ乃チ宿望ヲ試ミナバ、顧リテ容易ニ成就セン  
ニ、何故乃チ之ヲ為サズシテ、吾ト我が身ヲ苦シメ  
ラル、ニヤト問ヒケレバ、讓曰ク、子が説ハ不可ナ  
リ、何トナレバ、一旦主従ノ禮ヲ執リテ、彼ガ臣下ト  
為リ、其上ニテ之ヲ殺サンコトヲ求メナバ、是ニ心ト  
イフ者ナリ、何事モ吾ガ為ス所ハ至極困難ナリ、然  
ルニ其困難ヲ知リツ、之ヲ為ス仔細ハ餘ノ義ニ  
非ズ、カヤウニシテ、天ガ下後ノ世マデノ二心ヲ懷  
ク人臣ヲ慙愧セシメントテナリト對ヘテ、相別レ  
ケル、其後襄子外ニ出デ、某處ノ橋上ニカ、リシ  
時、其乘馬物ニ驚キテ蹶アガリケレバ、何事ニヤト  
其アタリヲ搜索セシメシニ、讓ガ橋下ニ潜伏シタ

ハ又讓ノ罪  
人ナリト、或  
者又之ヲ論  
ビテ曰ク、讓  
ガ范氏中行  
氏ノ衆入ヲ  
以テ遇セシ  
ニ因ル之ニ  
報ズルニ衆  
人ノ所為ヲ  
以テセシハ  
既ニ人臣ノ  
道ニ非ズ、縱  
令其君君タ  
ラズト雖尺、  
其臣ハ當ニ

其アタリヲ搜索セシメシニ、讓ガ橋下ニ潜伏シタ

臣ノ分ヲ盡

スベキナ

リト是亦一

理アリト雖

氏概テ戰國

時代ノ士ハ

四方ニ客遊

シテ志ノ達

セシ者ナレ

バ兩氏ノ為

ニ盡サレリ

シヲ以テ深

ク各ムルニ

及バズ其知

伯ヲ諫

リレハ謀ガ

為ニ賊ムベ

ク其敗後ニ

於テ誠ヲ致

セレハ讓ガ

為ニ重シク

ベキナリ

蘇秦ガ六國

ニ遊説スル

ヤ先ヅ其國

ヤノ形勢ニ

就テ利害ヲ

論シ而レテ

後ニ已ガ説

ヲ投合セリ

初メ燕ニ説

ルヲ捕ヘ得タリケレバモハヤ容赦  
ナリ難シトテ遂ニ之ヲ殺シケル

襄子ノ伯魯之孫浞是為獻子獻子生烈侯籍以周威烈

王命為侯歷武ハ敬侯成侯至肅侯秦人恐喝諸侯求割

地有洛陽人蘇秦游説秦惠王不用乃往説燕文侯與趙

從親燕資之以至趙説肅侯曰諸侯之卒十倍於秦并力

西向秦必破矣為大王計莫若六國從親以擯秦肅侯乃

資之以約諸侯蘇秦以鄙説諸侯曰寧為鷄口無為牛

後於是六國從合

**輯釋**

大聲ヲ發シテオド  
シノクルナリ

**資**

旅費ヲ給助  
スルナリ

**擯**

斥ナリ棄ナリオ

**鄙説**

俚語ヲ諺ト曰ス鄙説ハ  
コトワザナリ

寧イツヅトイフナリコレヲ取ルヨリモイ  
ツソカレヲ取ルガマレシヤトイフナリ

**講義**

襄子兄伯魯ノ孫ナル浞ヲ立テ後嗣ト為ス  
是ヲ獻子ト曰フ獻子列侯籍ヲ生ム籍周ノ威

烈王ノ命ヲ以テ諸侯ト為ルソレヨリ武敬成ノ三  
侯ヲ歴テ肅侯ニ至ル時ニ秦人鴟獙ニシテ縱ニ諸

侯ヲ鴟獙シ土地ヲ割キ與ヘントテ要求ス茲ニ洛  
陽ノ人蘇秦トイフ者アリ初メ秦ニ客遊シテ惠王

ニ説クニ天下ヲ謙誦スルノ術ヲ以テセシカド其  
説用ヒラレザリケレバ乃チ去リテ燕ニ往キ文侯

ニ説キテ趙ト從合和親セントテ勸メケルニ文侯  
之ヲ納レテ為ニ旅費ヲ給助シ趙ニ至ラシム蘇秦

初メ燕ニ説

後ニ已ガ説

ヲ投合セリ

初メ燕ニ説

後ニ已ガ説

ヲ投合セリ

初メ燕ニ説

後ニ已ガ説

ヲ投合セリ

キテ曰久燕ノ寇ニ犯リレ兵ヲ破ラザル所以ノ者ハ趙之ガ敵ト為ルヲ以テナリ大王趙ト從親シテ天下一トナラバ燕國必ス患ナカラントソレヨリ趙ニ説キテ曰ク山東ノ國趙ヨリ強キハ

意ヲ得テ肅侯ニ説キテ曰久方今諸侯ノ兵卒ヲ通計スルニ其數秦ニ十倍セリ若シカヲ并セテ西ノ方函谷関ニ向ヒナバ秦ハ必ス一舉シテ破ルベシ臣大王ノ為ニ國家ノ利害ヲ計ルニ趙韓魏楚燕齊ノ六國從合和親シテ秦ヲ擯斥壓倒スルニ若クハナレト述ベケレバ肅侯モ亦之ヲ納レテ為ニ旅費ヲ給助シ楚齊韓魏ニ歷游シテ聯合ノ約ヲ結バン一ヲ命ジタリ蘇秦乃チ鄒軀ノ路言ヲ以テ四國ノ君ニ説キテ曰久罽鷁ノ口ト為ルニ牛ノ鬻ト為ル一ナカレト言フコハ鷁ノ口ハ小ナリト雖凡食ヲ進メ牛ノ後ハ大ナリト雖凡糞ヲ出ダスガ如ク各國小ナリト雖凡自立スルハ貴ク秦ハ大ナリト雖凡之ニ事フルハ賤シ況ヤ各國ヲ合スルトキハ其力秦ヲ制スルニ足ル者ヲヤ何ゾ彼ニ服スル一アラントテ罽鷁ニ惡語ヲ以テ諸侯ヲ激セシナリ其説大ニ行ハレテ六國遂ニ從合シタリケル

蘇秦者師鬼谷先生初出游困而歸妻不下機嫂不為炊至是為從約長并相六國行過洛陽車騎輜重擬於王者昆弟妻嫂側目不敢視俯伏侍取食蘇秦笑曰何前倨而後恭也嫂曰見季子位高多也秦喟然歎曰此一人之身富貴則親戚畏懼之貧賤則輕易之况眾人乎使我有洛陽負郭田二頃豈能佩六國相印乎於是散千金以賜宗族朋友既定從約歸趙肅侯封為武安君其後秦使犀首欺趙欲敗從約齊魏伐趙蘇秦恐去趙而從約解

蘇秦者師鬼谷先生初出游困而歸妻不下機嫂不為炊至是為從約長并相六國行過洛陽車騎輜重擬於王者昆弟妻嫂側目不敢視俯伏侍取食蘇秦笑曰何前倨而後恭也嫂曰見季子位高多也秦喟然歎曰此一人之身富貴則親戚畏懼之貧賤則輕易之况眾人乎使我有洛陽負郭田二頃豈能佩六國相印乎於是散千金以賜宗族朋友既定從約歸趙肅侯封為武安君其後秦使犀首欺趙欲敗從約齊魏伐趙蘇秦恐去趙而從約解

ハバ五國各  
銳師ヲ出ダ

レテ以テ秦  
ヲ撓ノシ、或

ハ之ヲ救ヒ  
テ約ノ如ク

ナラザル者  
アラバ五國

共ニ之ヲ伐  
クント、天下

ノ將相ヲ會  
シテ之ガ約

未ヲ定メナ  
バ、秦必不函

谷ヲ出デ、  
山東ヲ害セ

リ韓ニ説キ  
テ曰ク、韓ノ

地方九百餘  
里、帶甲數十

萬、天下ノ強  
弓勁弩利劍

ハ皆韓ヨリ  
出、今大王

秦ニ事ス、秦  
必バ地ヲ割

カンテヲ求  
メン、地ハ盡

クルテアリ  
氏、秦ノ求メ

ハ巴、蜀ナ

**輯釋輜重**

衣服ヲ載スル車ヲ輜ト曰ヒ、其他ノ諸物  
ヲ載スル車ヲ重ト曰フ、概レテ之ヲ言ヘ

バ、行者ノ荷車ノ  
○昆兄ナ  
○嫂兄ノ妻  
○側目見ヌ

ニシテ見ルヲイフ、恐懼ノ甚シキ、  
打ツケニ視ルヲ能ハサルナリ、  
○輕易易ハカハ

ナルトキハ「エキ」ノ音ナリ、「ヲヤム」カ  
カロンズルヤ  
スレ「タヒラカ」ノ義トナルトキハ「イ」ノ音ナリ、輕易

ハ即チカコレメ  
○負郭田郭ハ外城ニテ、外曲輪ノ  
アナドル義ナリ、  
○郭田ナリ、郭ヲ負フ田トハ

都近ノ田地ト  
○二頃周尺六尺四寸ヲ歩ト為シ、步  
イフヲナリ、  
百ヲ畝ト為シ畝百ヲ頃ト為

ス、二頃ハ即チ二萬歩ニシテ、凡ソ二萬坪ノ四地ナ  
リ、但レ周ノ一尺ハ今ノ曲尺七寸二分弱ナレバ、二

萬坪ノ廣サハアラ  
○犀首魏ノ公孫孫ナリ、初メ魏  
ヌモノト知ルマシ  
ニ仕ヘ、後ニ秦ニ仕ス犀

首ハ魏ノ官名ナリ、公孫孫行此官ト為ル、因テ犀  
首ト蹄ス、猶ホ虎牙將軍ノ稱ノゴトシト云フ、

**講義** 蘇秦ハ鬼谷先生ニ就テ學ズ、先生ハ姓ヲ王名  
ヲ諱ト曰ヒテ、河南ノ鬼谷ニ居ル、故ニ鬼谷ヲ

以テ蹄トス、蘇秦張儀ト俱ニ三年ノ間之ニ師事シ、  
其後去リテ出游セシガ、初メノ程ハ誰モ之ヲ用フ

ル者ナク、窮困シテ家ニ歸リケレバ、其妻之ヲ顧リ  
ミズ、機上ニ在リテ、已ガ事ヲバ為シ、嫂モ亦之ヲ侮

リテ、蘇秦ノ為ニ飯ヲ炊キ食ヲ惠マズ、家内一同出  
テ行ケガレニアツカヒケルガ、是ニ至リテ、從親盟

約ノ長ト為リ、關東六國ノ宰相ヲ兼任シテ、途次洛  
陽ヲ過ギ、馬車騎馬武者荷車等サナガラ王公貴人

ニ比擬スベキ行列ニテ、吾ガ故郷ニ立チ寄リケレ  
バ、兄モ弟モ妻モ嫂モ皆目ヲ側テ、之ヲ迎ヘ、取テ

蘇秦ノ面貌ヲ直視セバ、俯伏シテ左右ニ侍リ、謹ミ  
テ食物ヲ捧ゲ、レバ、蘇秦覺エズ笑ヲ發シテ曰ク、

レ部訪ニ曰ク寧鶴口ト為ル氏牛後ト為ルトナカレト大王ノ賢ヲ以テ天ノ覆ヲ以テ扶ミ牛後ノ名アルハ竊ニ大王ノ為ニ之ヲ羞ヅトソレヨリ魏ニ説キテ曰ク大王ノ地ハ千里武夫奮頭奮鬣

何故ニ前ニハ裾微ニシテ後ニハ襟順ナルヤ嫂曰久季子ガ高官顯職ニ陞リ大金銀財寶ノ多キヲ見レバナリト、季子ハ秦ノ守ナリ蘇秦之ヲ聞テ喟然トシテ嘆息シテ曰ク一人ノ身富裕縞貴ナルトキハ親戚之ヲ畏懼シ、貧窮俾穢ナルトキハ親戚之ヲ輕易ス、然ラ況ヤ一般ノ人情ニ於テヤ、冷ヲ去リ熱ニ付クハ、サモアルベキナリ、吾ガ今日名利ノ間ニ奔走スルモ、畢竟自營ノ計ニ乏シケレバナリ、若シ洛陽城外ニ於テ、所有ノ田地ニ萬坪モアリレバ、ナラバ、豈六國宰相ノ印ナドヲ身ニ佩グルトヲセンヤトテ、ソレヨリ千金ヲ散ジテ、一家ノ門朋友故舊ニ分テ與ヘ、既ニ從親ノ盟約ヲ定メテ、趙ニ歸リ報ジケレバ、肅侯之ヲ武安ニ封ビテ、武安君ト號ス、其後秦ノ惠王公孫行ヲシテ、趙ヲ欺カシメ、其盟約ヲ欺ラント欲シ、齊魏兩國ヲ煽惑シテ、趙ヲ伐タシメケレバ、蘇秦忍レテ、趙ヲ出奔シ、盟約立トコト

名二十萬騎徒ト萬車六百乘騎五千匹ソリ、乃

ニ解散シテ、六國故ノ如ク孤立ト為リニケル、蘇秦ガ六國ニ相ト為リシハ、周ノ赧王ノ三十六年ナリ、テ、其趙ヲ去リシハ、三十七年ナレバ、纒ニ一年ヲ踰エシマデナリ、

群臣ノ説ヲ聽テ、秦ニ臣事セント欲ス、願ハクハ

肅侯、子武靈王、胡服招騎射、夏、胡地滅中山、欲南襲秦、不

大王之ヲ熟察セヨト、ソ

果傳子惠文王、惠文嘗得楚和氏璧、秦昭王請以十五城

レヨリ齊ニ説キテ曰ク

易之欲不與畏秦、強欲與、恐見欺、蘭相如願、秦璧往、城不

齊ハ四塞ノ國ニシテ、地

入則臣、請完璧而歸、就至秦王、無意償城、相如乃紹取璧

方二十餘里、帶甲數十萬

怒髮指冠、卻立、柱下曰、臣頭與璧俱碎、遣從者懷璧間行

先歸身待命於秦、秦昭王賢而歸之

栗丘山ノ如ク臨淄ノ塗

車轂轆千八肩摩シ社ヲ

連ネテ惟ヲ成シ汗ヲ揮

ヒテ雨ヲ成ス夫レ韓魏

ノ秦ヲ畏ル所ハ以テ秦

ト境ヲ接スルガ為ナリ

今秦ノ齊ヲ攻ムルハ則

チ然ラズ深ク入ラント

欲スト雖モ韓魏ノ其後

ヲ議セシテ

ヲ恐ル秦ノ齊ヲ害スル

能ハザルヲ亦明ケレ夫

秦ノ齊ヲ奈何スルヲ

ナキヲ料ラズレテ西面

シテ之ニ事ヘント欲ス

群臣ノ計過テリトソレ

ヨリ楚ニ説

**輯釋** 胡服

胡ハ北狄ナリ、胡者ノ服ヲ着スルハ動作進退ニ輕便ナルヲ以テナリ、猶ホ今人ノ

洋服ヲ用フ○騎射ル馬ニ弓射○畧取ル○畏秦強

ルガゴトシ、○騎射ル馬ニ弓射○畧取ル○畏秦強

テハ、恐モコハガルトニ用フレ、畏ト恐ト書キワケタルウヘハ、此列アリト知ルベシ、○償

所ヲ還スヲ償ト曰、○給、虚言ヲ以テタス、又報酬ノ義ナリ、○給、虚言ヲ以テタ

**講義** 肅侯ノ子武靈王トイフ者、始テ胡ハノ服ヲ着シテ、武藝ヲ演習シ、騎射ノ術ニ長ズル者ヲ

招集シテ、北狄ノ地ヲ取り、中山國ヲ滅シ、南方秦ノ不意ヲ襲ハント欲セシガ、其志果サズシテ卒シ

其子惠文王ニ傳ス、惠文王嘗テ楚ノ和氏ノ璧ヲ得タリ、抑、和氏ノ璧トイフハ、昔楚ノ野民ニトシ、

フ者アリ、璣ヲ荆山ニ得テ之ヲ厲王ニ獻ズ、璣ハ王ノ未ク琢コザル者ナリ、王<sub>王人</sub>ヲシテ之ヲ曰ハシ

メシニ、石ナリト曰ヒケレバ、王怒リテ和ノ玉是ヲ

卽ル、武王立ツ、和又之ヲ獻ズ、王人又石ナリト曰ヒケレバ、王怒リテ和ノ玉是ヲ

抱キテ、荆山ニ哭ス、王試ミニ是人ヲレテ之ヲ破ラシメシニ、果シテ美玉ヲ得タリ、因テ之ヲ和氏ノ璧ト蹄ス、其後趙ノ所藏トナリシ者ナリト云フ、秦ノ

昭王之ヲ傳聞シテ、十五城ト交易センコトヲ請フ之ヲ與ヘマシト欲スレバ、秦ノ強キニ畏レテ、與ヘザルヲ得ズ、之ヲ與ヘント欲スレバ、秦ニ欺カレシコトヲ恐レテ與ヘ難シ、如何ハセント、決シカネタルヲ

リカラ、其臣ニ姓ハ藺名ハ相如トイフ者アリテ、王ノ前ニ進ミ出テ、璧ヲ奉ジテ秦ニ往カンコトヲ願ヒ、

若シ十五城哉、が手ニ入ラズンバ、臣此璧ヲ無事ニ持テ歸ラシトイヒケレバ、惠文王之ヲ可トシテ、乃

持テ歸ラシトイヒケレバ、惠文王之ヲ可トシテ、乃

キテ曰ク楚ハ天下ノ疆國ナリ、地方六千餘里、帶甲百萬、粟十年ヲ支フ、此霸王ノ資ナリ、楚強ケレバ、秦弱ク、秦強ケレバ、楚弱シ、其勢兩立セズ、故ニ大王ノ為ニ計ルニ、從親レテ以テ秦ヲ孤ニスル

ナ、秦ニ使セシメタリ、相如既ニ秦ニ至リテ、昭王ニ謁シ、齋ラス、所ノ壁ヲ獻ジケルニ、果シテ王ハ璧ヲ奉ヒ、城ヲ償フニ意ナカリケレバ、相如乃チ王ヲ給キテ、璧ニ瑕アリ、臣請フ王ノ為ニ指シ示サントイヒケレバ、王之ヲ實ナリト思ヒテ、相如ニ授ケ、ルニ、相如之ヲ取リテ、大ニ怒リ、髮ノ毛逆ダチテ、冠ヲ指シ貫ク程ノアリサマニテ、**激柱**ノ下ニ欲キ立テ、臣ガ頭ハ今此壁ト與ニ碎クルナリトイヒナガラ、從者ニ命ジテ、璧ヲ擲ニシ、**淵道**ニ投ジテ、已レヨリ先ニ趙ニ歸ラシメ、而シテ其身ハ秦ノ處分ヲ待チタリケレバ、昭王相如ニ氣ヲ吞マレテ、敢テ秦ヲ加ヘズ、彼ハ賢者ナリトテ、何事モナク趙ニ歸レケル、

秦王約趙王會渑池、相如從及飲酒、秦王請趙王鼓瑟、趙王鼓之、相如復請秦王擊缶、秦王不肯、相如曰、五

步之内、臣得<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>頸血<sub>レ</sub>澣<sub>レ</sub>大王、左右欲<sub>レ</sub>刃<sub>レ</sub>之、相如叱<sub>レ</sub>之、皆靡<sub>レ</sub>、秦王為<sub>レ</sub>一擊缶、秦終<sub>レ</sub>不能<sub>レ</sub>有加<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>趙、趙亦盛<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>之、備<sub>レ</sub>秦不<sub>レ</sub>敢<sub>レ</sub>動。

**渑池** 渑池ノ渑ハ音<sub>レ</sub>ヨウニシテ、**缶** 酒器ナリ、秦ノ俗之ヲ擊チテ以テ樂ヲ節ス、**五步之内** 歩ト為ストキハ、五歩ハ三十二尺ナリ、其一尺ヲ今ノ七寸二分ト積ルトキハ、二十三尺四分ナリ、之ヲ今ノ六尺一間トスルトキハ、三間ト五尺四分ナリ、即チ五歩ノ内ハ、四間以内ノ距離ニシテ至テ近キヲイフ、**頸血澣大王** 頸ノ血ヲ大王ニ澣ギカケントス、義ニテ王ノ生命ハ我が手ノ中ニ

ニ如クハ、莫<sub>レ</sub>ニ從親スルトキハ、諸侯地ヲ割キテ以テ楚ニ事ヘン、衛合スルトキハ、楚地ヲ割キテ以テ秦ニ事ヘン、此兩策相去ル<sub>レ</sub>遠シ、大王何ニカ居ルト、此ノ如ク或ハ怒ラレ、或ハ却カレ、智辯

ナ、秦ニ使セシメタリ、相如既ニ秦ニ至リテ、昭王ニ謁シ、齋ラス、所ノ壁ヲ獻ジケルニ、果シテ王ハ璧ヲ奉ヒ、城ヲ償フニ意ナカリケレバ、相如乃チ王ヲ給キテ、璧ニ瑕アリ、臣請フ王ノ為ニ指シ示サントイヒケレバ、王之ヲ實ナリト思ヒテ、相如ニ授ケ、ルニ、相如之ヲ取リテ、大ニ怒リ、髮ノ毛逆ダチテ、冠ヲ指シ貫ク程ノアリサマニテ、**激柱**ノ下ニ欲キ立テ、臣ガ頭ハ今此壁ト與ニ碎クルナリトイヒナガラ、從者ニ命ジテ、璧ヲ擲ニシ、**淵道**ニ投ジテ、已レヨリ先ニ趙ニ歸ラシメ、而シテ其身ハ秦ノ處分ヲ待チタリケレバ、昭王相如ニ氣ヲ吞マレテ、敢テ秦ヲ加ヘズ、彼ハ賢者ナリトテ、何事モナク趙ニ歸レケル、

秦王約趙王會渑池、相如從及飲酒、秦王請趙王鼓瑟、趙王鼓之、相如復請秦王擊缶、秦王不肯、相如曰、五

步之内、臣得<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>頸血<sub>レ</sub>澣<sub>レ</sub>大王、左右欲<sub>レ</sub>刃<sub>レ</sub>之、相如叱<sub>レ</sub>之、皆靡<sub>レ</sub>、秦王為<sub>レ</sub>一擊缶、秦終<sub>レ</sub>不能<sub>レ</sub>有加<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>趙、趙亦盛<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>之、備<sub>レ</sub>秦不<sub>レ</sub>敢<sub>レ</sub>動。

**渑池** 渑池ノ渑ハ音<sub>レ</sub>ヨウニシテ、**缶** 酒器ナリ、秦ノ俗之ヲ擊チテ以テ樂ヲ節ス、**五步之内** 歩ト為ストキハ、五歩ハ三十二尺ナリ、其一尺ヲ今ノ七寸二分ト積ルトキハ、二十三尺四分ナリ、之ヲ今ノ六尺一間トスルトキハ、三間ト五尺四分ナリ、即チ五歩ノ内ハ、四間以内ノ距離ニシテ至テ近キヲイフ、**頸血澣大王** 頸ノ血ヲ大王ニ澣ギカケントス、義ニテ王ノ生命ハ我が手ノ中ニ

ニ如クハ、莫<sub>レ</sub>ニ從親スルトキハ、諸侯地ヲ割キテ以テ楚ニ事ヘン、衛合スルトキハ、楚地ヲ割キテ以テ秦ニ事ヘン、此兩策相去ル<sub>レ</sub>遠シ、大王何ニカ居ルト、此ノ如ク或ハ怒ラレ、或ハ却カレ、智辯

ナ、秦ニ使セシメタリ、相如既ニ秦ニ至リテ、昭王ニ謁シ、齋ラス、所ノ壁ヲ獻ジケルニ、果シテ王ハ璧ヲ奉ヒ、城ヲ償フニ意ナカリケレバ、相如乃チ王ヲ給キテ、璧ニ瑕アリ、臣請フ王ノ為ニ指シ示サントイヒケレバ、王之ヲ實ナリト思ヒテ、相如ニ授ケ、ルニ、相如之ヲ取リテ、大ニ怒リ、髮ノ毛逆ダチテ、冠ヲ指シ貫ク程ノアリサマニテ、**激柱**ノ下ニ欲キ立テ、臣ガ頭ハ今此壁ト與ニ碎クルナリトイヒナガラ、從者ニ命ジテ、璧ヲ擲ニシ、**淵道**ニ投ジテ、已レヨリ先ニ趙ニ歸ラシメ、而シテ其身ハ秦ノ處分ヲ待チタリケレバ、昭王相如ニ氣ヲ吞マレテ、敢テ秦ヲ加ヘズ、彼ハ賢者ナリトテ、何事モナク趙ニ歸レケル、

秦王約趙王會渑池、相如從及飲酒、秦王請趙王鼓瑟、趙王鼓之、相如復請秦王擊缶、秦王不肯、相如曰、五

ヲ以テ誘ヒケレバ從約立ドコロニ成リテ其身六國ノ相印ヲ佩ビ錦ヲ衣テ故郷ニ還ルノ榮ヲ得タリ而シテ其本心ハ六國ノ為ニ忠謀セシニ非ズ嘗テ秦王ニ説キテ天下ヲ兼并スルノ術用

ヒラレザリシヨリ轉ジテ六國ニ説キ以テ一時ノ富貴ヲ博セシナリサレド其心術ノ何如ヲ論ゼズ六國ニシテ從親セバ秦ハ畏ルニ足ラズ之ヲシテ忽チ解散セシムレハ六國ノ為ニ惜ム

在リトノ○廉草ノ風ニ吹キツケラレタルガ如久一同ニ向ヒ得ヌヲイフ

講義

秦ノ昭王趙ノ惠文王ト約シテ河外ノ澠池ニ會ス藺相如陪從セリサテ會場ニテ酒宴ト為

リシ時昭王惠文王ニ二十五絃ノ瑟ヲ彈ゼンテ請ス趙ノ邯鄲ニハ娼妓多クシテ皆善ク瑟ヲ彈ズルガ故ニ之ヲ惠文王ニ彈ゼシメテ耻辱ヲ與ヘントセシナリ惠文王乃チ瑟ヲ把リテ之ヲ彈ジケレバ相如更ニ昭王ニ請ヒテ曰ク缶ヲ擊チテ秦國ノ俗聲ヲ為セヨト秦ハ戎狄ニ近クシテ音樂ナク瓦缶ヲ擊チテ歌フト田舎漢ノドンブリバノノ敲クト一般ナレバ之ヲ昭王ニ擊タシメテ瑟ノ返報ニ耻辱ヲ與ヘントセシナリ然ルニ昭王之ヲ告ンゼザリケレバ相如王ニ強請シテ曰ク大王臣ガ請ヲ聽カズンバ眼前ニ頸血ヲ以テ大王ニ濺ギルント述バケレバ王ノ近臣一度ニ立チテ之ヲ必殺セ

セント欲セシニ相如目ヲ張リテ之ヲ叱リツケレバ皆震懾シテ向フ者ナク昭王相如ノ為ニ一タビ缶ヲ擊チ會畢ルマデ秦終ニ趙ニ威カヲ加フルヲ能ハズ趙ノ方ニテモ亦盛ンニ之ガ警備ヲ為シテイザトイハツ干戈ニ訴フバキ氣色ナリケレバ秦敢テ手出シテ為サズ退キケル

趙王歸以相如為上卿在廉頗右頗曰我為趙將有攻城

野戰之功相如素賤人徒以口舌居我上吾羞為之下我

見相如必辱之相如聞之每朝常稱病不欲與爭列出望

見輒引車避匿其舍人皆以為耻相如曰夫以秦之威相

如廷叱之辱其群臣相如雖獨畏廉將軍哉顧念強秦



其鷄口牛後 不取加兵於趙者徒以吾兩人在也今兩虎共鬪其勢不

ノ喻ハ韓侯 俱生五所以爲此者先國家之急而後私讐也頗聞之肉

キレニテ普 袒負荆謝罪遂爲刎頸之交

ク諸侯ニ説 輯釋右 頗師古曰久古者右ヲ以テ尊シトス、兩漢刊

キレニハ非 誤ニ云ク古者居ルトキハ左ヲ貴ビ、兵ヲ用

璧ヲ完タウ フルトキハ右ヲ貴ブ、右ヲ貴アハ、戰國ノ時俗ニ似

セシ事ト、秦 タリト、蓋シ左右ヲ以テ尊卑ヲ分ツトハ、古來一ニ

王ニ岳ヲ擊 シテ止マラズ、故ニ其處ニ因リテ釋スマレ、今廉

タレノ事 頗ノ右ニ在リトハ、廉頗ノ上位ニ在ルトナリ、

トヲ以テ危 羞 氣ハツカレク思フナリ、

險ノ呼爲ト 羞 慙愧トハ又少シク異ナリ、

爲ス者アリ 朝 意味ヲ含ミタル

明ノ趙溺其 キトアリコ、ニチハソノタビゴトニナリ、

説ヲ駁シテ 曰ク、赦王ノ 舍人 舍ハ猶ホ宮ノゴトシ、宮中ニテ殺ヲ用フル

末周室衰微 者ヲ平ニスルト主ル者ナリトアリ、頗師古曰ク、

シ、秦昭久シ 舍人ハ親近左右ノ通稱ニシテ、後ニハ遂ニ私屬ノ

ク六國ヲ鯨 官蹄ト爲ルト、古昔漢土ニテ舍人トイハバ、天子ノ

吞スルノ心 奴ノ稱トナリ、

アリ、故ニ趙 駑 馬ノ鈍劣ナル者ヲイフ、相如駑

璧ヲ欲シテ、 タルモノナリ、

易フルニ十 〇私讐 怨ナリ、

五城ヲ以テ 〇肉袒負荆 袒ハハダヲヌ

セント請フ、 〇内袒負荆 袒ハハダヲヌ

豈誠心ナラ 〇詣 候至

ンヤ、將ニ趙 〇刎頸之交 互ニ先ノ爲ニハ命ヲ棄ツル勢リナリ、

講義

惠文王國ニ歸リ、藺相如ヲ優待シテ上卿ト爲

ス、其位廉頗ノ上ニ在リシカバ、頗心ニ平ナラ

ス、其位廉頗ノ上ニ在リシカバ、頗心ニ平ナラ

ス、其位廉頗ノ上ニ在リシカバ、頗心ニ平ナラ

ス、其位廉頗ノ上ニ在リシカバ、頗心ニ平ナラ

ニ及ビテ城ヲ償フニ意ナシ相如乃チ璧ヲ紹キテ遣リ歸シ身ヲ以テ命ヲ待ツ秦王賢トシテ禮シテ之ヲ歸ス豈相如ノ膽略ヲ重ンジテ趙ニ人アルヲ畏レシニ非ズヤ既ニシテ澠池ノ會ニ趙

カシテ曰ク我趙ノ將ト為リテ或ハ城ヲ攻メ或ハ野ニ戰ヒ其武功一方ナラズ相如ハ素ヨリ微賤ノ人ナリ口頭ノ辯舌ノミニシテ我が上ニ居ル吾之ガ下ト為ル一ヲ羞ツ我相如ニ面會セバ必ズ之ニ耻辱ヲ與ヘンモノヲトツバヤキ居タリケレバ相如之ヲ聞テ朝參ノ日ゴトニイツモ病氣ト言ヒ立テ引籠リ列次ノ高下ヲ頗ト争フ一ヲ欲セズ外ニ出デ頗ノ來ルヲ望見スルトキハ其タビゴトニ車ヲ引カセテ弛路ニ避ケ匿レケレバ相如ノ家淑等ハ皆之ヲ耻辱ト思ヒテ何故ニ注公ハカクマデ廉頗ヲ畏レラルニヤト言ヒ合ヒケシム相如謂テ曰ク秦王ガ威勢ノ天下ニ敵ナキヲ以テスラ吾之ヲ廷上ニ呵叱シテ滿朝ノ群臣ヲ辱シメシツヤ吾驚駭ナリト雖氏獨リ廉將軍ヲ畏レンヤ吾驚ト勘辨スルニ強大ナル秦國ノ兵ヲ我が趙ニ加ハサルハ廉將軍ト吾トノ兩人在ルバカリニチナリ

ヲ視ル一机上ノ肉ノ如シ故ニ趙主ニ怒ヲ鼓セシテ請ヒ天以テ之ヲ挫辱セリ若シ相如岳ヲ擊ツ一ヲ請ハズンバ秦必ズ其弱ヲ欺キテ未ダ必ズシモ楚懷ノ虜ト為サズンバアラズ故ニ相

今兩頭ノ猛虎相闘ハ其勢雙方俱ニ生クル一ハ叶フマシ趙國若シ一人ヲ缺カバ恐ラクハ外患ヲ免レ難シ吾ガ平日病ト稱シ避ケ匿ルハ全ク國家ノ急務ヲ大切ニシテ一己ノ私怨ヲ差ル置クガ故ナリト述ベケレバ頗之ヲ聞テ慙愧ニ耐ヘズ真ニ藺君ハ豪傑ノ士ナリトテ宿憤忽チ冰解シ自ラ襁ヲキテ肉體ニ荆杖ヲ負ヒ相如ノ門ニ進ミ至リテ前日ノ失禮ヲ謝シ重ク杖罰セラレヨト乞ヒケレバ相如ハ何ノ意ニ介ム所モナク遂ニ相誓ヒテ死生ヲ共ニシ無ニノ親友トハナリニケル

惠文王子孝成王立秦伐韓韓上黨降於趙秦攻趙廉頗軍長平堅壁不出秦人行千金為反間曰秦獨畏馬服君趙奢之子括為將耳王使括代頗相如曰王以名使括若

如威ヲ奮ヒテ廷叱シ乃チ一たび兵ヲ撃テテ罷ム而シテ秦終ニ敢テ動カズ後二十餘年ニ逮ブマテ敢テ兵ヲ趙ニ加フルナカリシハ相如ト廉頗トヲ懼レシガ為ナリ是時趙ニ相如ノ佐ナ

ナリセバ邯鄲ノ亡始皇ノ十九年ニ在ラズシテ巳ニ周ノ赧王ノ三十六年ニ在リレナラント余以為澠池ノ會ニ秦王ノ氣ヲ奪ヒ以テ趙王ノ辱ヲ雪ギレハ相如ノ為ス所實ニ壯快トイフベシ

膠柱鼓瑟耳。括徒能讀其父書不知今變也。王不聽。趙奢嘗テ趙ノ將ト為リテ功アリ蹄ヲ馬服ト賜フ馬服ハ猶ホ服馬トイフガ

ゴトシ古來戰爭ニハ馬ヲ用フルガ故ニ軍事ヲ指シテ兵馬トイヒ武官ニ司馬ノ稱アリ服馬ハ軍事ニ服事スルノ謂ナリ

○膠柱ハ絃下ノ厲足ニシテ瑟ヲ彈上下シテ聲ヲ調スル者ナリ若シ膠ナドニテ一處ニ凝定スルトキハ調子ヲ變化スルハズ

○講義 惠文王ノ子孝成王ノ立ツニ及ビ秦昭襄王シテ韓ヲ伐タシメ上黨ノ地ヲ攻メテ之ヲ拔キケレバ上黨ノ人民趙ニ降ル王詭因テ師ヲ轉シテ趙ヲ攻ム廉頗長平邑ニ出陣シ堅ク城壁ヲ守リテ戰ハズ秦人乃チ許多ノ金銀ヲ術使シテ趙人ノ情ヲ離間セシメテ曰ク秦ハ只獨リ馬服君趙奢ノ子

ナル括ガ將軍ト為ラントテ畏ルハバカリナリト孝成王之ヲ聞テ趙括ヲ廉頗ニ交代セシメケレバ簡相如曰ク君王虛名ヲ信ビテ趙括ヲ任用セラルハ括ニ膠シテ瑟ヲ彈アルガ若キモノナリ括ハ能ク其父ノ兵書ヲ讀ミレマデノトニテ機ニ臨ミ變ニ合スル策略ヲ知ラズ僅ニ二十五絃ノ瑟ニシテスラ音律ノ變化ハ極マリナキモノナルニ況ヤ死生ヲ決シ勝敗ヲ定ムル一大事ニ於テ豈書物上ノ理窟ヲ墨守スルトテ得ンヤト諫メケレド王

之ヲ聽キ納レズレテ遂ニ括ヲ將軍ト為シ又括少學兵法以天下莫能當與父奢言不能難然不以爲然括母問故奢曰兵死地也而括易言是趙若將括必破

趙軍及括將行其母上書言括不可使括至軍果爲秦將

十八史略 卷七 集解 趙世家

集解 趙世家

集解 趙世家

集解 趙世家

集解 趙世家

集解 趙世家

集解 趙世家

集解 趙世家

集解 趙世家

集解 趙世家

集解 趙世家

豈之ヲ危險  
ナリトテ一

ニ秦王ノ意  
ヲ撞ニセシ

ムルヲ得  
ニヤ其壁ヲ

奉アルノ一  
事モ亦相如

ニ於テ盛シ  
ナリト雖氏

趙ノ為ニハ  
決シテ取ル

ベカラズ虎  
狼ノ秦若シ

是時ニ於テ  
害ヲ相如ニ

加ハナバ趙  
豈之ヲ一壁

ニ代フル  
ヲ得シ秦王

ガ之ヲ歸セ  
シハ誠ニ幸

ノ三原來壁  
ハ趙ノ物ニ

非ヤヤ秦百  
城ヲ舉ゲテ

之ヲ求ム氏  
興ヘザラン

ト欲セバ其  
ヘズシテ可

ナリ豈相如  
ノ秦ニ入ル

白起所射殺卒四十萬皆降坑於長平。

輯釋難

詰辨ナリ、ムヅカシキ問ヲ設  
ケテ、先キコマラスルヲナリ、  
射殺射ハユ

ワザトイフ名詞ニナルトキハ、  
トイフ動詞ニナルトキハ、セキ  
ノ音ナリ、故ニ射殺トイフ

トハイヘド、射殺トハイハズ、  
射殺トハイハズ、坑字面ノ通リニ

中ニ埋メタルナリ、サレド四十  
萬ノ多人數ヲ埋ムベキ穴モアル  
マジキヲナレバ、古人谷ニ壓レ  
タル

ノ説アリ、又人ヲ陷イルナドノ  
陷ノ字ト同ジク、其知ラザルヲ  
掩ヒテ、害ヲ加ヘタルナリ、ト  
イフ説アリ、秦ノ始皇ノ條ニモ、  
儒ヲ坑ニスストアレバ、蓋シ懸

崖ヨリ深谷ニ撞キ落シテ壓殺セ  
レトナラシカ、而シテ其四十萬人  
トアルハ、史ノ過言ナリトテ、朱  
熹ハ取ラズ、其數餘リニ夥多ナル  
ヲ以テナリ、

講義 趙括幼少ノ頃ヨリ兵法ヲ  
學ビテ、天下吾ニ向ク者ナシト  
思ヒ、其父奢ト兵ヲ談ズルニ、  
辯論サレテ父ハ之ヲ許サズリケ  
レバ、括ノ母其仔細ヲ尋ネケル  
ニ、奢曰ク、戦争ハ命ヲ棄ツル處  
ナルニ、括ガ事モナゲニ之ヲ言フ  
ハ、大ナル心得違ナリ、趙國萬一  
括ヲ將トセバ、必ズ趙ノ軍ヲヤリ  
ソコナフベシト答ヘタリ、今ヤ趙  
括將ニ長平ニ行カントスルニ及ビ、  
其母書ヲ國君ニ上リテ、括ハ任  
用セラレバ、非ズト言ヒケレバ、  
遂ニ聽カレズシテ、戰場ニ赴キケ  
ルガ、果シテ兩親ト隣相如トノ説  
ニ違ハズ、妄リニ廉頗ノ約束ヲ變  
更シテ、敵ヲ輕シジタリケレバ、  
秦人手ヲ拘テ大ニ喜ビ、陰ニ白  
起ヲ上將トシテ、令ヲ嚴ニシ、待  
テ受ケタリ、然ルニ趙括之ヲ知ラ  
ズ、兵ヲ出ダシテ秦ヲ撃テケレバ、  
白起僅リテ敗走シ、奇兵ヲ張りテ、  
其糧道ヲ絶テ、括ヲ一箭ニ射

坑ニ入ル

坑ニ入ル

坑ニ入ル

坑ニ入ル

坑ニ入ル

坑ニ入ル

坑ニ入ル

坑ニ入ル

ヲ待テテ後 始メテ趙ノ 侮リ難キヲ 知ラシムルヲ要セシキ其與ヘザラント欲スレバ秦ノ強キヲ畏ルトハ沙汰ノ限リト謂ツベシ秦ノ暴ハ惡ムベク趙ノ弱ハ憐ムベキトニゾアリケル

殺シテ降卒四十萬人ヲ長平ノ深谷ニ壓殺シ其小者二百餘人ヲ遺シテ趙ニ歸シタリシト云フ

趙相平原君公子勝食客常數千人客有公孫龍者爲堅白同異之辨

武靈王ノ公子名ハ勝トイフ者アリ國ノ宰相トナリテ平原ノ地ニ封セラレ平原君ト號ス其家ニ寓スル食客ノ多キヲ常ニ數千人アリテ中ニ公孫龍トイフ一客アリ堅白同異ノ辨ヲ著ス堅白同異トイフハ後世諸家ノ說詳ナラズ或ハ云フ堅白ハ守白ナリ同異ハ異ナル者ヲ同シウヤシムルノ義ナリ言フコトハ堅ク其說ヲ執リテ之ヲ守リ衆人ノ異論ヲレテ己ガ意見ニ合同セシムルヲイフナリト此解固ヨリ尤當ニハアラザルベレト雖氏姑ク之ニ從ヒテ續考ヲ俟ツ

○趙ノ平原 龍頭 君ガ救ヲ楚ニ求ムルヤ門下ノ文武備具セル者ヲ擇ビ六毛遂其選ニ中ラザリシカバ遂之ヲ憤リテ自ラ薦ム善ク一身ノ輕キヲ以テ趙ヲ九鼎大呂ヨリ重カラシメタル論者遂ガ

十八史畧講義大全卷八

東京 島寄友輔 著

秦攻趙邯鄲平原君求救於楚擇門下文武備具者二十

人與之俱得十九人毛遂自薦平原君曰士處世若錐處

囊中其末立見今先生處門下二年未有聞遂曰使遂得

處囊中乃穎脫而出非特末見而已平原君乃以備數十

九人目笑之至楚定從不決毛遂按劍歷階升曰從之利

害兩言而決耳今日出而言日中不決何也楚王怒叱曰

奮激ヲ稱シ 天客ニ人材 ナキヲ嘆ク 三千ノ大衆 僅ニ二十人ヲ求メテ足ラズ其十九人モ亦人ニ因リテ事ヲ成ス者ナルヲ見テ實ニ其人ニ乏レキヲ知ルベキノ三趙ノ李牧ハ北邊ノ良將ナル

胡不下吾與而君言汝何爲者毛遂按劍而前曰王所以叱遂以楚國之衆也今十步之內不得恃楚國之衆也王之命懸於遂手以楚之強天下莫能當自起小堅子耳一戰而舉鄢郢再戰而燒夷陵三戰而辱王之先人此百世之怨趙之所羞合從爲楚非爲趙也王曰唯唯誠若先生之言謹奉社稷以從遂曰取雞狗馬之血來捧銅盤跪進曰王當歃血而定從次者吾君次者遂左手持盤右手招十九人歃血於堂下曰公等碌碌所謂因人成事者也平

嘗ヲ代ノ雁門ニ居リテ匈奴ニ備ハ日ニ數牛ヲ擊ナテ士卒ヲ饗シ敢テ師ヲ出ダサハル一數年匈奴以テ怯ト爲シ其部下モ亦以テ吾ガ將ハ怯ナリト爲シ邊士日ニ賞賜ヲ得テ無事ニ苦シム

原君定從歸曰毛先生一至楚使趙重於九鼎大呂以遂爲上客楚將春申君救趙會魏信陵君亦來救趙大破秦軍邯鄲下

**輯釋自薦** 自身ヲ薦舉スルヲイフ ○士 此ニイフ士ハ男子ノ通稱ニシテ士卒ノ士ニ非ズ

**穎脫** 穎ハ鏘ノ鏘ナリ穎脫トハキリノ按ハ撫ナリツルギノツカニ手ヲカクルヲイフ ○歷階 歷ハ踰ナリ階ハ堂トアガルヲ言フ ○十步之内 因リテ筭スルトキハ今ノ四十六尺八分ニシテ即チ七間四尺八分ナリ但シ前ニモ言ヒタル通り五步之内十步

ハ分ナリ但シ前ニモ言ヒタル通り五步之内十步

皆一戰ヲ願フニ至ル是

ニ於テ大ニ匈奴ヲ破リ

無慮十餘萬騎ヲ殺ス是

ヨリ匈奴趙ノ邊ニ近ヨ

ラズ其後入リテ將ト爲

リ奇功ヲ建ツルト少カ

ラズ然ルニ一朝敵國ノ

友間ニ遣ヒ、倭臣ノ發古

ハントイフモ、其實ハ社ノ方ノミニテ、稷ノ方ハ添

ヘ字ナリ、但シ社稷ノ本義ハ此ノ如クナレド、ソレ

ヨリ推シ移リテ、猶ホ國家トイフガゴトクニ用フル處モアルナリ

漢土ニ於テ誓約ヲ定ムルニハ、盟ニ與カル者互ニ禽獸ノ生血ヲロノ影ニ塗リ、其餘リテ壇ノ西隅ノ

土中ニ瘞ノテ、以テ約束ヲ結ビタル驢トスル風習アリ、史記ノ索隱ニ、盟ノ牲ヲ用フルト、貴賤同レカ

ラズ、天子ハ牛馬ヲ用ヒ、諸侯ハ犬狼ヲ用ヒ、大夫以下ハ雞ヲ用フ、毛遂ガ雞狗馬ノ血ヲ請ヒシハ、蓋シ

總盟ノ牲ヲ用フルナリトアリテ、馬ノ血ヲ用フルハ、天子ノ盟ニ限リタルトナレド、戰國ノ時諸侯王

號ヲ僭稱スル程ノ勢ナレバ、是等ノ定メテ誰カハ守ル者アラシ、故ニ諸侯及ビ其臣下ノ總盟ニ、雞狗

馬ノ血ヲ併セ、○捧、兩手ニテ承ク、○跪、兩膝ヲ折リテ取リシナリ

○跪、屈ノテ、地ニ

○跪、屈ノテ、地ニ

○跪、屈ノテ、地ニ

○跪、屈ノテ、地ニ

○跪、屈ノテ、地ニ

○跪、屈ノテ、地ニ

○跪、屈ノテ、地ニ

○跪、屈ノテ、地ニ

○跪、屈ノテ、地ニ

之内ナドイフハ、何モ接近ノ事ニテ、何尺何寸ト限リタルニハ非ズ、○小堅子耳、庸劣ナルト童堅ノ如シト、○一戰而舉鄆郢再戰而燒夷、テ罵詈レタルナリ、楚ノ頃襄王ノ二十年ニ、秦ノ

陵三戰而辱王之先人

白起楚ヲ伐ナテ、鄆ヲ拔キ、二

十一年ニ、又其國都鄆ヲ拔キ、歴世墳墓ノ地ナル夷

陵ヲ燒久、是時頃襄王亡ゲテ陳ニ走ル、故ニ先人ヲ辱シムトイフ、先人ハ即チ頃襄王ニシテ、考烈王ノ

父ナリ、鄆鄆ヲ舉ストハ、鄆鄆ヲマルドリニシタル

ヲイ、○社稷、社ハ土神ナリ、稷ハ穀神ナリ、人ノ國ハ土地ト穀物トニ依リテ立ツ者ユエニ、

古昔漢土ニ於テ、國ヲ建ツルニハ、必ズ土神ト穀神トヲ祭リシナリ、而シテ社ヲ陰トシ、稷ヲ陽トス、戰

争ハ陰ニ屬スルヲ以テ、軍行ニハ土神ヲ車ニ載セテ行ク、穀神ハ之ニ與カラズ、故ニ社稷ヲ奉ジテ從

○雞狗馬之血、昔

漢土ニ於テ誓約ヲ定ムルニハ、盟ニ與カル者互ニ禽獸ノ生血ヲロノ影ニ塗リ、其餘リテ壇ノ西隅ノ

土中ニ瘞ノテ、以テ約束ヲ結ビタル驢トスル風習アリ、史記ノ索隱ニ、盟ノ牲ヲ用フルト、貴賤同レカ

ラズ、天子ハ牛馬ヲ用ヒ、諸侯ハ犬狼ヲ用ヒ、大夫以下ハ雞ヲ用フ、毛遂ガ雞狗馬ノ血ヲ請ヒシハ、蓋シ

總盟ノ牲ヲ用フルナリトアリテ、馬ノ血ヲ用フルハ、天子ノ盟ニ限リタルトナレド、戰國ノ時諸侯王

號ヲ僭稱スル程ノ勢ナレバ、是等ノ定メテ誰カハ守ル者アラシ、故ニ諸侯及ビ其臣下ノ總盟ニ、雞狗

馬ノ血ヲ併セ、○捧、兩手ニテ承ク、○跪、兩膝ヲ折リテ取リシナリ

○跪、屈ノテ、地ニ

○跪、屈ノテ、地ニ

十八史略 卷八 九鼎大呂 九鼎ハ禹ノ九鼎ナリ、大呂ハ周ノ

合スル者ナリ、並ビニ當時ノ最モ貴重スル所ナリ、

○九鼎大呂 九鼎ハ禹ノ九鼎ナリ、大呂ハ周ノ

朝ノ大鐘ノ名ニシテ、其音大呂ニ

合スル者ナリ、並ビニ當時

ノ最モ貴重スル所ナリ、

趙ノ孝成王ノ八年ニ、秦趙ノ都邯鄲ヲ攻ム、平

原君救援ヲ楚ニ求メントシテ、其事ヲ難ンシ

門下ノ食客中文武兩道ヲ兼備具足セル者二十人

ヲ擇ビテ、隨行セシメ、楚王ニ謁シテ利害ヲ極論シ、

以テ其承諾ヲ得ント欲シ、然ルベキ人物ヲ十九人

マデ備置シタリケルガ、猶ホ一人足ラザルニ因リ、

誰ニカセント評議マテ、チ々々ナリシ時、其客中ニ毛

遂トイフ者アリテ、自ラ員ニ加ハラントテ望ミ出

テケレバ、平原君遂ニ謂テ曰ク、男子タル者、身ヲ當

世ニ處置スルハ、雖ノ穢中ニ處ルガ若ク、其尖端立

ドコロニ見ハレ出ツルハ、ツナルニ、今先生ハ吾ガ

門下ニ處ラル、一三年ノ久シキニ及ベ、未ダ嘗

テ才名ノ聞エシテアラズ、故ニ吾初メヨリ先生ヲ

拔カザリシナリト語リケルニ、遂曰ク、若シ僕ヲシ

テ囊中ニ處ルコトヲ得サセシナラバ、鉅額脱出シテ、

全體ヲ呈露スベシ、特ニ尖端ノ見ハル、ノミニ非

者ケテ、尻ヲウカセテ、蹴

ニ著ケヌヲ、蹴ト曰フ、

○敵血 盟ヲ者血ヲ以テ、口

ノ旁ニ塗ルコトナリ、

○碌碌 俗ニゴロ々トイフコトニテ、ヤクザ石ノ數

ヲイ

○九鼎大呂 九鼎ハ禹ノ九鼎ナリ、大呂ハ周ノ

朝ノ大鐘ノ名ニシテ、其音大呂ニ

合スル者ナリ、並ビニ當時

ノ最モ貴重スル所ナリ、

趙ノ孝成王ノ八年ニ、秦趙ノ都邯鄲ヲ攻ム、平

原君救援ヲ楚ニ求メントシテ、其事ヲ難ンシ

門下ノ食客中文武兩道ヲ兼備具足セル者二十人

ヲ擇ビテ、隨行セシメ、楚王ニ謁シテ利害ヲ極論シ、

以テ其承諾ヲ得ント欲シ、然ルベキ人物ヲ十九人

マデ備置シタリケルガ、猶ホ一人足ラザルニ因リ、

誰ニカセント評議マテ、チ々々ナリシ時、其客中ニ毛

遂トイフ者アリテ、自ラ員ニ加ハラントテ望ミ出

テケレバ、平原君遂ニ謂テ曰ク、男子タル者、身ヲ當

世ニ處置スルハ、雖ノ穢中ニ處ルガ若ク、其尖端立

ドコロニ見ハレ出ツルハ、ツナルニ、今先生ハ吾ガ

が段木ノ

間ニ式セシ

時、其價曰ク、

君胡爲式ス

ルヤ、侯曰ク、

段干木ハ徳

ニ光リ、寡人

ハ地ニ光ル

段干木ハ義

ニ富ミ、寡人

ハ財ニ富ム

吾安ゾ敢テ

之ニ驕ラン

ト、其後文侯

舉ゲテ相ト

爲サント欲

セシニ、木削

テ受ケザリ

ケレバ、侯之

ヲ待ツコト益

厚シ、居ルコ

テ才名ノ聞エシテアラズ、故ニ吾初メヨリ先生ヲ

拔カザリシナリト語リケルニ、遂曰ク、若シ僕ヲシ

テ囊中ニ處ルコトヲ得サセシナラバ、鉅額脱出シテ、

全體ヲ呈露スベシ、特ニ尖端ノ見ハル、ノミニ非

ズ、僕ガ是マデ聞達ヲ得ザリシハ、未ダ事ニ當ラザ

ルガ故ナリト對ヘケレバ、平原君其捷對ニ感シテ

乃チ人數ノ中ニ加ヘタリ、十九人ノ客ハ之ヲ見テ、

皆心中ニ遂ヲ悔リ、互ニ目ヲバ見合セテ、笑ヒサゲ

スム様子ナリ、サテ平原君ハ二十人ヲ具レテ楚ニ

至リ、考烈王ニ謁見シテ、兩國ノ合從ヲ定メンコトヲ

議シケルニ、果シテ王ハ承諾セズ、之ヲ反覆シテ更

ニ決スル色ナカリケレバ、是時毛遂劒把ニ手ヲカ

シテ、

劒ヲ

刺シ

テ、

王ヲ

驚

カ

シ

テ

九鼎大呂

九鼎ハ禹ノ九鼎ナリ、大呂ハ周ノ

朝ノ大鐘ノ名ニシテ、其音大呂ニ

合スル者ナリ、並ビニ當時

ノ最モ貴重スル所ナリ、

趙ノ孝成王ノ八年ニ、秦趙ノ都邯鄲ヲ攻ム、平

原君救援ヲ楚ニ求メントシテ、其事ヲ難ンシ

門下ノ食客中文武兩道ヲ兼備具足セル者二十人

ヲ擇ビテ、隨行セシメ、楚王ニ謁シテ利害ヲ極論シ、

以テ其承諾ヲ得ント欲シ、然ルベキ人物ヲ十九人

マデ備置シタリケルガ、猶ホ一人足ラザルニ因リ、

誰ニカセント評議マテ、チ々々ナリシ時、其客中ニ毛

遂トイフ者アリテ、自ラ員ニ加ハラントテ望ミ出

テケレバ、平原君遂ニ謂テ曰ク、男子タル者、身ヲ當

世ニ處置スルハ、雖ノ穢中ニ處ルガ若ク、其尖端立

ドコロニ見ハレ出ツルハ、ツナルニ、今先生ハ吾ガ

門下ニ處ラル、一三年ノ久シキニ及ベ、未ダ嘗

テ才名ノ聞エシテアラズ、故ニ吾初メヨリ先生ヲ

拔カザリシナリト語リケルニ、遂曰ク、若シ僕ヲシ

テ囊中ニ處ルコトヲ得サセシナラバ、鉅額脱出シテ、

全體ヲ呈露スベシ、特ニ尖端ノ見ハル、ノミニ非



秦君以テ然  
リトシテ敢  
テ魏ヲ侵サ  
ハリシトナ  
リ、古人以テ  
文侯ガ良師  
ヲ得ルヲ多  
トス、武侯ガ  
世子タリシ  
時、道ニ田子  
方ニ遇ヒテ、  
驕ノ一字ヲ  
問答セシ事  
ヲ、宋ノ呂祖  
謙論シテ曰  
ク、留貴ハ以

ケテ、階ヲ踰エ堂ニ升リ、王ニ向ヒテ謂テ曰ク、兩國  
合スレバ利アリ、離ルレバ害アリ、利ト害トノ兩言  
ニテ、事速ニ決メンノミ、然ルニ今ヤ、日、出ヨリ、商、議  
シ、日、中ニ至ルマデ決セザルハ何事ゾヤ、王之ヲ聞  
テ大ニ怒リ、汝何故ニ堂ヲ下ラザルヤ、吾ハ而ガ主  
君ト言ハシ、汝ハ何レバ、カ、ル無禮ノ舉動ヲ  
為スバト叱シケルニ、遂ハ之ヲ事トセズ、王ノ問  
迎ニ前ミヨリテ曰ク、王ノ遂ヲバ叱セラル、ハ、楚  
國ノ多人數ヲ恃ミテナリ、今此十步以内ニ於テ、其  
多人數ハ恃ミ難シ、王ノ一命ハ遂ガ手ニ懸レリ、王  
能ク考ヘ見ラレヨ、楚ノ強キ一方、今天下ニ向フ者  
ナク、秦ノ白起ハ取ルニ足ラザル小豎子ノミ、然ル  
ニ、白起貴國ヲ侵シ、一戰シテ郢トヲマシ、ドリ  
ニシ、再戰シテ夷陵ヲ燒キ、三戰シテ王ノ先人ヲ辱  
シム、天下第一ノ強國ニシテ、一小豎子ニ破ラレシ  
ハ、貴國子々孫々マデノ仇怨ニシテ、趙ニ於テモ、氣

テ人ニ驕ル  
ベカラズ、貪  
賤モ亦豈人  
ニ驕ルコトヲ  
得シ、子奪ハ  
勢ヲ以テ人  
ニ驕ラント  
欲シ、子方ハ  
學ヲ以テ人  
ニ驕ラント  
欲ス、二者ノ  
病ハ一般ナ  
リト、余謂フ、  
貪賤ノ驕ル  
ベカラザル  
事ハ、呂氏ノ

羞ツカシク思フ所ナリ、故ニ兩國ノ合從ハ、楚ノ為  
ニシテ、趙ノ為ニ非ズ、王何ゾ同意セラレザルヤト  
テ、否トイハシ、即坐ニ王ヲ刺シ殺スベキ勢ナリシ  
カバ、考烈王ハ解、蹇ガリ、忽チ之ヲ承諾シテ曰ク、唯  
唯、誠ニ先生ノ言ハル、通りナリ、謹ミテ社稷ヲ奉  
ジテ、出陣ノ用意ヲ為シ、以テ來命ニ應ズベシト答  
ヘタリ、毛遂乃チ左右ヲ顧リシテ、雞狗馬ノ血ヲ取  
リ來レト命ジケレバ、堂上ノ人之ヲ綱盤ニ盛リテ  
遂ニ授ク、遂之ヲ兩手ニ捧ゲテ、王ノ前ニ跪キテ曰  
ク、王當ニ血ヲ飲リテ、從約ヲ定ムベシ、其次ハ吾ガ  
君、其次ハ遂ナリトテ、考烈王ヨリ平原君ニ移シ、ソ  
レヨリ堂下ニ退キテ、左ノ手ニ盤ヲ持シ、右ノ手ニ  
十九人ヲ招キ、相與ニ血ヲ飲リテ曰ク、松、等、碌、ケト  
レテ用ヲ為サズ、世ニ謂フ所ノ人ニ因リテ事ヲ成  
ス者ナリ、僕公等ト伍スルコトヲ願ハズトイヒケレ  
バ、十九人ノ輩皆面目ヲ失ヒヌ、サテ平原君ハ從約

ヲ定メテ趙ニ歸リ、厚ク毛遂ニ謝シテ曰ク、毛先生一タビ楚ニ至リ、我が趙國ヲレテ、天下至寶ノ九鼎大呂ヨリモ貴重ナラレメタリトテ、是ヨリ遂テ社稷トセリ、カクテ楚ハ春申君黃歇ヲ將トシテ趙ヲ救ヒ、魏ノ信陵君無忌モ亦來リテ趙ヲ救フニ會ヒテ、大ニ秦ノ軍ヲ邯鄲ノ城下ニ破リケル。

孝成王子悼襄王立、思復用廉頗、爲將時頗奔在魏、使人

視頗、頗之仇郭開與使者金、令毀之、頗見使者、一飯斗米

肉十斤、被甲上馬、以示可用、使者還曰、廉將軍尚善飯、然

與臣坐頃之、三遺矢矣、王以爲老、遂不召、楚人迎頗於魏、

頗爲將無功、曰、我思用趙人、尋卒、趙得李牧爲將、先居

北邊、破匈奴、悼襄王子幽繆王遷立、秦王政遣兵攻趙、牧

爲大將、敗之、秦縱及間言、牧將及遷、誅之、秦兵至虜、遷趙

之士大夫立趙嘉爲王、王于代、秦進攻破嘉、遂滅趙爲郡

輯釋斗米 漢土古代ノ一升ハ、大約今ノ一合ホドニ當ル、故ニ斗米ハ今ノ一升米ト知ルベシ

○遺矢 矢ハ、殿ナリ、史記ノ索隱ニ、三タビ遺矢ストハ、數便ニ起ツヲイフトアリテ、其老病用フ

ルニ堪ヘザルヲ形容セシナリ、○尋 俄ナリ、久レカラザルナリ、マ

リ、○匈奴 唐虞以上ハ山戎ト曰ヒ、又獯鬻ト曰ヒ、夏ニハ淳維ト曰ヒ、殷ニハ鬼方ト曰ヒ、

周ニハ玁狁ト曰ヒ、秦漢ニハ匈奴ト曰ヒ、魏隋唐ニハ突厥ト曰ス、今ノ亞細亞土耳其ナリ、

ノ守ナル吳  
起ハ臣ガ薦  
ムル所ナリ  
君郭ノ地ヲ  
憂慮セラレ  
シカバ臣西  
門豹ヲ薦メ  
タリ君中山  
ヲ伐タント  
欲セラレシ  
カバ臣樂羊  
ヲ薦メタリ  
中山已ニ拔  
ケテ之ヲ守  
ルベキ人ナ  
カリシカバ

臣先生ヲ薦  
メタリ君ノ  
子ニ博ナカ  
リシカバ臣  
屈侯鮒ヲ薦  
メタリ耳目  
ノ睹記スル  
深臣何ゾ魏  
成ニ召ケン  
克曰久魏成  
ガ薦ムル所  
ノ三人ハ君  
皆之ヲ師ト  
ス子ガ薦ム  
ル所ノ五人  
ハ君皆之ヲ

講義

孝成王ノ子悼襄王ノ立ツニ及ビ今一タビ廉  
頗ヲ用ヒテ將軍トセント思ヒタリ時ニ廉頗  
ハ趙ヲ出奔シテ魏ニ在リケレバ王人ヲシテ頗ノ  
尚ホ用フベキヤ否ヤヲ視ニ遣ハシケルニ王ノ嬖  
臣郭開トイフ者カネテ廉頗ト中アシキニ因リ其  
進路ヲ妨グント欲シテ王ノ使者ニ賄賂ヲ與ヘ頗  
ノ事ヲバ王ニ讒毀セシメント謀リタリサテ廉頗  
ハ趙ノ使者來ルト聞テイト懐カシク思ヒケレバ  
使者ヲ饜餼シテ一度ノ飯ニ一升米ヲ食ヒ十斤ノ  
肉ヲ立ドコロニ平ラゲテ甲ヲ着シ馬ニ乘リ勇氣  
凜々トシテ將帥ノ任ニ堪フベキヲ示シケルガ  
使者ハ郭開ノ請托ニ因リ趙ニ還リテ上陳シテ曰  
久廉將軍ハ年老イタレ氏尚ホ善ク飯スル一壯夫  
ノ如シ然レ氏臣ト對坐スル一頃刻ノ間ニ三タビ  
齋ニ如キテ大便ヲ遺シタリ何トイヒテモナト老  
イ込ミクル様ニ見受ケタリト實シヤカニ述ベケ

レバ王之ヲ聞テ使者ノ造言ナリトハ知ラズモハ  
ヤ廉頗ハ老衰セリト心得テ遂ニ之ヲ召シ出カサ  
ズ然ルニ楚人頗ノ英名ヲ聞テ魏ヨリ之ヲ迎ヘ立  
テ將軍ト為シケルニ其後トシテ戰功ヲ建テス  
シテ曰久我ハ趙國ノ將軍ト為リテ趙人ヲ用ヒタ  
ク思フナリ今日楚國ニ在ルハ我が本意ニ非ズト  
テソレヨリ間モナク死去シタリケルサテ又趙ニ  
於テハ李牧トイフ豪傑ヲ得テ將ト為ス故ハ其以  
前北方ノ邊境ニ居リテ匈奴ヲ破リシ者ナリ悼襄  
王ノ子幽王遷立ツニ及ビ秦王政人數ヲ遣リテ  
趙ヲ攻ム故大將ト為リテ之ヲ敗ル秦反間ヲ縱チ  
テ故ハ將ニ謀及セントスト宣信セシメケレバ遷  
之ヲ信シテ牧ヲ誅ス是ニ於テ秦ノ人數ハ忽チ趙  
ノ内地ニ入り遷ヲ虜ニス趙ノ諸臣趙嘉ヲ立テ  
王ト為シ代郡ニ據ル秦既ニ邯鄲ヲ拔キ進ミテ代  
ヲ攻メ嘉ヲ破リ遂ニ趙ヲ滅ボシテ郡ト為シマ其

魏

臣トス子惡  
シ魏成ニ比  
スルヲ得  
ン翟璜之ヲ  
聞テ自ラ魏  
成ニ及バザ  
ルヲ悟リ  
再拜シテ曰  
ク璜ハ鄙人  
ナリ願ハク  
ハ今ヨリ先  
生ニ從ヒテ  
教ヲ受ケン  
トテ李克ガ  
侯ノ前ニ已  
ヲ稱揚セザ

間金ヲ受ケテ素ノ為ニ李牧ヲ罪ニ陷シ  
イレタル者ハ亦嬖臣郭開ナリトゾ

魏之先本與周同姓。文王子畢公高之後也。國絕有苗裔

曰畢萬。事晉。邑于魏。數世有絳。絳後四世曰桓子。者與韓

趙共滅知氏。而分之。桓子之孫曰文侯。斯者。周威烈王

命為侯。以ト子夏。田子方。為師。過段干木之間。必式。四方

賢士多歸之。

輯釋

草ノ初生ヲ苗ト曰ヒ衣ノ裾ヲ裔ト曰  
フソレヨリ人ノ胤孫ノ事トナルナリ

式車ト云ニ在リテ首ヲ俛レ恭ヲ致スヲ式ト曰フ式  
軾ニ憑リ義ニ取ルナリ古者車箱ノ長サ四尺

四寸ニシテ之ヲ三分シ前一後ニ一木ヲ横  
タフ其下車牀ヲ去ル一三尺三寸之ヲ軾ト謂フ軾  
ノ上二尺二寸ニ又一木ヲ横タフ之ヲ較ト謂フ立  
乗スルトキ平常ハ則チ較ニ憑ル若シ敬禮ヲ致ス  
バキトキハ則チ手ヲ落シテ下  
軾ニ憑リ其頭ヲ俯俛スルナリ

講義

魏ノ先祖ハ本周ト同ジク姬姓ニシテ文王ノ  
子ナル畢公高ノ子孫ナリ中ゴロ其國絶エケ

ルヲ恨マ  
ザリシトナ  
リ德川家光  
ノ時松平忠  
郷卒シテ會  
津城ニ主チ  
シ家光其要  
鎮ナルヲ以  
テ殊ニ其代  
ヲ難シシ密  
ニ藤堂高虎  
ニ諭シテ之  
ヲ移サント  
欲セシニ高  
虎老憊ノ故  
ヲ以テ之ヲ

ルガ其末胤ニ畢萬トイフ者アリ晉ニ事ヘテ魏ノ  
邑ニ封セラハ其後數世ヲ歷テ絳トイフ者アリ絳  
ノ後四世ヲ歷テ桓子トイフ者アリ韓趙兩氏ト共  
ニ知氏ヲ滅ボシテ其地ヲ三分ス桓子ノ孫文侯斯  
トイフ者周ノ威烈王ノ命ヲ以テ諸侯ト為ル文侯  
賢ニシテ孔子ノ門人ト子夏ト又其門人田子方ト  
ニ師事シ姓ハ饒干名ハ柎トイフ高德ノ士ヲ尊重  
シ外ニ出デハ其居住スル里門ノ前ヲ過グルトキ

辭し而シテ  
加藤嘉明ヲ  
薦ふ家光之  
ヲ誦リテ曰  
久聞ク子ハ  
嘉明ト相諾  
ハサル久  
シト今如何  
ゾ之ヲ舉ケ  
ルヤ高虎曰  
久國家ノ重  
事臣戀ゾ私  
怨ヲ以テ公  
議ヲ廢セシ  
ヤト家光喜  
ビテ其言ニ

ハ必ズ車上第二ノ横木マデ手ヲ下ゲテ前面ニ俛  
シ以テ敬禮ヲ表シケル此ノ如ク諸侯ノ貴キヲ以  
テ善ク人ニ下リケレバ四方ノ賢士之ヲ  
欲慕シテ來歸スル者甚カ多カリシトゾ

文侯之子擊。遇子方于道。下車伏謁。子方不為禮。擊怒曰。

富貴者驕人乎。貧賤者驕人乎。子方曰。亦貧賤者驕人耳。

富貴者安敢驕人。國君而驕人。失其國。大夫而驕人。失其

家。士人貧賤者。言不用。行不合。則納履而去耳。安往而不

得貧賤哉。擊謝之。

輯釋納履トイフガゴトトク○謝之義ナリ

從入嘉明之  
ヲ聞テ深ク  
感慨シ遂ニ  
高虎ト修睦  
セシトナリ  
李克ガ翟璜  
ニ於ケルト  
高虎ガ嘉明  
ニ於ケルト  
ハ其情相反  
シテ正ヲ持  
スルハ一ナ  
リニ子ノ如  
クニシテ而  
シテ後ニ始  
メテ與ニ國

講義

文侯ノ子擊トイフ者、嘗テ道上ニ於テ父ノ師  
田子方ニ行キ遇ヒシカバ、車ヲ下リ拜伏謁見

セシニ、子方傲然トシテ答禮セザリケレバ、擊怒リ

テ難問シテ曰久人ニ對シテ驕リ高ブル者ハ富貴

ニ在ルカ、貧賤ニ在ルカ、子方曰久世ニ驕リ高ブル

者多シト雖氏亦貧賤ナル者真ニ驕リ高ブルトヲ

得ベキノミ、富貴ナル者安ゾ驕リ高ブルトヲ押シ

通シ得ニソハ何故ゾトイハバ、一國ノ君主ニシテ

人ニ驕レバ、百姓離散シテ其國ヲ捧ニフル者ナリ

縉紳大夫ニシテ人ニ驕レバ、奴僕背叛シテ其家ヲ

棒ニフル者ナリ夫士ノ貧賤ナル者、言論世ニ用ヒ

ラレズ、行為時ニ合ハザレハ、何時ニテモ履ヲ納レ

テ其國ヲ立チ去ルマデノトナリ、既ニ貧シク且賤

シ、何者カ捧ニフルモノアラン、安クノハテニ往ク

トテモ、貧乏卑賤ハ得ラレヌトナリ、故ニ人ハ貧賤

ニシテ而シテ後始メテ人ニ驕リ高ブルベキ者ナ

ノ大業ヲ謀  
ルベシ吳起  
が將ヲ求ム  
ルヤ其妻ヲ  
殺シ將ヲ得  
ルヤ其卒ヲ  
吮フ何ゾ妻  
ニハ殘ニシ  
天卒ニハ恩  
アルヤ蓋シ  
功名ヲ貪ル  
ノ念腔子裏  
ニ滿ナ天  
理人情ヲ失  
ヒシ者ナリ  
豈君ノ國ヲ

リト、從容トシテ對ヘケレバ、擊大ニ  
慚服シテ、前ノ失言ヲ謝シニケル、  
文侯謂李克曰、先生嘗教寡人家、貧思良妻、國亂思良相、

今所相非魏成、則翟璜、二子何如、克曰、居視其所親、富視

其所與、達視其所舉、窮視其所不為、貧視其所不取、五者

足以定之矣、子夏、田子方、段干木、成所舉也、乃相成、

講義 文侯嘗テ其臣李克ニ謂テ曰、久先生或ル時寡  
人ニ教ヘラレシヲアリ曰、久家ノ貧シキ時ハ、

一家ヲ經營スベキ良妻ヲ得タク思ヒ、國ノ亂ルハ、  
時ハ、一國ヲ維持スベキ良相ヲ得タク思フ者ナリ、

ト、實ニ先生ノ名言ノ如ク、此亂世ニ當リテ、特ムベ  
キ者ハ良相ノミ、今寡人ガ宰相トシテ然ルベシト

思フ人物ハ、魏成ニ非ザレバ、翟璜ナリ、此兩人ハ孰  
カ可ナラシ請フ寡人ガ為ニ之ヲ告ゲヨ、克曰、久凡

ソ人品ヲ燈識スルニハ、五ツノ視ドコロアリ、未ダ仕  
ヘズシテ家ニ居ル時ハ、其親シム所ニ眼ヲ着ケヨ、

財富ニ産裕ナル時ハ、其與フル所ニ眼ヲ着ケヨ、達  
官顯職ニ進ム時ハ、其舉グル所ニ眼ヲ着ケヨ、事ニ

臨ミテ窮迫スル時ハ、其游サル所ニ眼ヲ着ケヨ、貧  
乏ナル時ハ、其取ラザル所ニ眼ヲ着ケヨ、其親シム

所善ナレバ、其人必ズ君子ナリ、其與フル所當ヲ得  
レバ、其人必ズ君子ナリ、其舉グル所賢ナレバ、其人

必ズ君子ナリ、公正ニシテ苟モ道ヲ枉ゲズ、廉潔ニ  
シテ苟モ操ヲ濫サザレバ、其人必ズ君子ナリ、之ニ

反スル者ハ、必ズ小人ナリ、此五ツノ者ニ就テ其一ヲ  
視バ、宰相其人ヲ定ムルニ足ラン、今成朝ニ列シテ

其身既ニ達スル者ト謂フベシ、則チ其舉グル所ヲ  
視ルニ、子夏、田子方、段干木ノ三賢ナリ、然ラバ則チ

テ、徳ニ在リ

ヲ兵ニ在ラ  
ザルハ亦

吳起ノ知ラ  
ザル所ナリ

止張儀ガ蘇  
秦ノ説ニ反

シテ六國ヲ  
連衡セシメ

タル事ヲ詳  
ニセシニ周

ノ顯王ノ三  
十七年ニ蘇

秦趙ヲ去リ  
テ從約解ケ

其四十一年  
ニ張儀秦ノ

成ガ器量ノ優ナルヲ知ルベキナリト述ベケレ  
バ、文侯之ヲ然リトシテ乃チ魏成ヲ宰相ト爲シヌ

有衛人吳起者。初仕魯。魯欲使起擊齊。而起恐之。

起殺妻以求將。大破齊師。或曰。起殘忍薄行人也。起恐得

罪歸魏。文侯以爲將。拔秦五城。起與士卒同衣食。卒有病

疽起吮之。卒母聞而哭曰。往年吳公吮其父。不旋踵死敵

今又吮其子。妾不知其死所矣。

**輯釋** 疽 正字通ニ、癰ノ深キ者ヲ疽ト曰フ。疽ハ深ク  
レテ惡シク、癰ハ淺クシテ大ナリトアリ、

○不旋踵 踵ハ足後ナリ、踵ヲ旋ラサズトハ、敵ニ背  
ヲ見セヌトイフニ同ジ、一説ニ、踵ヲ旋ラ

スノ間ヲ待タズ敵ニ死スルヲ謂フニテ、  
其久シカラザルヲ言フナリトイヘリ、

**講義** 衛國ノ人ニ吳起トイフ者アリ、初メ魯ニ仕フ、  
魯君起ヲ將トシテ齊ヲ擊タシメント欲セシ

ニ、起ハ齊國ノ女ヲ娶リ居タルヲ以テ魯人其貳心  
アラント疑ヒケレバ、乃チ其妻ヲ誅シテ將官

ヲ求ム大ニ齊ノ師ヲ破ル然ルニ或ル人起ノ所爲  
ヲ惡ミテ、彼如何ニ信ヲ國人ニ得ント欲スルニモ

セヨ、妻ヲ殺ストイフハ、殘忍刻薄ノ人ナリトイヒ  
ケレバ、起ハ其事ニ坐シテ罪ヲ得ント恐レテ魏

ニ投ズ、文侯之ヲ舉ゲテ將ト爲シ、秦ヲ擊チテ五城  
ヲ拔ク、起ガ將タルヤ士卒ト衣服飲食ヲ同ジウシ

テ、拊循至ラザル所ナシ、嘗テ一卒アリ、疽ヲ病ミケ  
レバ、起自ラロヲ以テ其膿血ヲ吮ス、卒ノ母之ヲ聞

テ、號哭シテ曰ク、往年吳公吾ガ兒ノ父ノ膿血ヲ吮  
ハレケルガ、父其恩ニ感ジテ、戰場ニ臨ミ、敵ニ背ヲ

相ト爲リ魏  
ヲ世キテ地  
ヲ獻セシメ、  
其四十六年  
ニ出テ、魏  
ノ相ト爲リ、  
慎觀王ノ四  
年ニ復ハリ  
テ秦ノ相ト  
爲ル、是時魏  
王ニ説キテ  
曰ク、梁ノ地  
方千里ニ至  
ラズ、卒三十  
萬ニ過ギバ  
地四平ニシ

六名山大川ノ限リナク卒ノ四境ヲ成ル者十萬ニ下ラズ梁ノ地勢ハ固

ニ戰場ナリ夫諸侯ノ從ヲ約スルハ結ビテ兄弟ト爲リテ相堅クセント

欲スレバナリ今親兄弟ノ父母ヲ同シカスルモ

尚ホ錢財ヲ争ヒテ相殺傷スルヲアリ而ルニ表裏及覆ノ蘇秦が餘謀ヲ恃マント欲スルハ其成ラガルト亦明ケレ大王秦ニ事ハバ

見セカシテ戰死セリ然ルニ今又其子ヲ吃ハル由ナレバ定メシ兒モ亦恩ニ感シテ公ノ爲メニ報ハル所アルマシ妾ハ吾ガ子ノ何ニ死スルヤヲ知ラズトテ深ク嘆キ悲ミケルトナリ

文侯卒子擊立是爲武侯武侯浮西河而下中流顧謂吳

起曰美哉山河之固魏國之寶也起曰在德不在險昔三

苗氏左洞庭右彭蠡禹滅之桀之居左河濟右泰華伊闕

在其南羊腸在其北湯放之紂之國左孟門右太行恒山

在其北太河經其南武王殺之若不修德舟中人均敵國也武侯曰善

講義

文侯卒シテ其子擊立ツ是ヲ武侯ト爲ス武侯嘗テ其國境ナル西河ニ船ヲ浮ベテ下リ中流

ニ於テ吳起ヲ顧リミテ曰クナント美ナルデーハナイカ山ト河トノ國縱令百萬ノ敵アリ正此天險

ヲ涉越シテ内地ヲ窺フ能ハズ是實ニ魏國萬世ノ寶ナリト嘆稱シケルニ吳起曰ク國勢ノ振張ハ

君王ノ威徳ニ在リテ土地ノ險要ニ在ラズ昔三苗氏ハ洞庭湖ヲ左ニシ彭蠡澤ヲ右ニス然レ正夏ノ

禹王之ヲ滅ボシタリ桀ノ居ハ河濟ノ二水ヲ左ニシ泰華山ヲ右ニシ伊闕山ハ其南ニ在リ鞏陽坂ハ

其北ニ在リ然レ正殷ノ湯王之ヲ殺チタリ紂ノ國ハ孟門山ヲ左ニシ太行山ヲ右ニシ恒山ハ其北ニ

在リ太河ハ其南ヲ經テ流ル然レ正周ノ武王之ヲ殺シタリ若シ吾ガ君徳ヲ修メ衆ヲ愛セズンバ此

舟中ノ人皆魏ノ敵國ト爲ルベシト述バケレバ武侯之ヲ聞テ至極尤ナリト答ヘケル



テ成ヲ秦ニ  
請ス其後報  
王ノ四年楚  
ニ説キテ曰  
久夫六國ノ  
秦ニ抗スル  
ハ群羊ヲ驅  
リテ猛虎ヲ  
攻ムルニ異  
ナラズ今王  
秦ニ事ヘズ  
ンバ秦韓ヲ  
劫レ梁ヲ驅  
リテ楚ヲ攻  
メニ大王誠  
ニ臣ニ聽カ

武侯卒子惠王營之東敗於齊將軍龐涓與太子申皆死  
南敗於楚西喪地於秦乃卑辭厚幣以招賢者孟子至而  
不用子襄王立孟子去之齊

**講義**

武侯卒レテ其子惠王營ノ立ツニ及ビ東ノ方  
ハ齊ニ敗ラレテ將軍龐涓馬陵ニ死シ太子申  
廟トナリテ亦敵ノ手ニ死シ南ノ方ハ楚ニ敗ラレ  
テ其七邑ヲ亡ビ西ノ方ハ秦ニ迫ラレテ土地ヲ喪  
フ七百里此ノ如ク敗ヲ四隣ニ取リシヲ以テ其  
耻ヲ雪ガント欲シ言辭ヲ卑クシ幣物ヲ厚クシテ  
賢人名士ヲ招キ以テ富國強兵ヲ謀リシカバ孟子  
至リテ説クニ治國ノ要道ヲ以テセシカド之ヲ用  
ヒガリケレバ其子襄王立ツニ及  
ビテ魏ヲ去リ齊ニ之キニケル

ハ請フ秦楚  
ヲレテ長ク  
兄弟ノ國ト  
爲ラレメン  
ト楚王之ヲ  
許スソレヨ  
リ韓ニ説キ  
テ曰ク韓ノ  
地險惡山居  
シテ國ニニ  
歳ノ食ナシ  
見卒二十萬  
ニ過ガズ而  
シテ秦ノ兵  
八百餘萬山  
東ノ士ハ甲

魏人有張儀者與蘇秦同師遊楚為楚相所厚妻媼有  
語儀曰視吾舌尚在否蘇秦約從時激儀使入秦儀曰蘇  
君之時儀何敢言蘇秦去趙而從解儀專為橫連六國以  
事秦秦惠王時儀嘗以秦兵伐魏得一邑復以與魏而欺  
魏割地以謝秦歸為秦相已而出為魏相實為秦地襄王  
時復歸相秦已而復出相魏以卒

**輯釋**

激スルヲイフ○為秦地秦也ト讀ムミシ  
魏國ノ人ニ張儀トイフ者アリ蘇秦ト同ジク  
鬼谷先生ニ學ビケルガ嘗テ楚ニ漫遊シテ其

**講義**

魏國ノ人ニ張儀トイフ者アリ蘇秦ト同ジク  
鬼谷先生ニ學ビケルガ嘗テ楚ニ漫遊シテ其

王之ヲ許ス、張儀歸リテ、秦ニ報不惠、王之ヲ封シ、テ武信君ト爲ス、ソレヨリ齊ニ説キテ曰ク、合従ノ説ヲ爲ス者ハ必不曰、ハン、齊ハ三晉ニ蔽ハレテ、地廣ク民衆ク、兵彊ク、士勇ナリ、百秦アリト雖、

宰相ニ辱シメラレシ時、妻之ヲ諷リテ、言語ヲ以テ儀ヲ犯シケレバ、儀ハ古ヲ出カシテ、妻ニ謂テ曰ク、汝吾ガ古ヲ熟視セヨ、吾ガ古ハ尚ホ在リヤ無シヤ、吾ガ古未知カ、失セズンバ、他日必ズ天下ヲ動かス、アルベシト述ベケルガ、其後蘇秦合従ヲ約シテ、六國ノ宰相ト爲リシ時、儀ヲ召シテ、故ニ之ヲ罵辱シ、秦ニ入りテ我が敵ト爲ラシム、其時儀蘇秦ニ謂テ曰ク、蘇君ノ勢ヲ得ラル、間ハ儀何ゾ敢テ意見ヲ主張セン、儀ガ事ヲ舉グルハ他日ニ在リト別レケルガ、其後蘇秦趙ヲ去リテ、從約ヲ解スルニ及ビ、儀ハ秦ニ在リテ宰相ト爲リ、專ラ連横ノ説ヲ唱ヘ、六國ヲ連ネテ秦ニ事ヘシメ、秦ノ惠王ノ十年即チ魏ノ惠王ノ四十三年ニ、自ラ秦兵ニ將トシテ魏ヲ伐テ、其邑蒲陽ヲ取り、秦王ニ言テ、復之ヲ魏ニ與ヘ、且ツ公子繇ヲ魏ニ質ダラシメテ、魏王ニ説テ曰ク、秦ノ魏ヲ遇スルヲ甚カ厚シ、魏ニ於テモ秦ニ禮ナ

王之ヲ許ス、張儀歸リテ、秦ニ報不惠、王之ヲ封シ、テ武信君ト爲ス、ソレヨリ齊ニ説キテ曰ク、合従ノ説ヲ爲ス者ハ必不曰、ハン、齊ハ三晉ニ蔽ハレテ、地廣ク民衆ク、兵彊ク、士勇ナリ、百秦アリト雖、

ク、バアル、ベカラズト欺キテ、更ニ上郡十五縣ヲ割リテ秦ニ獻ジ、不恭ノ罪ヲ謝セシメ、其後魏ノ惠王ノ四十八年ニ、秦ノ宰相ヲ免シテ出デ、魏ノ宰相ト爲ル、其本心ハ秦ノ爲ニ計ラヒシナリ、其後魏ノ襄王ノ元年ニ、復歸リテ秦ノ宰相ト爲リ、其八年復出デ、魏ノ宰相ト爲リ、一年ニシテ卒ス、  
魏安釐王立封公子無忌爲信陵君、無忌愛人下士、食客三千人、秦攻趙、魏王使晉鄙救之、秦昭王欲移兵先擊救者、王恐、止晉鄙兵壁于鄴、又使新垣衍説趙共尊秦爲帝、魯仲連往見行、曰、彼秦者、天下之亂也、即肆然帝天下、則連有蹈東海而死耳、衍再拜曰、先生天下士也。

秦アリト雖、

氏將齊秦  
何氏スル

吾不敢復言帝秦矣。

趙ノ廉頗ノ條ニ壁ヲ堅

ナレト大王  
其説ヲ賢ト

トアルハ、鄴ノ地ノ軍壘ニ屯駐セシメテナリ、故ニ壁

計ラズハ秦  
テ其責ヲ

ヲ堅クストイヘバ、壁ノ字「ト」リデトイフ、銘詞ニナ

楚嫁娶シ韓  
ハ宜陽ヲ獻

リ、鄴ニ壁ストイヘバ、壁ノ字「ト」リデトイフ、**○上首功**

以梁ハ河外  
ヲ效シ、趙ハ

上ハ尚ナリ、首功トハ、敵ノ首ヲ斬ル勲功ナリ、秦商

河間ヲ割ク  
大王秦ニ事

鞅ノ計ヲ用ヒテ、二十等ノ爵ヲ置キ、一人ノ首ヲ斬

ヘズンバ、秦  
韓梁ヲ驅リ

レバ、爵一等ヲ進ム、故ニ之**○肆然**猶ホ侈然トイフ

テ南地ヲ攻  
人趙ノ兵ヲ

ヲ首功ヲ上ブノ國トイフ、**○肆然**がゴトシ、即チ**跋**

ヲ指サシ然  
ラバ則チ臨

肆ノ意 **○蹈東海** 魯仲連ハ齊人ナリ、齊ハ東海ニ濱

ノ有ニ非ザ  
ルナリト齊

ナリ、**○肆然**がゴトシ、即チ**跋**

王之ヲ許ス  
ソレヨリ趙

ヲ攻メテ、且**肆然**ニ下サントス、諸侯敢テ救フ者ア

ニ説キテ曰  
久大王天下

ヲ其兵ヲ却ケント欲シタリ、然ルニ齊ノ魯仲連之

ヲ收率シテ  
以テ秦ヲ擯

ヲ聞テ、衍ノ許ニ至リ、面會シテ曰ク、彼ノ秦ハ禮節

ス、秦ノ兵敢  
テ函谷關ヲ

義理ノ顧リニ及、唯、戰場ニ敵ノ首ヲ斬ル者ノミヲ

出デザル一  
十五年、心ニ

優賞スルノ暴國ナレバ、唯、我ガマ、増長シテ、天

十五年、心ニ

下ニ帝ト爲ル一アラバ、連之ガ臣民タルヲ願ハズ

十五年、心ニ

レバ、衍坐ヲ起チテ再拜シテ曰ク、先生ハ天下第一

念怒ヲ含ム  
一久シム敵

甲冑兵アリ  
澠池ニ軍ス

願ハクハ邯鄲ノ下ニ會

戰セン謹テ使臣ヲシテ

先ヅ左右ニ聞セシム今

楚ハ秦ト昆弟ト爲リ韓

梁ハ藩臣ト稱シ齊ハ魚

鹽ノ地ヲ獻ス此趙ノ右

肩ヲ斷ツナハ大夫右肩ヲ

斷チテ人ト闘ヒ其黨ヲ

失ヒテ孤居セバ危キナカラント

欲スルモ得ンヤ臣竊ニ

大王ノ爲ニ計ルニ秦ト

約シテ兄弟ノ國ト爲ル

ニ若クハナシト趙王之

ヲ許スソレ

ムベキナレバ吾決シテ再ビ秦ヲ  
帝トスルヲ申スマジト答ヘケル

趙平原君夫人無忌姊也趙急使者冠蓋相望書救於無

忌無忌請於王及使賓客游說萬端王不聽客侯嬴救無

忌禱於王幸姬竊得晉鄙兵符且薦力士朱亥與俱謂晉

鄙合符而疑則擊殺而奪其軍一如嬴言得兵以進大破

秦兵解邯鄲圍而無忌不敢歸魏

輯釋冠蓋相望 櫛ノ齒ヲヒクガ如シナドイフニ同  
シク往來ノ絶間ナキヲ形容セルナ

リ冠ハ頭上ノ冠ナリ蓋ハ車上ノ蓋ナリ前ノ使者  
ガ向フカラ歸リ來レバ後ノ使者ガ此方ヨリ出向

キ途中ニテ冠ト蓋トガ行キ  
逢フ程ニ催促ノ繁キヲイヌ ○游說萬端 種々ト辯

ナリ猶ホ百方游說 ○禱 頼ミ込ム ○兵符 符ハ信ナ  
トイフガゴトシ

ヲ以テ之ヲ爲ル故ニ字竹ニ從ス後世詐偽百出シ  
竹ハ得易キ物ニシテ之ガ防ヲ爲スニ足ラザルニ

因リ銅鐵金銀等ヲ以テ物象ヲ鑄テ之ヲ用フル  
ニナレリ其品ハ時代ニ因リテ異ナリト雖氏其用

法ハ一ナリ符ノ面ニ文字ヲ刻シ之ヲ中分シテ一  
ハ之ヲ國君ノ手ニ留ム一ハ之ヲ將軍ニ與ヘ置キ

事故アリテ命令ヲ發スル時ハ必ズ國君ノ手許ニ  
在ル者ヲ使者ニ授ケテ將軍ノ屯營ニ至ラシメ大變

方之ヲ合セテ以テ傳令ノ證據ト入之ヲ兵符ト曰  
ス朱熹曰久此ニ兵符トイフハ蓋シ銅虎符ナラン

ト意フニ戰國時代ハ既ニ人心詐偽多クナリシ  
ヲナレバ朱說ノ如ク竹製ニテハ非ザルヤシ

史記卷八 秦本紀第八 十六 集解 趙世家

ヨリ燕ニ説  
キテ曰ク趙  
已ニ秦ニ事  
ス大王秦ニ  
事ヘズンハ  
秦甲ヲ雲中  
九原ニ下シ  
趙ヲ驅リテ  
燕ヲ攻メン  
然ラバ則チ  
易水長城ハ  
王ノ有ニ非  
サルナリト  
燕王五城ヲ  
獻シテ以テ  
和センヲ

**講義** 趙ノ平原君勝ノ缺人ハ信陵君無忌ノ姉ナリ  
ケレバ趙ノ籠城危急ニシテ平原君ノ使者ハ  
引キモキラズ魏ニ往來シ以テ救ヒヲ無忌ニ潛漬  
ナシケレバ無忌ハ深ク之ヲ憂テ安釐王ニ上請  
シ且門下ノ賓客ヲシテ百方游説セシメケレバ王  
之ヲ聽キ納レズレテ術計已ニ盡キ果テシカバ無  
忌ハ獨リ賓客ト與ニ赴キ援ケントマデ決心シタ  
リケルガ其上客ニ侯嬴トイフ者アリ無忌ニ教ヘ  
テ王ノ愛妾如姫ニ依頼シ向キニ晉鄙ニ與ヘラレ  
タル兵符ノ一伴ヲ王ノ佩納ヨリ竊ミ取ラシメ且  
又勇力無雙ノ士朱亥トイフ者ヲ無忌ニ薦メテ鄴  
ノ屯營ニ隨行セシメ大王ノ號令ヲ矯メテ晉鄙ヲ欺  
キ直チニ趙ニ進マシムベシ彼若シ符ヲ合セテ之  
ヲ疑ハズ朱亥ヲシテ撃チ殺サシメ其軍ヲ奪ヒテ  
公親ラ之ニ將トシ進ムベシト勸メケレバ無忌ハ  
一ニ聽ガ言ノ如ク取計ラヒ朱亥ト俱ニ鄴ニ至リ

請フ張儀乃  
チ秦ニ歸リ  
テ連衡全ク  
成リレ事ヲ  
報ゼントセ  
シニ惠王薨  
ビテ其子武  
王立ツ武王  
太子タリシ  
時ヨリ儀ヲ  
説ビサリレ  
ヲ以テ君相  
ノ間好カラ  
ズト聞エケ  
レバ諸侯皆  
復秦ニ畔ク

符ヲ合セテ出陣ヲ命ジケルニ晉鄙果シテ之ヲ疑  
フ色アリケレバ朱亥重サ四十斤ノ鐵椎ヲ袖ニシ  
テ立ドコロニ鄙ヲ推殺シ其兵八萬人ヲ掄選シテ  
趙ニ入り大ニ秦ノ兵ヲ破リテ邯鄲ノ國ヲ解キヌ  
其後無忌ハ一將ニ命ジテ士卒ヲ魏ニ還シ其  
身ハ趙ニ留マリテ決レテ歸國セザリケル  
秦伐魏魏患之使人請無忌不肯歸客毛公薛公見曰魏  
急而公子不恤一日秦克大梁夷先王宗廟公子何面目  
立於天下乎無忌趨駕還諸侯聞無忌爲魏將皆遣救無  
忌率五國兵敗秦兵於河外追至函谷關而還無忌卒十  
八年而魏王假後又二年秦王政遣兵伐魏殺王假而

是ニ於テ張儀説リテ武滅魏爲郡

輯釋毛公薛公 故ニ只其姓ヲ稱ス ○公子 無忌

相ト爲リ、一年ニシテ卒ス、蘇秦張儀從横ノ説ヲ以テ諸侯ニ游ビ、各富貴ヲ致セシカバ天下爭ヒテ之ニ效ヒ、公孫衍蘇代、蘇厲、周最、樓緩ノ徒紛々

君ニ向ヒテ大王トイフニ同シ ○不恤 心配セヌ

一旦 時日ヲレカト指シ定メタルニ非ズ、何ノ日ニカ何々レタランニ ○大梁 魏ハ大梁ニ都ス、故ニ魏ハトイフナリ、○夷 名トリケルガ故ニ、大ノ字ヲ添ヘテ之ヲ別ス

○夷 名トリケルガ故ニ、大ノ字ヲ添ヘテ之ヲ別ス

○趙 趙ノ地ナリ、○河外 黄河ノ南岸ニレ

○河外 黄河ノ南岸ニレ

講義 安釐王ノ三十年ニ、秦蒙驁ヲシテ魏ヲ伐タシ

リ招カシメシニ、無忌之ヲ承諾セザリケレバ、嘗テ

其門ニ客タリシ毛薛ノ兩氏、趙ニ至リテ、無忌ニ説

キテ曰ク、公子ノ諸侯ニ重ンゼラル、所以ハ、魏ノ

アルヲ以テナリ、然ルニ目下魏ノ危急ニ際シテ、公

子之ヲ憂恤セズ、若シ一旦秦兵大梁ニ克チテ、先祖

代々ノ宗廟ヲ毀ナナバ、公子何ノ面目アリテカ、此

天ガ下ニ身ヲ立ツルヲ得ン、一刻モ早ク歸國アリテ、國難ヲ救ハレテ可ナリト述ベケレバ、其言未ダ卒ラザルニ、無忌ハ顔色ヲ變ジ、即時歸装ヲ整ヘテ魏ニ還リケレバ、安釐王ハ無忌ノ手ヲ執リテ涕泣シ、立テ、之ヲ上將軍ト爲ス、諸侯無忌ガ魏ノ將ト爲ルヲ聞クヤ、皆援兵ヲ差シ向ケ、レバ、無忌乃々楚、燕、魏、趙、韓五國ノ人數ヲ率ヒテ、秦ノ兵ヲ河水ノ南岸ニ敗リ、之ヲ追撃シテ、函谷關マデ至リテ引

トシテ東西ニ奔走シ、發メテ詐辯ヲ以テ相高ブル者勝ゲテ記スベカラズ、抑漢土ノ方域ヲ僅ニ六七國ニテ占有スル程ノ大諸侯ニテアリナガラ、二三游士ノ爲ニ、其方

向ヲ左右セラレ、忽チ合

韓

シ忽チ離レ  
忽チ集マリ  
忽チ散ゼシ  
ハ、周末澆季  
ノ時トハイ  
ヒナガエ、淺  
マシカリケ  
ル有様ナリ、  
如何ニ名利  
ヲ為ニモセ  
ヨ、儀ハ魏ノ  
人ニシテ、終  
始敵國ノ為  
ニ謀リ、其君  
ヲ欺キ其地  
ヲ售リ、遂ニ

キアゲタリ、ソレヨリ四年ヲ歷テ無忌卒シ、又十八  
年ヲ歷テ、魏王假立チ、又二年ヲ歷テ、秦王政兵ヲ差  
シ向ケテ、魏ヲ伐チ假ヲ殺シ、遂  
ニ魏ヲ滅ボシテ郡ト爲シヌ、

韓之先本與周同姓。武王子韓侯之後也。國絕其後裔事

晉爲韓氏。韓武子之三。世曰厥厥。五世至康子。與趙魏共

滅知氏。又二世曰景侯。度以周威烈王命爲侯。

講義 韓ノ先祖ハ本周ト同ジク姫姓ニシテ、武王ノ  
子ナル韓侯ノ子孫ナリ、中ゴロ其ノ國絶エケ

ルガ、其後裔ニ韓武子ト曰フ者アリ、晉ニ事ヘテ韓  
原ニ封ゼラル、因テ韓氏ト爲ル、ソレヨリ三世ヲ

ト曰フ、厥ヨリ五世康子ニ至リ、趙魏兩國ト共ニ知  
氏ヲ滅ボシテ、其地ヲ三分ス、ソレヨリ又二世ナル

景侯、度トイフ者ニ至リ、周ノ威  
烈王ノ命ヲ以テ諸侯ト爲ル、

韓相俠累與濮陽嚴仲子有惡。仲子聞軹人聶政之勇、以

黃金百鎰爲政母壽。欲因以報仇。政曰：老母在。政身未可

以許人也。及母卒。仲子乃使政圖之。俠累方坐府。兵衛甚

嚴。政直入刺之。因自皮面抉眼。韓人暴其尸於市。購問莫

能識。姪妾往哭之。曰：是深井里聶政也。以妾在。故重自刑。

以絶蹤。妾奈何畏没身之誅。終没賢弟之名。遂死政尸旁。

輯釋 濮陽 古ノ邑名ナリ、春秋ノ時ニハ、晉ニ屬シ、  
戰國ノ時ニハ、韓ニ屬シ、其後秦ニ歸ス、

無忌ガ事ヲ  
宋ノ蘇轍論  
ジテ曰ク、無  
忌侯生ノ計

再ビ魏ノ祿  
ヲ食ミテ死  
シタルハ豈  
惡ムバキ小  
人ニ非ズヤ、  
魏君其兩國  
ニ出入シテ  
譎詐ヲ逞シ  
ウスルヲ知  
ラザリレハ  
愚ノ極トイ  
フバ、ハ魏ノ  
無忌ガ事ヲ  
宋ノ蘇轍論  
ジテ曰ク、無  
忌侯生ノ計

ヲ用ヒテ兵

符ヲ盜ミ、秦

ヲ撃チテ趙

ヲ救ヒ、桓文

ノ功ヲ爲ス、

然レ氏兄弟

是ヨリ相失

シテ、十年マ

テ魏ニ還ラ

ズ、其後秦兵

魏ヲ攻メシ

トキ、毛薛之

ヲ勸メテ、翻

然トシテ歸

リ、諸侯ノ兵

ヲ合セテ、秦

ノ師ヲ破リ、

宗廟ヲシテ

復安カラシ

メ、兄弟故ノ

如シ、然レテ

軹シ亦古ノ邑名ナリ、春秋ノ時ニハ、晉ニ屬シ、  
戰國ノ時ニハ、魏ニ屬シ、其後秦ニ歸ス、  
○壽年

ヲ慶スルヲニテ、今  
イフ賀ノ祝ナリ、  
○府公卿輔相ノ居ル所ヲ府ト  
曰フ、即チ大臣ノツメシヨ

ナリ、  
○皮面皮ハカハトイフ名詞ナレド、カハハギト  
イハバ、動詞ニナルナリ、上ノ壁ノ字ノ例

ト同、  
○暴サハラシモノニシテ、  
衆人ニ示スヲナリ、  
○購問賞金ヲ出ダシ  
テ募リ問フヲ

ナリ、  
○重カサネト讀ミテモ、オモクト讀ミテモ、通  
ズルナリ、カサネト讀ムバ、上聲オモクト

讀ムバ、去聲ナリ、カサネテ自刑スト解スレバ、面ヲ  
皮ギ眼ヲ抉リテ、ニ重ニ其身ヲ刑シタルヲイフ、オ

モク自刑スト解スレバ、面ヲ皮ギ眼ヲ抉リテ、テヒ  
ドク其身ヲ刑シタルヲイフ、今オモクノ方ニ從ス、

一説ニ、重ハ愛惜ノ義ナリ、聶政本、嚴仲子ノ爲ニ仇  
ヲ報ゼシヲナレバ、其事ヲ愛惜シテ、漏泄セシノヤ

リシナリト、此説鑿ニ  
似タリ、取ルバカラズ、  
○絶蹤足ノツカマヤウ  
ニセシナリ、

○講義景侯ノ子烈侯ノ時ニ、宰相俠儻字ハ駢トイフ  
者アリテ、濮陽ノ人嚴遂字ハ仲子トイフ者ト

際アリケルガ、仲子軹ノ人聶政ノ武勇ナルヲ傳  
聞シテ、之ト交ヲ結ビ、黄金百鎰ヲ贈リテ、政が母ノ

年壽ヲ賀シ、政ヲシテ其恩誼ニ感ヤシメ、其力ニ因  
リテ、宿怨ヲ報セント思ヒケレバ、政ハ早クモ其意

ヲ推察シテ、仲子ニ謂テ曰ク、老母ノ存生スルウチ  
ハ、政が身未ダ人ニ許シ難シトテ、之ヲ諾セザリケ

ルガ、其後母ノ卒スルニ及ビ、仲子乃チ政ヲシテ累  
ヲ暗殺センヲ圖ラシメタリ、サテ俠累ハカネテ

心ニ畏ル、所ヤアリケン、  
○方方ニ松澗ニ坐シテ、  
兵士ノ護衛甚カ、嚴重ナリケルニ、政ハ韜ヲニ府ニ

押シ入りテ、物ヲモ言ハセズ、一刀ノ下ニ累ヲ刺シ  
殺シ、即坐ニ自ラ面ヲ皮ギ眼ヲ抉リテ、何者ノ所為

奪ヒシハ罪  
ヲ竊ミ軍ヲ  
ナリト、其符  
廢シテ不可  
薛ノ正一ヲ  
侯生ノ奇毛  
毛薛ニ全シ、  
生ニ發シテ  
忌ノ名ハ、侯  
タリ、蓋シ無  
後ニ名ヲ得  
如シ、然レテ

卷八  
二十  
集賢堂藏版



ナシトセザ  
レ氏隣國ノ  
安危已ムヲ  
得ガルニ出  
デシ事ナレ  
バ亦之ヲ咎  
メ難キ情ア  
リ其趙ヲ救  
フハ奸ノ爲  
ノミニ非ズ  
又趙ノ爲メ  
ニ非ザレ  
ハ十山聶政  
ガ嚴遂ノ爲  
ニ依累ヲ殺  
セシ事ヲ網

氏見介ケ難キヤウニシテ死セリ、宰相盜ニ殺サレ  
タリト聞テ、韓廷ノ騷動大方ヲラズ、其凶人ヲ檢ス  
ルニ、滿面泥ニ濡テ、鼻目ノ別チナカリケレバ、其死  
骸ヲバ市中ニ肆シテ、之ヲ告グル者アラバ、厚ク褒  
賞スベシト、募リ問ヒシカ氏、誰アリテ鑿定スル者  
ナカリシニ、政ノ姉ナル嫪毐トイフ者其旁ニ往キテ、  
號哭シテ曰ク、是ハ軼ノ深井里ナル聶政ナリ、妾一  
人ノ存スルガ爲メ、カク手ヒドク自ラ刑シテ、探索  
ノ手が、リテ絶タシメシナリ、妾奈何デカ生命ヲ  
失フノ誅罰ヲ畏レテ、終ニ賢弟ノ名ヲ世ニ知ラレ  
ザルヤウニスベケンヤトテ、遂ニ  
其場ヲ去ラズ自害シタリケル、  
景侯四世至哀侯徙都鄭哀侯二世至昭侯鄭人申不害  
以黃老刑名之學爲昭侯相國治兵強昭侯有弊袴命臧

目ニ大書シ  
テ盜韓ノ相

之不以賜左右侍者曰君亦不仁者矣昭侯曰明主愛一

俠累ヲ殺ス  
トアリ宋ノ

頰一笑頰有爲頰者笑有爲笑公終豈特頰笑哉吾必待

尹起莘曰ク  
聶政ハ刺客

有功者昭侯卒子宣惠王立三世至桓惠王韓上黨守降

ノ小人真ニ  
穿箭ノ微ナ

趙致趙受秦兵而有長平之敗又一世至王安秦王政遣

ル者ノミ之  
ヲ書シテ盜

將虜安遂滅韓爲郡

ト爲ス夫復  
何ノ説アラ

輯釋黃老刑名之學 黃ハ黃帝ナリ、老ハ老子ナリ、黃  
老ノ法ハ清簡無爲ヲ貴ズ但老

ニ嘗テ怪ム  
馬遷ガ史ヲ

子ノ書ハ今ニ傳ハレ氏、黃帝ノ法ハ後世其傳ヲ失  
ス、刑名ハ猶名實トイフガコトシ、韓非子ニ云ク、言

作ルニ特ニ  
聶政ヲ取り

アル者ハ即ラ名ヲ爲シ、事アル者ハ即ラ形ヲ爲ス、  
名ヲ以テ實ヲ貴ム、之ヲ刑名ト謂フ、刑名ハ即形名

テ之ヲ列傳ニ著シ百十言ヲ累ネテ厭ハズ深ク嘉シ樂ミテ予フルノ意アルガ若シ向ニ君子ノ直筆シテ之ヲ書スルナカリセバ千載ノ下必不風ヲ聞テ之ニ效フ者アラシ觀ル者知ラズン

バアルベカラズト、所謂君子ノ直筆トハ、朱熹が專政ヲ斥シテ盜ト爲シ、ハ、ライフナリ、如何ニモ春秋ノ筆ヲ以テ之ヲ賞罰セバ、政ハ盜ノ名ヲ免ルベキ者ニ非ズ、世人動モスレバ、此ノ如キ所爲

ナリト、劉向列録ニ云久申子ノ學號シテ刑名ト曰フハ、名ニ循ヒテ實ヲ責ムルナリト、所謂名トハ、君臣父子等ノ名目ニシテ、實トハ則チ君父ニハ君父ノ道アリ、臣子ニハ臣子ノ道アルヲイフナリ、一説ニ、刑ハ、刑法

講義

景侯ヨリ四世哀侯ニ至リ、大梁ヨリ徙リテ鄭ニ都ス、哀侯ヨリ二世昭侯ニ至ル、時ニ鄭人軫

不害トイフ者アリ、黃帝老子ノ道ヲ本トシ、名ヲ正シ、實ヲ責ムルノ學ヲ主トシ、昭侯ニ事ハテ宰相ト爲リ、内ハ政教ヲ修ム、外ハ諸侯ニ應ガル、十五年不害ノ身ヲ終ルマデ、國治マリテ兵強シ、昭侯嘗テ一ノ弊ヲ誇アリ、人ヲシテ之ヲ繼メシメテ、左右ノ近臣ニ賜ハガリケレバ、侍者曰ク、此ノ如キ細物ハ、宜レク小臣ニ賜ヒテ然ルベキナリ、然ルニ之ヲ大切ニ繼メラルハ、吾ガ君モ亦仁惠ナキ人ナリト

ツグヤキケレバ、昭侯之ヲ聞テ曰ク、賢明ノ君主ハ、一タビ顔ヲ蹙メテ憂愁ノ狀ヲ爲シ、一タビ眉ヲ開キテ喜悅ノ態ヲ爲スヲサヘ、之ヲ愛惜シテ、容易ニハセズ、何故ニカク自ラ重シナルゾトイフニ、君主一タビ憂愁ノ狀ヲ爲ストキハ、ソレガ爲ニ亦憂愁ノ狀ヲ爲ス者アリ、君主一タビ喜悅ノ態ヲ爲ストキハ、ソレガ爲ニ亦喜悅ノ態ヲ爲ス者アリ、爲ニ顔ヲ蹙メ爲ニ眉ヲ開ク者ハ、其心實ニ憂喜アルニ非ズ、徒ニ君主ノ面貌ヲ窺ヒテ、阿諛ヲ獻ズルノミ、故ニ世ノ君主タル者ハ、顔色ト雖氏輕シク人ニ假スベキニ非ズ、今此一物豈特ニ顔ヲ蹙メ眉ヲ開クノ比ニアランヤ、吾若シ之ヲ一人ニ與ヘナバ、其賜ヲ受クル者ハ、必ズ心ニ不平ヲ懷カン、之ヲ奈何ゾ故ナクシテ、妄ニ與フルヲ得、吾ハ必ズ功勞アル者ヲ待チテ、之ニ與ヘント欲スルナリトイヒニケル、昭侯

ヲ義舉ト稱ス、義ハ宜ナリ事ノ宜シキニ從ヒテ之ヲ裁スル者ナリ假令如何ナル情由アリ人ノ囑托ヲ受ケテ人ヲ殺ストイフハアルマジキ事ナリ、豈是ヲ事ノ宜シキ者トスベケンヤ、

卒レテ、其子宣惠王立チ、ソレヨリ三世ニシテ、桓惠王ニ至ル、時ニ秦韓ヲ伐チテ、其邑野瑯ヲ拔キ、上黨ト鄭トノ間ヲ遮斷シタリケレバ、上黨ノ守馮亭トイフ者其人民ト謀リテ曰ク、鄭ノ通路已ニ絶エテ、孤立接ナシ、趙ニ歸スルニ如カバ、趙我ヲ受ケバ、秦必不之ヲ攻メ、趙秦ノ兵ヲ被ラバ、必不韓ニ親マシ、韓趙一ト爲ラバ、則チ以テ秦ニ當ルベシトテ、乃チ趙ニ告ゲテ曰ク、韓上黨ヲ守ルヲ能ハズシテ、之ヲ秦ニ入レントス、然ルニ其吏民ハ皆趙ニ歸スルヲ甘ンジテ、秦ニ屬スルヲ樂ハズ、城市ノ邑十七アリ、願ハクハ再拜シテ之ヲ大王ニ獻ゼント述ベケレバ、趙ノ孝成王平原君ヲシテ往テ其地ヲ受ケシム、秦大ニ怒リ、大舉シテ上黨ヲ拔キ、師ヲ移シテ趙ヲ攻メ、趙括ノ軍ヲ長平ニ敗ルニ至レリ、桓惠王ヨリ又一世ニシテ王安ニ至ル、秦王政將ヲ遣リテ安ヲ虜ニシ、遂ニ韓ヲ滅ホシテ郡ト爲シヌ、

參說 十八史畧講義大全卷九

東京 島寄友輔 著

楚

○楚ノ莊王三年樂ニ耽リ、刺國中ニ令レテ諫ムル者ヲ斬ラント欲ス、然レ暴ト雖氏、以テ之ニ過グルナシ、而レテ一朝ニ臣ノ諫ヲ納レ、鐘鼓ヲ斷チテ政ニ從フ、蓋シ莊王英武ノ質ヲ以テ、怒リ

楚之先、出自顓頊。顓頊之子、爲高辛、火正、命曰祝融、弟吳回、復居其職。吳回二世、有季連者、得半姓、季連之後、有熊、熊事周、文王成王封其子熊繹於丹陽、至夷王時、楚子熊渠者、僭爲王、十一世、至春秋、有曰武王、益强大、至文王始都、鄧成王與齊桓公盟、方陵、尋與宋襄公爭霸、後與晉文公戰、城濮、穆王至莊王、卽位三年、不出、日夜爲樂、令

ナ聲色ニ溺  
レ、久レキニ  
及ビテ、心ニ  
悔ユル所ア  
リ、之ヲ改メ  
ント欲シテ

滿朝ノ群臣  
曾テ之ヲ諫  
ムル者ナカ  
リレヲ嘆シ

故ニ虐令ヲ  
發シテ、國ニ  
犯顔ノ士ア  
リヤ否ヤヲ  
試ミシナル

伍舉先ツ之  
ヲ諷シ、蘇從  
人君臣ノ聲  
氣卒然トレ

テ相合シ、遂  
ニ霸功ヲ立  
ツルニ至レ

リ、王ガ流連  
荒怠ノ日ニ  
當リテ、人民  
之ニ畔キ、敵

國之ニ乘ズ  
ルヲナカリ  
シハ、實ニ僥  
倖トイフベ

國中敢諫者死伍舉曰有鳥在阜三年不蜚不鳴是何鳥

也王曰三年不飛飛將衝天三年不鳴鳴將驚人蘇從亦

入諫王乃左執從手右抽刀以斷鐘鼓之懸明日聽政在

伍舉蘇從國人大悅又得孫叔敖為相遂霸諸侯

輯釋祝融 顓頊高陽氏ノ條ナル火正黎是ナリ、黎顓  
頊ノ時ニ火正ノ官ト為リテ、祝融ト號ス、

祝ノ義タル大ナリ、融ノ義タル明ナリ、此ニ高辛ノ  
火正トアルハ、高陽ノ火正ノ誤リナリ、顓頊ノ世ニ

始メテ五官ヲ置キ、重ヲ木正ト為シ、該ヲ金正ト為  
シ、修ト熙トヲ水正ト為シ、句龍ヲ土正ト為シ、黎ヲ

火正ト為シ、以テ東、西、南、北、中央ノ五方ヲ分治セシ  
メタルヲ、史記ニ見エタリ、故ニ木、火、土、金、水ノ五正

ハ、地方官ノ稱ニシテ、木正ハ東方ヲ司リ、火正ハ南  
方ヲ司リ、土正ハ中央ヲ司リ、金正ハ西方ヲ司リ、水

正ハ北方ヲ司ル、是、五行ノ配當ニ因リテ、其名ヲ設  
ケタルナリ、而シテ黎ハ火正ニシテ、火ニ縁アルヲ

以テ、後世其美號祝融ノ字ヲ取リテ、火神ノ稱ト為  
シ、火難ニ遭フヲ、祝融ノ災ニ懼ルトイフニ至レ

リ、**楚子** 楚ハ子爵ノ國ナル **日夜為樂** 樂ハガク  
ガ故ニ楚子ト曰フ、**日夜為樂** 樂ハガク

ノ三音アリテ、音樂ノ義トナルトキハ、ガク、逸樂ノ  
義トナルトキハ、ソク、好樂ノ義トナルトキハ、ガク

ナリ、此ノ樂ハ、逸樂ノ義ニテ、ラクナリ、下文ニ鐘鼓  
ノ懸ヲ斷ツトアルヲ以テ、音樂ノ義カト思フ人モ

アレド非ナリ、之ヲ音讀ニセバ、**為樂** 為レカナリ、  
ト讀ムベレ、**為樂** 為レカナリ、**阜** 阜ヲカナリ、  
ノ石ナキヲ阜ト曰フトアリ、釋名ニ、土山ヲ

阜ト曰フトアリテ、山ノ卑小ナルモノナリ、**不蜚**  
不レバ

レ豈三年ヲ

待チテ而レ

ト通ズ

○抽

楚ノ先祖ハ上古五帝ノ一ナル顓頊高陽氏ヨ

テ後ニ始メ

講義

リ出デタリ、顓頊ノ子黎當朝ノ火正ト爲リテ、

テ天ヲ衝キ

民事ヲ治ム之ヲ命ケテ祝融ト曰フ、其弟吳回復其

人ヲ驚カス

職ニ居ル、再傳レテ季連トイフ者アリ、季トイフ姓

ヲ要センバ

ヲ得タリ、季連ノ後裔ニ鬻熊トイフ者アリ、周ノ文

懷王秦ニ欺

王ニ事ヘテ卿ト爲ル、成王其子熊繹ヲ丹陽ニ封ジ

カレテ、齊ニ

子ノ爵ヲ賜フ、丹陽ハ即チ楚ノ地ナリ、其後夷王ノ

絶チレハ、笑

時ニ至リテ、楚子熊渠トイフ者アリ、嘗テ自ラ曰ク

フマキヲナ

我ハ蠻夷ナリ、中國ノ稱號ニ與カラズトテ、其分限

リ、初メ張儀

ヲ踰越シテ王ト稱ス、ソレヨリ十一世ヲ歷テ、春秋

楚ニ來リテ、

ノ時ニ至リ、武王ト曰フ者アリ、國勢日ニ強ク、澠淵

商於ノ地ヲ

月ニ大ナリ、武王ノ子文王ニ至リ、始メテ郢都ニ

獻ゼント請

文王ノ子成王、齊ノ桓公ト召陵ニ於テ修好ノ盟ヲ

ヒレトシ、楚

爲レ、程ナク宋ノ襄公ト、諸侯ノ大權ヲ執ラントラ

ノ群臣皆之

單ス、是時襄公楚ニ敗ラレテ、世ニ宋襄ノ仁ト笑ハ

ヲ賀シケル

レタリ、其後晉ノ文公ト城濮ニ戰スソレヨリ穆王

ニ、獨リ陳軫

ヲ歴テ、莊王ニ至ル、莊王位ニ即テ、三年ノ久レキニ

トイフ者王

至ルマデ一ノ號令ヲ出ダサズ、日夜宴ヲ宮中ニ張

ヲ弔レテ曰

リテ、逸樂ヲ事ト爲シ、國中ニ令スラク、強ヒテ諫言

久秦ノ楚ヲ

ヲ進メテ、寡人ノ讒、誤ヲ妨カル者アラバ、之ヲ死刑

重ンズル所

ニ處スベシトイヒケレバ、群臣悚懼シテ、諫ムル者

以ハ、齊アル

ナカリケルニ、伍舉トイフ者アリ、應語ヲ以テ王ヲ

ヲ以テナリ

諷シテ曰ク、此ニ一羽ノ鳥アリ、小高キ翽ニ在リテ、

今齊ニ絶タ

三年ノ間飛ビモセズ、鳴キモセズ、果シテ名禽ナリ

バ、楚ハ孤ナ

ヤ、果シテ九鳥ナリヤ、誰一人モ知ル者ナシ、是ハ何

ラン、秦奚ハ

トイフ鳥ナリヤト、其意鳥ヲ以テ王ニ比シテ、怠惰

六百里ノ地

ヲ諫メシナリ、王之ヲ聞テ、忽チ悟リテ曰ク、其鳥三

ヲ孤國ニ與

年飛バザルハ、若シ一タビ飛ババ、將ニ天ニモ衝キ

フルトアラ

當ラントスル程ニ高ク飛ブベシ、三年鳴カザルハ

ニ張儀秦ニ

若シ一タビ鳴カバ、將ニ人ヲ驚カサントスル程ノ

歸ラバ、必ズ

...

王ニ負カン、是齊ノ交リヲ絶テテ、患ヲ秦ニ生カスルナリ、兩國ノ兵必カ至ラント諫メケルヲ、懷王聽カズシテ曰ク、願ハクハ子ロヲ閉ガテ復言フ

一冊レトテ、乃チ閉ヲ開ガシ、齊ニ絶テ、使者ヲ張儀ニ隨ハシ、秦ニ至ラシメケルニ、張儀儼リテ車ヨリ墮チテ朝セズ、空シク使者ヲ咸陽ニ留メタリ、懷王之ヲ聞テ、楚ノ齊ニ絶ツテ未ダ甚シカラザルガ故ナリト思ヒ、乃チ勇士宋遺ヲシテ齊王ヲ

大聲ヲ發スベシトテ、自ラ大ニ為スアルノ志ヲ明シタリ、是ニ於テ蘇從トイフ者モ亦宮ニ入りテ王ヲ諫メケレバ、王乃チ左ノ手ニテ從ノ手ヲ執リ、右ノ手ニテ刀ヲ拔キ、是マデ久シク宴席ニ羅列シタル鐘鼓ノ懸、繼テ斷テ、復聲色ニ耽ラザルヲ示シ、其翌日ヨリ朝ニ臨ミテ政ヲ聽キ、伍舉蘇從ヲバ重ク任用シタリケレバ、國人大ニ悦服ス、此ニ賢士ヲ舉ゲタルウヘニ、又孫叔敖トイフ名臣ヲ得テ宰相ト爲シ、遂ニ諸侯ノ長ト爲リテ、兵ヲ周郊ニ示シ、禹ノ大小輕重ヲ問フ程ノ勢ニナリヌ、

歷共王、康王、郊、靈王、平王、昭王、惠王、簡王、聲王、悼王、肅王、宣王、威王、至懷王、秦、惠王、欲伐齊、患楚與從、親乃使張儀說楚王曰、王閉關而絶齊、請獻商於之地六百里、懷王信之、使勇士北辱齊王、齊王大怒而與秦合、楚使受地於秦、儀曰、地從其言、其廣袤六里、懷王大怒、伐秦、大敗。

王宣王、威王、至懷王、秦、惠王、欲伐齊、患楚與從、親乃使張儀說楚王曰、王閉關而絶齊、請獻商於之地六百里、懷王信之、使勇士北辱齊王、齊王大怒而與秦合、楚使受地於秦、儀曰、地從其言、其廣袤六里、懷王大怒、伐秦、大敗。

信之、使勇士北辱齊王、齊王大怒而與秦合、楚使受地於秦、儀曰、地從其言、其廣袤六里、懷王大怒、伐秦、大敗。

秦儀曰、地從其言、其廣袤六里、懷王大怒、伐秦、大敗。

輯釋 廣袤 東西ノサレワタレヲ廣ト曰ヒ、南北ノサレワタレヲ袤ト曰ス、即チ方何里ナリ

講義 莊王ノ後、共、康、郊、靈、平、昭、惠、簡、聲、悼、肅、宣、威ノ十三君ヲ歷テ、懷王ニ至ル、秦ノ惠王、齊ヲ伐タ

ント欲シテ、楚ノ齊ト與ニ合從和親センコトヲ患ヒ、乃チ張儀ヲシテ懷王ニ説カシメテ曰ク、王貴國ノ関門ヲ閉ガテ、齊ト交通ヲ絶タレナバ、商於ト於トニ縣六百里ノ土地ヲ王ニ獻ジタク思フナリト給キケルニ、懷王ノ信シテ、勇士宋遺トイフ者ヲ北ノ方齊ニ遣リテ、潘王ヲ罵辱セシメケレバ、潘王大ニ怒リテ、楚ニ絶テ、秦ニ合シタリ、既ニシテ楚ノ使者土地ヲ秦ニ受ケントセシニ、張儀曰ク、約束ノ地

馬ラシメケレバ、齊王節ヲ折リテ秦ニ事ヘ齊秦ノ交リ合シタリ、是ニ於テ張儀招メテ朝シ、楚ノ使者ニ見エテ曰ク、子何バ地ヲ受ケザルヤ、某ヨリ某マデ廣袤六里ナリト、使者歸リテ、懷王ニ報

ツケレバ、王大ニ怒リテ、兵ヲ發シ、秦ヲ攻メント欲ス、時ニ陳軫謂テ曰ク、軫今口ヲ發キテ可ナラシカ之ヲ攻メニヨリハ、賂フニ一都ヲ以テシ之ト、兵ヲ併セテ、齊ヲ攻ムルニ如カズ、今已ニ齊ニ

面ハ、某處ヨリ某處マデ四方六里ナリ、之ヲ受取ラルベシト答ヘタリ、使者驚キ還リテ、カクト告ゲレバ、懷王大ニ怒リテ、張儀トイフ者ヲ大將ト爲シ、秦ヲ伐チテ大敗シ、屈匄遂ニ秦ノ鬪ト爲レリ、

秦昭王與懷王盟于黃棘、既而遺書懷王、願與君王會武

關、屈平不可、子蘭勸王行、秦人執之以歸、楚人立其子頃

襄王、懷王卒於秦、楚人憐之、如非親戚、初、屈平爲懷王所

任、以讒見疏、作離騷、以自怨、至頃襄王時、又以譖遷江南

遂投汨羅、以死、秦拔郢、楚徙於陳、頃襄王卒、考列王立、又

徙於壽春

輯釋

離騷

王逸曰、久離、八列ナリ、騷、愁ナリ、班固曰、離、離也、騷、憂也、

ス、王說ニ從フトキハ、君王ニ離別シテ愁ヒ悲ム義ナリ、班固ノ二說ヲ合スルトキハ、騷、憂ニ遭フ義ナ

ヲ作ルハ、憂ニ遭フヲ言フナリ、今詩人ヲ謂テ騷人ト爲スト、按ズルニ、詩ヲ作ル者ハ、何事ニ因ラズ感

慨悲傷ノ情ヲ含ムガ故ニ、之ヲ騷人ト曰フ、然ラバ則チ、騷ハ擾動ノ義ト解スルヨリ、憂愁ノ

義ト解スル方然ルベキヤウニ思ハル、

講義

秦ノ昭王、懷王ト黃棘ニ盟フ、ソレヨリ書簡ヲ懷王ニ遺リテ、武關ニ會シ、隣交ヲ修メント請

フ、楚ノ臣、屈平字ハ原トイフ者、之ヲ止メテ曰ク、秦ハ虎狼ナリ、諸侯ヲ併吞スルノ志アリ、行キタマフ

一ナカレト述バケルニ、懷王ノ難子、子蘭トイフ者、王ヲ勸メテ行カシメタリ、昭王兵ヲ武關ニ伏セテ

絶チテ、又秦ノ我ヲ欺キレトヲ責メバ、國必ズ大ニ傷レント。諫メケルヲ王又聴カズ。レテ秦ヲ伐テ、遂ニ大敗シテ、八城ヲ喪ヒ、加之武關ノ會ニ、秦人ニ執ハレテ、身ヲ終ルマデ歸ラザルニ至レリ。

懷王ノ至ルヲ待チ、至レバ則チ之ヲ執ヘテ、咸陽ニ致サシメ、藩臣ノ禮ヲ以テ之ヲ見ント欲ス、懷王怒リテ肯シセザリケレバ、秦之ヲ留メテ返サズ、是ニ於テ楚人其子頃襄王ヲ立ス、而シテ懷王秦ニ卒ス、楚人之ヲ憐ム一親戚ノ喪ヲ悲ムガ如クナリシト云フ、初メ屈平廉潔ノ行ヲ以テ懷王ニ任用セラレケルガ、奸人ノ讒ニ遭ヒテ、王ニ疏ンゼラレケレバ、退キテ離騷ト題スル一篇ノ長文ヲ作りテ、其身ノ冤ヲ怨ミ、王ノ一タビ省寤セン一ヲ冀ヒケルガ、頃襄王ノ時ニ至リ、又子蘭ノ譖ニ遭ヒテ、江南ノ地ニ遷サレタリ、屈平悲憤自ラ禁ズル一能ハズ、遂ニ石ヲ懷キテ汨羅江ニ投ジテ死ス、其後秦兵楚ヲ攻メテ郢ヲ拔キケレバ、徙リテ陳ニ都ス、頃襄王卒シテ考烈王ノ立ツニ及ビ、又都ヲ壽春ニ徙シタリ。

春申君黃歇行相事。當是時、齊有孟嘗君、魏有信陵君、趙

懷王ノ不明ハ論ヲ俟タズ、秦王ノ詐謀、張儀ノ詭計、關東ノ人視テ以テ夷狄禽獸ト爲シ、モ亦宜ナラズ。屈原讒ニ遭ヒテ、王聽ノ聴ナラズ。讒諂ノ明ヲ蔽ヒ、邪曲ノ公ヲ害シ、方正ノ容レラレザ

有平原君。楚有春申君。皆好客。春申君食客三千餘人。平原君使人於春申君。欲奉楚爲玳瑁簪。刀劍室飾以珠玉。春申君上客皆躡珠履。以見之。趙使大慙。

輯釋 玳瑁ハ龜ノ屬ニテ、其鱗如シ、今ノ鼈甲ノ類ナリ、簪ハ首笄ナリ、釋名ニ、冠ヲ髮ニ連スルモノナリトアリテ、カンムリノトメナリ、

○刀劍室 刀ハカタハノキレモノ、劍ハモロハノ

ノ傳ニ、劍ヲ賣リテ牛ヲ買ヒ、刀ヲ賣リテ犢ヲ買ハシメタル一アリ、是ニテ劍ハ價ノ貴キモノ、刀ハ價ノ賤シキモノナルヲ知ル。

○躡 踏ナリ、足ニツキ



ルヲ疾ミテ、  
離騷ヲ作リ、  
又江南ニ遷  
サレテ、遂ニ  
汨羅ニ投ジ  
テ死ス、其志  
貞廉潔ニシ  
テ自ラ憤慨  
ニ耐ヘズ身  
ヲ魚腹ニ葬  
リテ泉下ノ  
鬼ト爲リシ  
ハ、悲ムベク  
惜ムベキナ  
リ、春申君  
ハ孟嘗平原

**講義** 考烈王ノ時、楚人黃歇宰相ト爲リ、封ゼラレテ  
春申君ト號ス、是時ニ當リテ、齊ニハ孟嘗君田  
文アリ、魏ニハ信陵君無忌アリ、趙ニハ平原君勝ア  
リ、楚ニハ春申君黃歇アリ、四君皆客游ノ士ヲ愛ス、  
而シテ春申君ガ食客ハ三千餘人ニ至ル、平原君嘗  
テ門下ノ客ヲ春申君ノ許ニ使セシメ、其士ヲ衣食  
スルニ豐美ナルヲ楚ニ夸リ示サント欲シテ、頭  
ニハ玳瑁ノ簪ヲ戴カセ、腰ニ帶ビタル刀劍ノ鞘ハ、  
珠玉ヲ鑲メ、如何ニモ華麗ニ出立セテ、楚ニ至ラシ  
メケルニ、豈圖ランヤ春申君ガ門下ノ土客ハ、皆珠  
モテ飾リタル履ヲ穿テテ、之ニ見エケレバ、趙ノ使  
者ハ其及バザルヲ慙ガテ、赧然トシテ還リケル、  
趙人荀卿至楚、春申君以爲蘭陵人、  
**輯釋** 地方ノ長官ナリ、治下ノ人民ニ教  
令ヲ布クガ故ニ、之ヲ令ト曰フ、

信陵ノ三君  
ト與ニ、客ヲ  
好ムノ名ヲ  
以テ、時譽ヲ  
得タリ、而シ  
テ孟嘗ノ客  
ハ、狗盜鷄鳴  
以テ秦ノ阨  
ヲ脱セシメ、  
馮驩券ヲ燒  
キテ薛民ヲ  
親レマシム、  
平原ノ客ハ、  
楚王ヲ殿上  
ニ叱レ、趙楚  
兩國ノ盟約

**講義** 趙人荀況楚ニ至ル、春申君況ヲ以テ蘭陵縣ノ  
令ト爲シス、況ハ戰國ノ名士ナリ、時人之ヲ尊  
ビラ公卿ニ比シ、荀卿ト稱ス、趙ノ孝成王嘗テ兵ノ  
要ヲ況ニ問フ、對ヘテ曰ク、夫仁人ノ兵ハ、上下心ヲ  
一ニシ、三軍力ヲ同ジカス、臣ノ君ニ於ケル、下ノ上  
ニ於ケル、子弟ノ父兄ニ事フルガ若ク、手臂ノ頭目  
ヲ扞ギ胸腹ヲ覆フガ若シ、故ニ兵ノ要ハ民ヲ附ス  
ルニ在リ、齊ノ杖擊ハ魏ノ武卒ニ遇フベカラズ、魏  
ノ武卒ハ秦ノ銳士ニ遇フベカラズ、秦ノ銳士ハ桓  
文ノ節制ニ當ルベカラズ、桓文ノ節制ハ湯武ノ仁  
義ニ敵スベカラズトテ、六術五權三至ノ説ヲ述ベ  
ケレバ、陳轅トイフ者問ヒテ曰ク、先生ノ兵ヲ議ス  
ルハ、常ニ仁義ヲ本トス、然ラバ則チ又何ゾ兵ヲ用  
フルヲセント詰リケルニ、況曰ク、仁者ハ人ヲ愛ス  
ルガ故ニ、人ノ之ヲ害スルヲ惡メリ、義者ハ理ニ循  
フガ故ニ、人ノ之ヲ亂スヲ惡メリ、故ニ兵ハ暴ヲ禁

ヲ定ム信陵ノ客ハ侯嬴毛薛アリテ

侯ハ無忌ノ名ヲ前ニ發セシメ毛薛ハ無忌ノ名ヲ後ニ全クカラシム春申ノ客ハ是ニ異ナリ只珠履ヲ躡ミテ趙ノ使者ヲ辱シノミ狗盜鷄鳴固ヨリ稱

シ害ヲ除ク所以ニシテ、爭奪ヲ事トスルニハ非ザルナリト對ヘタリ、其昔ス所ノ書今世ニ傳ハレリ、李園以テ妹獻春申君有娠而後納之考烈王是生幽王園使盜殺春申君滅口而專楚政幽王卒弟哀王爲楚人所弑而立其庶兄負芻秦王政遣將破楚虜負芻滅楚爲郡

講義 趙人李園トイフ者其妹ヲ春申君ニ獻ズ既ニ

ハ、園妹ヲレテ春申君ニ説カレメテ曰ク、楚王子ナシ、百歳ノ後ハ其兄弟ヲ立ツバシ、君久レク頭要ニ在リテ、礼ヲ王ノ兄弟ニ失フ多シ、兄弟立タハ禍身ニ及バン、今妾娠メルアリ、而シテ人ノ知ル者ナシ、誠ニ君ノ重キヲ以テ妻ヲ王ニ進メ、天ノ助ニ賴リテ、男子ヲ生マバ、君ノ子王ト爲リテ、楚國盡ク得

バ、不測ノ禍ニ臨ムニ孰與ゾヤ、春申君之ヲ然リトレテ、乃チ王ニ納レケルニ、王之ヲ寵愛シテ、遂ニ男子ヲ生メリ、是即チ春申君ノ子ニシテ、後ニ幽王ト諡セシ者ナリ、是ニ於テ園ノ妹ハ后ト爲リ、園モ亦貴重セラレケレバ、春申君ガ其語ヲ泄ラサンコト恐レテ、考烈王ノ卒スルニ際シ、人ヲシテ之ヲ城門ノ下ニ暗殺セシメ、其口ヲ滅レテ、國政ヲ專ニセリ、幽王卒レテ、其弟哀王立ツ、楚人哀王ヲ弑シテ、其庶兄負芻ヲ立ツ、秦王政將軍王翳ヲ遣リテ楚ヲ破リ、負芻ヲ虜ニシ、楚ヲ滅ボシテ郡ト爲シヌ、

燕姫姓召公奭之所封也三十餘世至文公嘗納蘇秦之

說約六國爲從文公卒易王噲立十年以國讓其相子之

南面行王事而噲老不聽政顧爲臣國大亂齊伐燕取之

復何ゾ之

小兒ノ爲ノ

ナガラ閣巷

セシハニツ

珠履ヲ以テ

勝ヲ趙ニ制

リ、春申君ガ

取ヲ楚ニ取

燕

か優劣ヲ論ズルニ足ラシヤ、春申君が李園ノ妹ヲ納レテ、其娠メルニ及ビ之ヲ考烈王ニ獻ゼレハ、呂不韋が邯鄲ノ美姬ヲ納レテ、其娠メルニ及ビ之ヲ秦ノ莊襄王ニ獻ゼシト同一ノ軼轍ナリ

**輯釋南面**

講義卷四魯ノ伯禽ノ條ノ輯釋ヲ看ルバシ、**老** 退隱スル

**講義**

燕ハ周ト同ジク姬姓ノ國ニシテ、武王ノ弟召公ニ至リ、嘗テ蘇秦ノ説ヲ聽キ納レテ、關東六國ノ合從ヲ約ス、文公卒レテ易王噲立ツ、其十年ニ、燕國ヲ嬰ゲテ宰相子之トイフ者ニ議ル、子之南面レテ君位ニ即キ、國王ノ事ヲ行フ、而シテ噲ハ退隱レテ政務ヲ聽カズ、顧リテ人臣ト爲リケレバ、國中大ニ亂レタリ、齊ノ湣王其虚ニ乘ジ、燕ヲ伐テ子之ヲ取リ、子之ヲ執ハテ、其肉ヲ醢ニレ、噲ヲ殺ス、初メ子之燕ノ權ヲ得ント欲シ、蘇代處毛壽ノ輩ヲシテ、交、噲ニ説カレメテ曰ク、人ノ堯ヲ賢者ト謂フハ、能ク天下ヲ讓リレテ以テナリ、今王國ヲ以テ子之ニ讓ラ

其楚ニ不忠ナルヲ、信陵君が魏ヲ愛スルト霄壤ノ差アリ孟嘗平原ノニ君ト雖氏其貧汚ナルヲ聞カバ、之ト比肩スルヲ羞ガシナルベシ故ニ黃歇ノ人品ハ、四君中最モ下ニ居ル者トイフベ

バ、堯ト名ヲ同ジウスルヲ得ント愚弄セシニ、噲ハ自ラ堯ニ比スルヲ喜ビテ、乃チ土地人民ヲ子之ニ讓リ、臣下ト爲リテ、其制ヲ受クルヲ甘ンジ居タリケレバ、國內大ニ騷動シテ、遂ニ齊人ニ殺サレヌ、

燕人立太子平爲君是爲昭王弔死問生東蘇厚幣以招

賢者問郭隗曰齊因孤之國亂而襲破燕孤極知燕小不

足以報誠得賢士與共國以雪先王之耻孤之願也先生

視可者得身事之隗曰古之君有以千金使涓人求千里

馬者買死馬骨五百金而返君怒涓人曰死馬且買之况

生者乎馬今至矣不期年千里馬至者三今王必欲致士

先從魏始况賢於魏者豈遠千里哉於是昭王為魏改築

宮師事之

輯釋 弔死 終リヲ問フヲ弔トイフ死者ノ為ニ葬儀  
祭典ヲ行ヒテ其靈魂ヲ慰ムルナリ

孤 王侯ノ謙稱ナリ禮ノ玉藻ニ凡ソ自稱ニ小國  
ノ君ハ孤ト曰フトアリ又曲禮ニ諸侯民ト言

○孤 王侯ノ謙稱ナリ禮ノ玉藻ニ凡ソ自稱ニ小國  
ノ君ハ孤ト曰フトアリ又曲禮ニ諸侯民ト言

○雪 除ナリ洗ナリキ  
在ルヲ以テ孤  
トイフナリ

○涓人 韋昭曰  
中涓ナリ顔師古曰久涓ハ潔ナリ中ニ居リテ潔除  
スルヲ主ルノ人ナリ應劭曰久涓人ハ謁者ノ如

○死馬且買  
シテ潔清洒掃ノ事ヲ主ル小官ナリ

之 且ハ城ノ義ヲ含ミタル語辭ニテ俗ニコソツトイ  
フ語氣ニ當レリ死レタル馬デサハモマツヤヤ

買ヒ置キタリ  
トイフ意ナリ

○致士 致ハサキヘヤルニモツカ  
トイフ意ナリ

講義 齊ノ師既ニ燕ヲ拔キテ子之ハ醜ニセキレ、魯  
ハ殺サレケレバ、燕ノ臣民魯ノ太子平ヲ立テ

國君トシ是ヲ昭王ト為ス昭王位ニ即テヨリ、風  
ニ恢復ニ志シ、國難ニ死亡セシ者ハ之ヲ葬祭追吊

シ其生キ残りタル者ハ之ヲ訪問撫恤シ言辭ヲ卑  
クシ幣物ヲ厚クシテ賢人名士ヲ招キ邦國トイフ

賢者ニ問ヒテ曰ク齊孤ノ國ノ内亂ニ乘ジテ其備  
ナキヲ襲ヒ破ル、燕ノ小國微弱ナルトテモ此怨ヲ

報ガルニ足ラザルヲ孤ハ知りタリ、真實以  
テ四方ノ賢士ヲ延攬シ我が國政ヲ共謀シテ先王

破リ先王ノ

ヲ受ケテ郭

王亡國ノ餘

ヲ得テ齊ヲ

ヒ、遂ニ樂毅

ノ教ニ從

テ受ケテ郭

王亡國ノ餘

ヲ得テ齊ヲ

破リ先王ノ

キナリ、燕王

魯ノ國ヲ子

之ニ讓リテ

自ラ陶唐氏

ノ聖ニ比セ

ント欲シ、遂

ニ國亂ヲ釀

レテ齊人ニ

殺サル亦迂

ナラズヤ、昭

王亡國ノ餘

ヲ受ケテ郭

王亡國ノ餘

ヲ得テ齊ヲ

破リ先王ノ

護シテ曰ク、

樂毅ノ智謀  
人ニ過ギタ  
リ、齊ヲ伐キ  
テ、呼吸ノ間  
ニ七十餘城  
ニ克チ、今  
下ラサル者  
ハ兩城ノミ、  
其力拔ク  
能ハサルニ  
非ズ、久シク  
兵威ニ仗リ  
テ、齊人ヲ服  
シ、南面シテ  
王タラント  
欲スルノ心  
ハ、今王  
一ニ隗ヲ以テ手始トセラレヨ、況ヤ隗ヨリ賢ナル  
者、隗ガ不肖ヲ以テ厚ク王ニ遇セラル、ヲ聞カバ  
豈千里ヲ速シトシテ至ラザル者ナラニヤ、昭王之  
ヲ然リトシテ、乃チ隗ノ爲ニ改メテ宮室ヲ築キ、朝  
夕之ニ師トシ事ヘテ、士ヲ待ツノ厚キヲ知ラシム、  
於是士爭趨燕、樂毅自魏往、以爲亞卿、任國政、已而使毅  
伐齊、入臨淄、齊王出走、毅乘勝、六月之間、下齊七十餘城、  
惟莒即墨不下、昭王卒、惠王立、惠王爲太子、已不快於毅、  
田單乃縱反間、曰、毅與新王有隙、不敢歸、以伐齊爲名、齊  
人惟恐他將來、即墨殘矣、惠王果疑毅、乃使騎劫代將、而

ト、昭王之ヲ  
聞テ、置酒大  
會シ、其言ヲ  
者ヲ引テ之  
ヲ斬リ、毅ヲ  
立テ、齊王  
ト爲ス、毅惶  
恐シテ命ヲ  
受クズ、死ヲ  
以テ自ラ誓  
フ、是ニ由リ  
テ、齊人其義  
ニ服シ、諸侯  
其信ヲ畏レ  
テ、敢テ復謀  
ル者ナシ、頃

召毅教奔趙田單遂得破燕而復齊城

亞ハ次ナリ、卿ハ執政大臣ノ稱ナリ、禮ノ  
**輯釋** 亞卿 王制ニ、大國ハ三卿、小國ハ二卿トアリ、亞

卿ハ正卿ニ次グノ名ナリ、聖人  
ニ次グ者ヲ亞聖トイフガ如シ、**不快** 俗ニキマツ

ニテ、双方ノ心ノ  
和セザルヲイフ、**有隙** 隙ハ間隙ノ義ニテ、スキマ

ナラザル  
ヲイフ、**殘** 殘害殺傷ノ義ニテ、カ

**講義** 昭王一タビ郭隗ヲ尊禮セシヨリ、燕君士ヲ待

方ノ游士先キヲ舉ヒテ燕ニ趨キ、當時名望高キ樂

毅モ、魏ヨリ燕ニ往キタリシカバ、昭王之ヲ舉ゲテ

亞卿ト爲シテ、國政ヲ委任セリ、已ニシテ昭王燕ノ

衆ヲ悉シ、毅ヲ以テ上將軍ト爲シ、并セテ秦、魏、韓、趙

ノ師ニ將トシテ、齊ヲ伐タシメケレバ、其兵臨淄ニ

攻メ入りテ、齊ノ湣王出走セリ、毅勝ニ乘ジテ、六月

ノ間ニ、齊ノ七十餘城ヲ攻メ落シ、惟、莒ト即墨トノ

二城ノミ未ダ下ラザリケルガ、會、昭王卒シテ惠王

立ツ、惠王太子タリシ時ヨリ、早ク毅ト相和セザリ

ケレバ、齊ノ田單之ヲ時トシテ、反間ヲ縱チテ曰ク、  
毅ハ新王ト好カラザルガ故ニ、齊ヲ伐ツヲ名トシ  
テ、戰地ニ日ヲ送り、決シテ本國ニ歸ラズ、齊人ハ惟  
他ノ將ノ來リナバ、即墨蹂躪セラレテ、**嚙類** ナキニ  
至ラントコトヲ恐ル、先ヅ今日ノ處ニテハ、毅ガカヲ攻  
戰ニ盡サシルヲ以テ、齊ノ爲ニハ安心ナリト言ハ  
シメケレバ、惠王果シテ毅ノ異心アラント疑ヒ、  
乃チ騎劫トイフ者ヲ交代シテ將軍タラシメ、毅ヲ  
本國ニ召シ還サント爲シケレバ、毅ハ其軍ヲ棄  
テ、趙ニ奔ル、田單毅ガ奔ルヲ聞クヤ、火牛ノ計ヲ  
以テ、大ニ燕ノ師ヲ破リ、遂ニ七十餘城ヲ恢復スル

ルガゴトヒ  
若シ復他日  
罪ヲ大王ニ  
得テ去リテ  
他國ニ在リ  
氏終身敢テ  
趙ノ奴隸ヲ  
モ謀ラシ況  
ヤ大王ノ子  
孫ヲヤトテ  
固ク之ヲ辭  
シケレバ、趙  
王乃チ止マ  
リテ、毅ヲ望  
諸君ト爲ス、  
惠王趙ノ毅

ヲ用ヒテ燕ノ敵ニ乗...

ノ一ヲ恐レ...

ヲ讓ミシ...

且之ニ謝...

テ曰ク將軍...

燕ヲ振テ...

趙ニ歸ス...

ハ則チ可ナ...

リ而レ氏何...

ヲ以テカ先...

王ノ意ニ報...

ゼンヤトイ...

ヒケレバ殺...

復書レテ曰...

ク古ノ君子...

ハ交リ絶チ...

テ惡聲ヲ出...

一ヲ得タリ若シ殺ラシテ終始燕ニ將タラシ...

燕王後有武成王孝王至王喜喜太子丹質於秦秦王政...

不禮焉怒而下歸然秦欲報之秦將軍樊於期得罪亡之...

燕丹受而舍之丹聞衛人荊軻賢且辭厚禮請之秦養無...

不至欲遣軻軻請得樊將軍首及燕督亢地圖以獻秦王...

不乃殺於期軻自以意諷之曰願得將軍之首以獻秦王...

必喜而見臣臣左手把其袖右手提其胸則將軍之仇報...

而燕之耻雪矣於期慨然遂自刎丹奔往伏哭乃以函盛...

其首又嘗求天下之利匕首以藥淬之以試人血如綬立...

死乃裝遣軻行至易水歌曰風蕭蕭兮易水寒壯士一去...

兮不復還于時白虹貫日燕人畏之軻至咸陽秦王政大...

喜見之軻奉圖進圖窮而匕首見把王袖提之未及身王...

驚起絕袖軻逐之環柱走秦法群臣侍殿上者不得操尺...

寸兵左右以手搏之且曰王負劍遂拔劍斷其左股軻...

匕首擲王不中遂體解以徇秦王大怒益發兵伐燕喜斬...

丹以獻後二年秦兵虜喜遂滅燕為郡

ヲ惜ミテ乃  
チ殺ノ子ヲ  
昌國君ト爲  
シ殺モ亦燕  
ニ往來シテ  
寇ニ趙ニ卒  
シタリシト  
以夫是ノ如  
キ忠誠無ニ  
ノ人ヲシテ  
之ヲ趙ニ奔  
ラシメシハ  
惠王地下ニ  
昭王ニ謝ス  
ルノ辭ナカ  
ルバト思

ハハ燕丹荆  
刺ヲシテ秦  
王ヲ刺サレ  
メントセシ  
トテ司馬光  
論ジテ曰ク  
燕丹一朝ノ  
念ニ勝ヘズ  
盜賊ノ謀ヲ  
逞マレケレ  
テ虎狼ノ秦  
ヲ犯シ輕慮  
淺謀シテ怨  
ヲ挑ミ禍ヲ  
速キ遂ニ召  
公ノ廟ヲシ

**輯釋** 舍ルヲイフ ○請之クナリ ○奉養 大切ニ手  
ヲナ ○督亢 燕ノ膏腴ナリ ○諷 曉諭スル ○楨 刺ナ  
リ ○憤激 然ノ貌 ○焯 染ナリ、毒藥ヲ以テ劍  
ナリ、其創口極メテ微ニシテ纒ニ  
絲縷ノ如キ血ノ出ヅルヲイフ ○裝遣 文度ヲ整  
サスル ○蕭蕭 寂寥ノ貌 ○咸陽 秦ノ都 ○白虹貫日 虹ハ  
ヲイフ ○負劍 引キツケテ、拔キ易カラシムルヲ  
イフ ○擲 擲ト同ジク、投ゲ  
ス ○體解 其關節ヲ逐ヒテ、四  
肢五體ヲバラヤク

ニキリハナ ○徇 衆人ニフレ示スナリ、舊幕府ノ  
スヲイフ ○時、令ヲ民間ニ布クナリ、御觸トイ  
ヒ、明治復古ノ當初ニモ、觸頭トイフ官名アリテ、朝  
廷ノ告示ヲ士卒ニ傳フルノ職トセラレタリ、其ヲ  
ルトトイフハ、即チ徇ノ字ニテ、觸ノ字ニハアテズ、  
觸ハアルト訓ズレバ、物ニ突キ當ル義ナレハナリ、

**講義** 惠王ノ後、武成王、孝王ノ二世ヲ歴テ、王喜ニ至  
ル、喜ノ太子丹、秦ニ躡トナリケルガ、秦王政ノ  
無禮ヲ怒リテ、本國ニ亡ゲ歸リ、深ク秦ヲ怒ミテ、之  
ガ返報ヲセんと欲シタリ、會テ、將軍樊於期トイ  
フ者、罪ヲ秦王ニ得テ、亡ゲ來リケレバ、丹之ヲ逐ハ  
ズシテ、客館ニ寄留セシム、サテ衛國ノ人、荊軻ノ賢  
ナルヲ傳聞シ、言辭ヲ卑クシ、禮儀ヲ厚クシテ、之  
ヲ燕ニ招キヨセ、衣服飲食ハ言フニ及バズ、万事丁  
寧ニ遇シケルガ、其内心ハ、是人ヲ秦ニ遣リテ、宿昔  
ノ遺恨ヲ報セント欲シテナリ、軻ハ丹ノ志ヲ知り

ニキリハナ ○徇 衆人ニフレ示スナリ、舊幕府ノ  
スヲイフ ○時、令ヲ民間ニ布クナリ、御觸トイ  
ヒ、明治復古ノ當初ニモ、觸頭トイフ官名アリテ、朝  
廷ノ告示ヲ士卒ニ傳フルノ職トセラレタリ、其ヲ  
ルトトイフハ、即チ徇ノ字ニテ、觸ノ字ニハアテズ、  
觸ハアルト訓ズレバ、物ニ突キ當ル義ナレハナリ、

**講義** 惠王ノ後、武成王、孝王ノ二世ヲ歴テ、王喜ニ至  
ル、喜ノ太子丹、秦ニ躡トナリケルガ、秦王政ノ  
無禮ヲ怒リテ、本國ニ亡ゲ歸リ、深ク秦ヲ怒ミテ、之  
ガ返報ヲセんと欲シタリ、會テ、將軍樊於期トイ  
フ者、罪ヲ秦王ニ得テ、亡ゲ來リケレバ、丹之ヲ逐ハ  
ズシテ、客館ニ寄留セシム、サテ衛國ノ人、荊軻ノ賢  
ナルヲ傳聞シ、言辭ヲ卑クシ、禮儀ヲ厚クシテ、之  
ヲ燕ニ招キヨセ、衣服飲食ハ言フニ及バズ、万事丁  
寧ニ遇シケルガ、其内心ハ、是人ヲ秦ニ遣リテ、宿昔  
ノ遺恨ヲ報セント欲シテナリ、軻ハ丹ノ志ヲ知り

ニキリハナ ○徇 衆人ニフレ示スナリ、舊幕府ノ  
スヲイフ ○時、令ヲ民間ニ布クナリ、御觸トイ  
ヒ、明治復古ノ當初ニモ、觸頭トイフ官名アリテ、朝  
廷ノ告示ヲ士卒ニ傳フルノ職トセラレタリ、其ヲ  
ルトトイフハ、即チ徇ノ字ニテ、觸ノ字ニハアテズ、  
觸ハアルト訓ズレバ、物ニ突キ當ル義ナレハナリ、

**講義** 惠王ノ後、武成王、孝王ノ二世ヲ歴テ、王喜ニ至  
ル、喜ノ太子丹、秦ニ躡トナリケルガ、秦王政ノ  
無禮ヲ怒リテ、本國ニ亡ゲ歸リ、深ク秦ヲ怒ミテ、之  
ガ返報ヲセんと欲シタリ、會テ、將軍樊於期トイ  
フ者、罪ヲ秦王ニ得テ、亡ゲ來リケレバ、丹之ヲ逐ハ  
ズシテ、客館ニ寄留セシム、サテ衛國ノ人、荊軻ノ賢  
ナルヲ傳聞シ、言辭ヲ卑クシ、禮儀ヲ厚クシテ、之  
ヲ燕ニ招キヨセ、衣服飲食ハ言フニ及バズ、万事丁  
寧ニ遇シケルガ、其内心ハ、是人ヲ秦ニ遣リテ、宿昔  
ノ遺恨ヲ報セント欲シテナリ、軻ハ丹ノ志ヲ知り

ニキリハナ ○徇 衆人ニフレ示スナリ、舊幕府ノ  
スヲイフ ○時、令ヲ民間ニ布クナリ、御觸トイ  
ヒ、明治復古ノ當初ニモ、觸頭トイフ官名アリテ、朝  
廷ノ告示ヲ士卒ニ傳フルノ職トセラレタリ、其ヲ  
ルトトイフハ、即チ徇ノ字ニテ、觸ノ字ニハアテズ、  
觸ハアルト訓ズレバ、物ニ突キ當ル義ナレハナリ、

ニキリハナ ○徇 衆人ニフレ示スナリ、舊幕府ノ  
スヲイフ ○時、令ヲ民間ニ布クナリ、御觸トイ  
ヒ、明治復古ノ當初ニモ、觸頭トイフ官名アリテ、朝  
廷ノ告示ヲ士卒ニ傳フルノ職トセラレタリ、其ヲ  
ルトトイフハ、即チ徇ノ字ニテ、觸ノ字ニハアテズ、  
觸ハアルト訓ズレバ、物ニ突キ當ル義ナレハナリ、



テ祀ラザラ  
シム罪孰カ  
駢ヨリ大ナ  
ラン而シテ  
論者或ハ之  
ヲ賢ト謂ス  
豈過ラズヤ  
荆軻其秦義  
ノ私ニ懐キ  
テ七族ヲ顧  
リミズ尺八  
ノ匕首ヲ以  
テ燕ヲ強メ  
秦ヲ弱メン  
ト欲ス豈愚  
ナラズヤト

テ、請ヒテ曰ク、臣故ナクシテ謁ヲ、秦王ニ請フ、事  
成就シ難シ、故ニ樊將軍ノ首ト、燕ノ督亢ノ地圖ト  
ヲ得テ、之ヲ秦王ニ獻ジタク存ズルナリトイヒケ  
ルニ、丹ハサスガニ於期ヲ殺シカネテ、何ノ答モナ  
カリケレバ、軻ハ之ヲ推察シテ、自ラ於期ニ面シ、其  
意ヲ以テ諷諭シテ曰ク、太子辱ヲ秦ニ受ケ、將軍罪  
ヲ秦ニ得タリ、秦王ノ肆虐實ニ惡ムベシ、臣今太子  
ノ命ヲ奉ジテ、將ニ秦ニ使セントス、願ハクハ將軍  
ノ首ヲ得テ、秦王ニ獻ゼン、秦王臣ガ將軍ノ首ヲ齎  
スヲ聞カバ、必ズ喜ヒデ臣ニ面會セシ、其時臣ハ左  
ノ手ニテ其袖ヲ把リ、右ノ手ニテ其胸ヲ刺サシ、然  
ラバ則チ將軍ノ仇ハ報ジテ、燕ノ耻ハ雪ゲベシ、臣  
秦王ヲ殺セシウヘハ、固ヨリ生キテ還ルベキニ非  
ズ、將軍爲ト勸辨アリテ、決心セラレシテ、望ムト  
述マケレバ、於期ハ黙然トシテ之ヲ聽キ、慨然トシ  
テ憤激シ、遂ニ自ラ刺ヌタリ、丹於期ガ死セシト聞

趙河曰ク、秦  
強暴ノ虐ヲ  
肆ニシテ、諸  
侯ヲ吞滅セ  
ザレバ、必ズ  
已マズ、六國  
ノ將卒其坑  
戮ヲ被リ、韓  
趙先テ爲ニ  
滅ボサル勢  
必ズ絶、燕ニ  
及バン、燕丹  
ガ此ヲ爲ス  
ハ、其志豈已  
ムヲ得ンヤ、  
特ニ宗社ノ

テ、其室ニ奔リ往キ、其屍ニ取リスガリテ、聲ヲ揚ゲ  
テゾ哭ニケル、カクテ其首ヲ函ニ盛リ、嘗テ求メ置  
キタル天下第一ノ刺客ヲ取リ出ダシテ、其鏑ニ  
毒藥ヲ塗リ付ケ、試ミニ人ヲ刺シ、ニ、出血絲縷ノ  
如キ微傷ニシテ、藥氣全身ニ徹シ、目前ニ斃レケレ  
バ、是以テ秦王ヲ刺スベシトテ、軻ニ授ケ、速ニ行装  
ヲ整ヘテ、燕ノ都ヲ發セシム、既ニシテ軻ハ途次易  
水ニ臨ミ、一首ノ歌ヲ吟ジテ曰ク、風蕭々トシテ易  
水寒シ、壯士一タビ去リテ復、還ラズト、蓋レ易水ノ  
流レテ還ラザルガ如ク、身ヲ咸陽ノ土ト爲シテ、再  
ビ燕ニ還ラザルノ意ヲ詠ゼシナリ、時ニ白色ノ虹  
蜺日輪ヲ遮リテ中天ニ見ハレケレバ、燕人竊ニ之  
ヲ畏レテ、不吉ナル前表ナリトイヒアヘリ、サテ軻  
ハ咸陽ニ至リテ、燕ノ使命ヲ通ジ、樊於期ノ首ト督  
亢ノ地圖トヲ獻ゼン、述ベケレバ、秦王政ハ果  
シテ大ニ喜ビ、之ヲ殿中ニ召レテ面會ヒシカバ、軻

ハ恭シク地圖ヲ奉ゲテ、王ノ前ニ進ミ出テ、其卷物ヲ捲キテ、徐ヤト開展シタリケルガ、其圖彌盡キテ、卷軸ニ至リ、カネテ用意ノ匕首見ハレ出デケレバ、軻ハ王ノ袖ヲシツカト把リテ、匕首ヲ取りナホシ、王ヲ目ガケテ刺サントセシニ、未ダ身ニトバカズシテ、王ハ驚キ起テ、把ラレタル袖ヲ振り拂ヒケレバ、其袖忽チ斷チキレタリ、軻ハ爲損ジタリト思ヒケレバ、遂サズ王ヲ斬ラントテ、殿上ノ柱ヲ逐ヒ環リ、既ニ危ク見エタリケル、秦ノ韃ニ、群臣ノ殿上ニ陪侍スル者ハ、一尺乃至一寸ノ小刃ト雖モ、所持スルヲ許サザリレカバ、左右ノ近臣皆控箠ヲ以テ軻ヲ擲チナガラ、王早ク劔ヲ背負ヒテ技キタマハト、一同ニ叫ビケレバ、王遂ニ劔ヲ抜キテ、軻ノ左ノ股ヲ斷ツ、軻ハ足ヲ斬ラレテ、倒レナガラ、匕首ヲ引キヨセテ、王ニ投ゲ付ケ、ルニ、狙外レテ軻ヲザリケレバ、遂ニ多人數ヲリカサナリテ軻ヲ執ハ、

其身體ヲ擲タニ屠リテ、以後ノ見セシメトシタリケル、秦王カ、ル危難ニ遭ヒテ、大ニ怒リ、益兵ヲ發シテ、燕ヲ伐チケレバ、喜ハ丹ヲ斬リテ、其首ヲ秦ニ獻ジ、罪ヲ謝シケレバ、其後三年ニシテ、秦ノ兵喜ヲ虜ニシ、遂ニ燕ヲ滅ボレテ郡ト爲シヌ、

秦

秦之先本顛頊之裔曰大業者、生和驪、驪賜姓嬴氏、其後有蜚廉、蜚廉子曰女防、女防之後有非子、好馬爲周孝王主馬於汧渭之間、馬大蕃息、父乃爲附庸、邑之秦、閱二世至秦、仲始大歷、莊公至襄公、大戎殺幽王、襄公救周有功、封爲諸侯、賜以岐西地、

年好ミヲ通  
シタレハ皆  
其滅ヲ被レ  
リ、燕ノ滅ビ  
シハ、荆軻ヲ  
遣リテ怨ヲ  
挑ミ禍ヲ速  
クノ致セシ  
ニアラズト  
丁奉曰ク、羸  
政ノ惡ハ人  
々得テ之ヲ  
誅ス故ニ燕  
丹ノ遣刺張  
良ノ狙擊ハ  
子皆以テ義

**輯釋賜姓羸氏**  
古ハ姓ト氏トノ區別判然タレハ、秦漢以來混稱シテ、姓ヲ氏ト呼ベリ、故ニ姓ヲ羸氏ト賜フト書キタルモ、後世ノ沿習ニ從ヒシナリ、但シ姓ヲ指シテ氏トハイハド、氏ヲ指シテ姓トハイハズ、假令ハ源姓平姓ヲ源氏平氏トイハド、足利氏織田氏ヲ足利氏織田氏トイハザルガ如ク、**○附庸**ハ庸ハ墉ト通ジテ、小城ノ義ナリ、禮ノ王制ハ小城ナリトアリテ、諸侯ニ附屬スル小城ノ主ヲイフ、一説ニ、庸ハ民功ナリ、人民ノ勞作セル貢物ヲ大國ノ諸侯ニ附托シテ、天子ニ達スル者ナリト、庸ヲ民功ノ義ト爲ス、ハ、周禮國語等ニ見エタレハ、今小城ノ義ニ從フ、但シ孰ニシテモ大藩ニ屬スル小國ノ主ニハ相違ナキナリ、**○闕**ハ歴ナシ、秦ノ先祖ハ、本、顓頊高陽氏ノ末裔ニシテ、大業トイフ者アリ、柏翳ヲ生ム、舜之二姓ヲ羸氏ト

舉ナリト謂  
ス其謀ヲレ  
テ遂グルト  
ヲ得レトバ  
燕ノ祚以テ  
延ビ、韓ノ仇  
以テ報ゼン、  
且ツ秦東周  
ヲ滅スルノ  
罪、是ニ於テ  
討ズベシ而  
シテ凡ソ已  
ニ滅ビ未ダ  
滅ビザルノ  
國、是ニ於テ  
復スベク保

賜フ、柏翳ハ即チ舜ノ九官ノ一人ナル益ノ事ナリ、其子孫ニ蜚廉トイフ者アリ、蜚廉惡來ヲ生ミ、惡來女防ヲ生ム、故ニ女防ハ蜚廉ノ孫ニシテ、子ニ非ズ、其後非子トイフ者アリテ馬ヲ好ミ、周ノ孝王ノ爲ニ、泚水滑水ノ間ノ地ニテ、馬ヲ養フ、主リケルガ、其馬大ニ蕃息セシテ、以テ、孝王其功ヲ賞シ、土地ヲ分チ與ヘテ、秦ニ采邑ヲ賜ヒ、諸侯ニ屬スル小城ノ主ト爲ラシム、ソレヨリ二世ヲ歴テ、秦仲ニ至リ、始メテ大國ト爲ル、又ソレヨリ莊公ヲ歴テ、襄公ニ至リ、犬戎周ノ幽王ヲ殺ス、是時襄公周ノ亂ヲ救ヒ、兵ヲ發シテ、平王ヲ浴ノ王城ニ送リシカバ、王之ヲ封ジテ諸侯ト爲シ、岐ヨリ以西ノ地ヲ賜フ、  
**歷文公寧公出子武公德公宣公成公至繆公有百里奚者故虞大夫也爲繆公夫人媵上秦走宛楚人執之繆公**

ツベシ、故ニ  
曰ク皆義舉  
ナリト、然レ  
凡一七一推

聞其賢以五殺羊皮贖得之授之政號曰五殺大夫百里  
僕進其友寒叔以為上大夫

均シク利ア  
ラズ、丹ハ此  
ヲ以テ身ヲ

**輯釋** 媵ニ從フ臣ニレテ、即チ嫁入ノ附添役ナリ、  
左傳ニ、諸侯女ヲ嫁スルニ同姓媵ストアリ

膠セラレ國  
ヲ亡ボシ、良  
ハ此ヲ以テ

テ、古者諸侯ノ女子ヲ嫁スルトキハ、一二ノ同  
姓ノ國ノ人ヲ附添トシテ遣ハス定メナリ、

圖ヲ改メ功  
ヲ成ス、遂ニ

**講義** 襄公ノ後、文、寧、出子、武、德、宣、成ノ七世ヲ歴テ、繆  
公ニ至ル時ニ故ノ虞國ノ大夫ニテ氏ハ百里

論者ヲレテ  
其成敗ニ徇  
ヒテ之ヲ是

名ハ僕トイフ者アリ、晉ノ獻公嘗テ虞ノ君及ビ僕  
ヲ虜ニシ、其後女子ヲ繆公ニ嫁スルニ當リ、僕ヲ隨

非ヤレム、六

行ノ臣ト爲レテ、秦ニ遣ハレケレバ、僕ハ秦ニ至リ  
テ後、亡ゲテ宛マデ走り、楚ノ鄒人ニ執ハレタリ、然

國ノ諸君曾  
テ丹ガ志ア

ルニ繆公其賢ナルヲ傳聞レテ、之ヲ用ヒント欲  
セレガ、楚人ノ與、ザランヲ恐レテ、五枚ノ穀、詳ノ

ル者ナレ、則  
チ丹モ亦矜

政ヲ委任シ、之ヲ黜シテ五殺大夫ト曰フ、僕秦ニ仕  
ヘテ忠ヲ盡シ、其友寒叔トイフ者ヲ推舉セシカバ、

ムビキニア  
ラズヤ、然リ

繆公之ヲ上大夫ト爲シ、地ヲ闢キ國ヲ廣  
メテ、威ヲ西方ニ逞シラスルニ至レリ、

ト雖氏、丹ト  
荆軻トノオ

繆公送晉惠公歸晉已而倍秦、秦戰于韓、繆公爲晉軍所

智ハ夫豈子  
房ト日ヲ同

圍岐下有賞食、公馬者三百人、馳冒晉軍、晉解圍、遂脫繆

ビウレテ語  
ルベケンヤ

公以反、先是繆公亡善馬、野人共得而食之、吏逐得、欲法

ト、今三家ノ  
論ヲ按ズル

之、公曰、食善馬、不飲酒、傷人、皆賜酒而赦之、至是聞秦擊

ニ、司馬氏ハ  
以テ過舉ト

晉皆願從、推鋒爭死、以報德

為、趙氏丁  
氏ハ以テ義  
舉ト為ス、如  
何ニモ趙氏  
ノ論ノ如ク  
秦ハ早晚六  
國ヲ併吞ス  
ルノ志アリ  
シ者ナレバ  
丹ガ事ノ有  
無ニ拘ハラ  
ズ、燕獨リ秦  
ノ兵ヲ免ル  
ベキニ非ズ、  
又丁氏ノ論  
ノ如ク、六國

**講義** 繆公晋ノ惠公ヲ送リテ晋ニ歸ス、初メ晋ノ獻  
公ニ嫁セシ者ナリ、其後大戎ノ女重耳ヲ生シ、小戎  
ノ女夷吾ヲ生シ、驪戎ノ女夷齊ヲ生シ、其姪卓子ヲ  
生シ、夷齊ノ母寵アリ、遂ニ申生ヲ殺シ、重耳夷吾ヲ  
逐フ、獻公卒スルニ及ビテ、夷齊立ツ、大夫里克之ヲ  
弑ス、卓子立ツ、克又之ヲ弑ス、夷吾國ヲ去リテ、秦ニ  
奔リケルガ、是ニ至リテ、繆公之ヲ晋ニ納ル、是即チ  
惠公ナリ、惠公位ニ即テ後、秦ノ恩義ニ倍キ、繆公ト  
韓ニ合戦シテ、之ヲ圍ム、時ニ岐山ノ下ニ住スル人  
民ノ嘗テ繆公ノ馬ヲ食ヒシ者三百人アリ、馳セ來  
リテ晋ノ軍ヲ駭シ、其圍ミヲ解キテ、繆公ノ危難ヲ  
脱シ、秦ニ反ル、是ヨリ先キ繆公一ノ良馬ヲ亡フ、岐  
下ノ野人相共ニ之ヲ得テ、其肉ヲ食ヒ、公ノ馬ナリ  
ト聞テ、皆逃レケルガ、秦ノ吏之ヲ逐ヒテ、其衆ヲ捕  
ヘ來リ、刑罰ニ處セント欲セシニ、繆公其衆ノ不讓

ノ君主皆秦  
ヲ畏レテ、牛  
後ノ笑ヲ取  
リレ者ナレ  
バ、丹ハ實ニ  
勇氣アル者  
ト謂フベレ、  
然リト雖モ  
司馬氏ノ論  
ノ如ク、輕慮  
淺謀ニハ相  
違ナキナ  
リ、燕丹實ニ  
秦ノ無礼ニ  
報ゼントナ  
ラバ、宜シク

ニ出ヅルヲ知リテ、之ヲ罰スルニ忍ヒズ、俛リ言テ  
曰ク、良馬ヲ食ヒテ酒ヲ飲マヌトキハ人身ニ害  
リトテ、一同ニ酒ヲ賜ヒケレバ、野人深ク感じテ、公  
ヲ愛スルヲ父母ノ如クニ思ヒ居タリケルガ、今ヤ  
晋ト事アルヲ聞テ、一同ニ從軍ヲ願ヒ出デ、公ノ晋  
軍ニ國マル、ニ及ビ、敵ノ鋒先ヲ推シノケテ、我先  
キニト身命ヲ擲チテ戦ヒ、遂ニ公ヲバ助ケ  
出ダシテ、前日ノ大恩ニ報ジタリレト云フ、  
穆公後又送晉文公歸國、立而霸諸侯、晉文公卒、秦遣孟  
明襲鄭、因破滑、晉襄公敗之、幄繆公不替、孟明修國政、後  
伐晉、得志、遂霸西戎。  
**輯釋** 不替 晉ハ廢ナリ、餘人ト  
取リ替ル義ナリ、  
○修 修ハ修飾ノ義ニ  
テ、手入ヲスル

30

樂毅人ノ如キ者ヲ得テ之ト大策ヲ舉ゲ正々堂々ノ師ヲ興シテ周室ノ爲ニ叛臣ヲ討ズルヲ名トシ天下ノ東ヲ卑ヒテ西ノ方面谷關ニ向テマシ置一個刺客ノ力ヲ恃ミテ孤憤ヲ萬一ニ伸

ナリ治ハ治理ノ義ニテ筋道ヲ立ツルヲナリ故ニ修ハ重ニ身ヲ修メ徳ヲ修ムル方ニ用ヒ治ハ重ニ人ヲ治メ國ヲ治ムル方ニ用フレ也亦時トシテハ互ニ差別ナク用フル所アリ

晉ノ惠公卒ハルノ明年穆公又晉ノ重耳ヲ送リテ國ニ歸ス重耳立テ諸侯ノ長ト爲ル是即チ文公ナリ又公卒レテ後穆公其臣百里視字ハ孟明トイフ者ヲ將トシテ鄭ノ不意ヲ襲ハレテ因テ其屬地ナル滑ヲ破ル晉ノ襄公師ヲ興レテ秦ノ兵ヲ喙ニ敗ル穆公孟明ガ敗軍ノ罪ヲ宥レテ之ヲ廢セズ益國政ヲ修メレノケレバ其後晉ヲ伐テテ望ミテ達レ遂ニ西戎ノ間ニ諸侯ノ長ト爲リヌ

歷康公共公桓公景公哀公惠公悼公厲公共公蹇公懷公靈公簡公惠公出子獻公至孝公河山以東強國六小國十餘皆以夷狄遇秦擯不與諸侯之會昭孝公下令賓

客群臣有能出奇計強秦者吾其尊官與之分土衛公孫

鞅入秦因嬖人景監以見說以帝道王道三變爲霸道而

後及強國之術公大悅發法恐天下議也鞅曰民不可

與虐始而可與樂成卒定令今民爲什伍相收司連坐不

告姦者腰斬告姦者與斬敵同賞匿姦者與降敵同罰有

軍功者各以率受爵爲私闘者各以輕重被刑大小戮力

本業耕織致粟帛多者復其身事末利及急而負者舉以

推亦以テ並

ベ稱スベキ

ニ非ズ良ハ  
亡國ノ遺臣

為收祭

ニシテ軍身  
以テ之ヲ行

輯釋河山

河山ハ黄河ナリ山ハ華山ナリ漢土ニ五ノ  
名山アリ之ヲ五嶽ト稱ス其河南ニ在ル

ヲ祖擊中ラ  
不ト雖氏固

ヲ華山ト曰ヒ河西ニ在ルヲ嵩山ト曰ヒ河東ニ在  
ルヲ泰山ト曰ヒ河北ニ在ルヲ恒山ト曰ヒ江南ニ

ヨリ韓ニ損  
益ナシ丹ハ

在ルヲ衡 ○分土  
分ハ割カツトイフ動詞ニナルト  
山ト曰ス ○分土  
キニハ平聲ニシテ分限分量職分

大國ノ曹子  
ニシテ事ノ

領分ナド、イフ名詞ニナルトキニハ去聲ナリ、分  
土ハ即チ領分ノ土地トイフナレバ去聲ナリ、

成敗國ノ安  
危ニ関スル

○虞始  
物事ノ創始ヲ相談スルヲイフ  
○樂成  
ハ

ヤ大ナリ故  
ニ輕慮深謀

音ヨリニテタノシム義ナリ成ヲ樂トハ物事ノ  
成就シタル後ニ甘ニシテ其制ヲ受クルヲイフ

ノ四字ハ丹  
ヲ斷ズルニ

○令民為什伍相收司連坐  
家ヲ保ト為シ十家相連

當レリト謂  
フベキナリ

ナルナリ收司トハ相糾發スルヲナリ一家罪アレ  
バ九家舉發ス若レ糾舉セザレバ十家連坐スト正

秦ノ繆公馬  
ヲ食ヒレ野

義ニ曰ク司ハ管ナリ什伍ノ法ヲ為レテ之ヲシテ  
相收メ相管セシムルナリト軍法ニ什伍ノ制アリ

人ノ罪ヲ赦  
シテ晉ノ圍

テ五人ヲ伍ト為シ二伍ヲ什ト為ス此ニイフ什伍  
ハ人頭ヲ以テ數ヘズ人家ヲ以テ數フルナリ收司

君仁ヲ行フ  
ノ報宜一馬

ハ互ニ取締リラスルヲナリ連坐ハ一家罪ヲ犯  
セバ組合ノ九家共ニ同罪ニ處セラルヲイフ

勝ラズヤ延  
元ノ亂ニ新

匿姦  
カカシテハ隱藏ナリ書ノ辭典ノ註ニ外ニ在ルヲ姦  
ト曰ヒ内ニ在ルヲ宄ト曰フトアリテ姦ハ現

曰義貞師ヲ  
帥ヒテ播州

行ノ惡 ○腰斬  
腰ヨリ斬リテ一  
車ナリ ○率  
約數ナリ猶ホ

ニ赴キ令ヲ  
軍中ニ申レ

ゴト ○戮力  
戮ハ勦ト通ジテ  
シ ○復其身  
復ハ除ナリ  
其身ノ兵役

ヲ免除ス ○事未利  
事トスハ務トスルナリ未利ハ  
ルヲイフ 工商ナリ耕織ノ本業ニ對シテ

テ田麥ヲ刈  
リ民屋ヲ犯

イ  
○收撃  
收ハ没入ノ義撃ハ妻子ナリ其妻  
子眷族ヲ官ニ取リアグルヲイフ

スナナカラ  
シメシニ小

講義  
繆公ノ後康共桓景哀惠悼厲共躁懷靈簡惠出  
子獻ノ十六世ヲ歴テ孝公ニ至ル時ニ黄河華

山田高家潛  
ニ田隴ニ行

山ヨリ東ノ方ニ當リテ六ノ強國アリ曰ク齊曰ク  
楚曰ク魏曰ク燕曰ク韓曰ク趙是ナリ及ビ淮泗二

キテ民ノ青  
麥ヲ焚リ軍

水ノ間ニ十餘ノ小國アリテ皆秦ヲ視ルテ禽獸ノ  
如ク秦ヲ遇スルテ夷狄ノ如ク之ヲ擯斥シテ中國

營ニ入レシ  
カバ人之ヲ

諸侯ノ會同盟約ニ加ヘザリシカバ孝公發憤シテ  
益國ヲ強大ニセント欲シ來游ノ賓客及ビ本國ノ

見テ令ヲ侵  
スノ罪ヲ加

諸臣中能ク非常ナル計策ヲ出ダシテ秦ヲ強クス  
ル者アラバ吾之ヲ賞シテ其官ヲ進メ領分ノ土地

ヘント欲セ  
レニ義貞之

ヲ與フベシト普ク國內ニ令シケレバ衛國ノ人公  
孫鞅トイフ者之ヲ聞テ秦ニ入リ公ノ嬖幸セル近

ヲ聞テ曰久  
高家兵食既

臣景監トイフ者ニタヨリテ公ニ謁見シ先ヅ上古  
五帝ノ治道ヲ述ベ次ニ中古三王ノ治道ヲ述ベ又

ニ盡キテ換  
糧繼ガズ故

其次ニ近世五霸ノ治道ヲ述ベ而シテ後ニ其得意  
ナル強國ノ手段ニ説キ涉リケレバ公ハ大ニ喜悅

ニ自ラ法ヲ  
犯シテ部下

シテ最後ノ説ヲ納レ國ノ法令ヲ一變セント欲セ  
レカド天下ノ人ノ已ヲ非難センテヲ氣ツカヒテ

ノ饑ヲ救ヒ  
シナラント

未ダ決セザリシカバ鞅之ヲ勵マシテ曰ク凡ソ人  
民トイフ者ハ何事ニ因ラズ其手始ヲ相談スル

テ人ヲシテ  
其陣中ヲ檢

ハナラヌ者ナレバ一旦事ノ成就セシ後ハ甘ンジ  
テ其制ヲ受クル者ナレバ人民ノ毀譽ハ顧慮スル

セシメシニ  
果シテ糧食

モ無益ナリ宜シク銳意斷行シタマフベシトイヒ  
ケレバ公之ヲ然リトシ卒ニ鞅ト謀リテ新令ヲ創

ナカリシカ  
バ義貞乃チ

定ス其法人民ノ組合ヲ設ケテ五家ヲ伍ト爲シ十  
家ヲ什ト爲シ其組合中ニテ互ニ取締リヲ爲シ一

衣ニ襲ヲ取  
リテ其田主

家罪アレバ其罰九家ニ及ボシ人ノ惡事ヲ知リテ  
之ヲ告發セザル者ハ腰斬ノ刑ニ處シテ身體ヲ二

ニ與ヘ而シ  
テ高家ノ罪

ツ切リニ爲シ人ノ惡事ヲ告發スル者ハ敢ノ首ヲ  
斬ルト同一ノ賞ヲ與ヘ人ノ惡事ヲ告發セザルノ



ヲ赦シタリ、高家深ク感、激シテ後ニ、義貞ニ代リ、テ死ス嗚呼、君ノ民ヲ愛、スルヲ秦繆、ノ如ク、將ノ、士ヲ撫スル、ヲ義貞ノ如、クナレバ、皆、之ニ報ズル、ニ死ヲ以テ、セリ、盛ンナ、ルカナ仁ノ、徳タルヲ、

ミナラズ、故ニ、隱匿シテ、首白セザル者ハ、敵ニ降伏、スルト同一ノ、罰ニ處シ、戰場ニ臨ミテ、武功ヲ建ツ、ル者ハ、勲勞ノ、差等ニ準ヅテ、ソレ々々ニ、爵ヲ受ケ、シメ、私怨ヲ、以テ、鬪争ヲ為ス者ハ、事情ノ、輕重ニ、因、リテ、ソレ々々ニ、刑ヲ被ラレム、大小ノ、人民カヲ、并、セテ、相助ケ、耕ト織トヲ、本業ニシ、多ク、米粟布帛ヲ、上納スル者ハ、其、兵役ヲ、免除レ、工、藝商賈ノ、末利ヲ、務メテ、農桑、畊織ノ、本業ヲ、治メザル者、及ビ、本業ヲ、怠リテ、家計、貧困ナル者ハ、其、本人ハ、言フニ、及バズ、一家ノ、妻子ヲ、没入レテ、官家ノ、奴僕ト為シ、以テ、之、ヲ、驅役スルト、定メタリ、初メ、鞅カ、變法ノ、説ヲ、述、ベシトキ、甘龍ト、イフ者之ヲ、不可ト為シケレバ、鞅、曰リ、智者ハ、法ヲ、作り、愚者ハ、之ニ、制セラル、賢者ハ、禮ヲ、更メ、不肖者ハ、之ニ、拘ハル、常人ハ、故俗ニ、安シ、ジ、學者ハ、聞ク、所ニ、弱ルレバ、與ニ、新法ヲ、議スル、ニ、足ラズトテ、遂ニ、公ノ、意ヲ、決セシメレト云フ、

○衛ノ公孫懿頭、鞅素ニ入り、參説

十八史畧講義大全卷十

東京 鳥寄友輔 著

嬖人景監ニ、囚リテ、孝公、ニ見エ、説ク、ニ、帝道王道、ヲ以テシ、三、變シテ、霸道、ト為リ、而シ、テ、後ニ、強國、ノ術ニ、及バ、史記ニ、載ス、孝公既ニ、衛、鞅ヲ、見テ、事、ヲ語ル、ト、良、久シ、公時々、

令既具未布、三丈之木於國都市南門、募民有能徙北、門者、予十金、民怪之、莫敢徙、復曰、能徙者、予五十金、有一、人徙之、輒予五十金、乃下令、太子犯法、鞅曰、法之不行、自、上犯之、君嗣不可施刑、刑其傅公子虔、黥其師公孫曹、秦、人皆趨令、行之十年、道不拾遺、山無盜賊、家給人足、民勇、於戰、怯於私鬪、鄉邑大治、初、言不便者、來言、今便、鞅、

睡リテ聴カズ、鞅退久公

景監ニ怒リテ曰久子ガ客ハ妄人ノミ、安ガ用フルニ足ランヤト、監以テ鞅ヲ讓ム、鞅曰久吾公ニ説クニ帝道ヲ以テセシカレ、其志開悟セザリシナリト、後五日、鞅復公ニ

見エテ益愈ス、然レ臣未カ旨ニ中ラズ、鞅退久公復、監ヲ讓ム、監モ亦鞅ヲ讓ム、鞅曰久吾公ニ説クニ王道ヲ以テセシカレ、未カ耳ニ入ラザリシナリト、後復公ニ見ユ、公之ヲ善シトシテ未カ用ヒ

鞅商於十五邑、號曰商君

鞅商於十五邑、號曰商君

輯釋未布

布告セザルヲイフ

三丈

今ノ二丈一尺六寸ナリ

輒予五十

金乃下令

輒ハダヤスク、乃ハソコデナリ、言フハ、木ヲ徒シタル者ニ、ヤソカト五十金ヲ予ヘテ、ソコデ令ヲ發シタルナリ、

刑其傅公子虔

刑ハ、説文ニ劉ナリトアリテクビ

ヲハヌルナリ、ソレヨリ罰ノ總名ト爲リテ、首ヲ斬ル、ノミニ限ラズ、但シ史記秦本紀ニハ、其師傳ヲ黜ストアリテ、二人

趨

趨從ナリ、誰モ彼モ速ニ從フヲイフ

給

公戰私闘

公戰ハ、國君ノ命令ヲ以テ戰爭スルナリ、私闘ハ、一邑ノ私意ヲ以テ鬪争スルヲイフ、戦ト鬪トハ同訓ナレ、戦ハ師ヲ興シテ合戦スル、鬪ハ相對ノキリアヒツカニアヒナリ、故ニ戦ハタ、カヒノ大ナル者、鬪ハタ、カヒノ小ナル者ナリ、

怯

足

同室内息

堂室ト對スルトキハ、堂ハ表座敷室ハ奥座敷ナリ、サレド、此ニイフ室ハ、家ノ通稱ニテ、奥座敷ト限リタルニハ非ズ、同室内息トハ、一家内ニ合居止息スルヲイフ

井田

方一里ノ地ヲ田此ノ如ク九區ニ分チテ、每區一百畝合セテ九百畝ノ田ト爲ス、

其中央ノ一百畝ヲ公田トイヒテ、官ノ供米ヲ作ル處ト爲シ、其周圍ノ八百畝ヲ八家ニ分給シ、一家各一百畝ヲ受ケテ、之ヲ私田ト爲シ、相與ニ公田ヲ耕シテ、之ヲ官ニ納シ、各私田ヲ耕シテ、其産ヲ立ツ

各一百畝ヲ受ケテ、之ヲ私田ト爲シ、相與ニ公田ヲ耕シテ、之ヲ官ニ納シ、各私田ヲ耕シテ、其産ヲ立ツ

耕シテ、之ヲ官ニ納シ、各私田ヲ耕シテ、其産ヲ立ツ

耕シテ、之ヲ官ニ納シ、各私田ヲ耕シテ、其産ヲ立ツ

耕シテ、之ヲ官ニ納シ、各私田ヲ耕シテ、其産ヲ立ツ

之鞅退久公

之ヲ井田ノ  
法トイフ、  
○阡陌南北ノ路ヲ阡ト曰ク、東西ノ路ヲ陌ト曰ク井田ノ縱橫ノ經界

久汝が客ハ

ニ設ケタル道路ナリ、阡陌ヲ開クトハ、  
之ヲ開墾シテ、田地ト爲シタルヲイフ、  
○更改メ改メ

與ニ語ルベ

○講義 秦ノ孝公公孫鞅ト議スル所ノ新令既ニ成リ

シト監鞅ニ

奉セザラントテ、恐レテ、未ダ之ヲ頒布セザルニ先

問ス鞅曰久

ダ夫ニ大有餘ノ大木ヲ國都ノ市中ノ南門ニ立テ

吾公ニ説ク

置キ、人民ニ勸募シテ曰ク、此大木ヲ能ク北門ノ方

ニ霸道ヲ以

ニ徙ス者アラバ、其賞トシテ十金ヲ予フベシト掲

テセシニ其

示セシニ、衆皆之ヲ疑ビテ、我徙サントイフ者ナカ

意之ヲ用ヒ

リケレバ、再ビ勸募シテ曰ク、能ク徙ス者アラバ五

ノ色アリト

十金ヲ予フベシト、然ルニ一人アリテ、半信半疑ヲ

後復公ニ見

抱キナガラ、試ミニ之ヲ北門ニ徙シケルニ、異議ナ

ニ公與ニ語

ク五十金ヲ予ヘテ、號令ノ虚ナラザルヲ知ラシ

リテ自ラ膝

人乃チ新令ヲ布告シタリ、令ノ發スルヤ、公ノ太子

ノ前ムヲ知

之ヲ悔リテ、其法ヲ犯レケレバ、鞅曰ク、法ノ行ハレ

ラテ、語ル

ヌトイフハ、上ノ人ヨリ之ヲ犯セバナリ、サレド君

數日ニシテ

ノ鬪君ニハ、刑ヲ施サレズ、畢竟師傅ガ教導ノ宜シ

厭カズ、監曰

カラザルニ因ルトテ、太子ノ傳ナル公子虔ヲ刑シ

ク子何ヲ以

太子ノ師ナル公孫賈ヲ黜ス、秦ノ人民之ヲ聞テ、令

テ君ニ中ツ

ノ嚴ナルニ驚キ、皆速ニ之ニ從ヒヌ、カクテ新令ヲ

ルヤ、鞅曰ク

行フテ十年ノ久シキニ及ビ、道路ニ遺チタル者ア

吾公ニ説ク

リ氏、私ニ之ヲ拾ヒ取ル者ナク、山野ニ盜賊劫掠ノ

ニ強國ノ術

蹟ナク、家々給足シテ、人々安樂ニ生活シ、皆國家ノ

ヲ以テセシ

公戰ニ勇奮シテ、喧嘩口論ヲセズ、郷邑肅然トシテ

カバ、公大ニ

治マリケレバ、其初メ新令ノ便利ナラザルヲ言

之ヲ説ビシ

ヒシ者、皆來リテ便利ナリト言フ、鞅曰ク、此ノ如キ

ノミト、蓋シ

輩ハ、皆國法ヲ紊亂スル者ナリトテ、盡ク之ヲ邊境

鞅ガ秦ニ施

ニ放逐セシカバ、人民大ニ恐レテ、復之ヲ謗議スル

ス平以テ觀

者ナシ、從來秦ノ民俗ハ、父子兄弟一家室ニ同住セ

ルニ、鞅ハ固

レガ、是ニ至リテ之ヲ禁ジ、各其居ヲ異ニセシメテ、

ヨリ帝王ノ

道ヲ行フ者ニ非ズ而シテ其孝公ニ説クニ先ツ是等ノ説ヲ以テセシハ姑ク公ノ向背ヲ伺ヒシナリ故ニ假令公ヲシテ帝王ノ道ニ感ゼシムルヲアリシ鞅が志ヲ得ルニ至ラバ必

戸ゴトニ兵役ヲ課シ王制ノ井田ヲ廢シテ田間縱横ノ道路ヲ開墾セシメ賦税ノ法ヲ改メテ田ニ公私ノ別ナク濫墾スルコト定メタリ新令一タビ行ハレテヨリ秦ノ人民皆農桑ヲ務メ武功ヲ尚ビテ家富ミカ強クナリケレバ孝公鞅が勲績ヲ嘉シテ商於ノ地十五邑ヲ與ヘ號シテ之ヲ商君ト曰フ  
孝公薨惠文王立公子虔之徒告鞅欲反鞅出亡欲止客舍舍人曰商君之法舍人無驗者坐之鞅歎曰爲法之弊一至此哉去之魏魏不受內之秦秦人車裂以徇鞅用法酷步過六尺者有罰棄灰於道者被刑嘗臨渭論囚渭水盡赤

ノ術ニ歸スベキノミ其定ムル所ノ新法ヲ觀ルニ苛酷モ亦甚シト雖死之ヲ行フコト十年ニシテ道ニ遺ナタルヲ拾ハズ山ニ盜賊ナク家ゴトニ給シ人ゴトニ足リ民公戰ニ勇ミテ私闘ヲ怯レ

輯釋 鞅行免狀ノ如シ ○坐ニ連坐ノ坐ト同ジク罪送リ込ム ○車裂四體及ビ首ヲ五馬ニ繫ギ之ヲ鞭ヲチ走ラシメテ五裂スルヲイフ ○內  
○一至此哉 一ハ語ヲ強メテイヒタルナリ一ハ語ヲ強メテイヒタルナリ一ハ語ヲ強メテイヒタルナリ一ハ語ヲ強メテイヒタルナリ  
講義 孝公薨ジテ惠文王立ツ王太子タリシ時法ヲ犯シテ其傳公子虔刑セラレシニ因リ虔鞅ヲ怨ミテ王ニ讒シ被レ反セント欲スルノ狀アリト告ゲレバ鞅誅ヲ懼レテ逃亡シ日暮レテ客舍ニ止宿セント欲セシニ舍ノ主人其商鞅ナルコトヲ知ラズレテ曰ク我が商君ノ定メラレタル法律ニ旅人ノ免狀ナキ者ヲ止宿セシムル者ハ之ヲ罪ニ處スベシトアリ故ニ免狀アラバ示サレヨナクバ止メ難シト答ヘタリ然ルニ鞅ハ身ヲ以テ免レ來リシコトナレバ是等ノ事ニハ心付カズ獨リ嘆息悔悟シ

郷邑大ニ治  
マルトイフ  
ニ至リテハ  
所謂帝王ノ  
道ト雖氏以  
テ之ニ加フ  
ルナキガ  
如シ然ルニ  
一朝其官ヲ  
失ヒテ車裂  
ノ刑ニ遇ヒ  
タルヲ見レ  
バ蓋シ民心  
ノ初メヨリ  
服セザリシ  
ヲ知ルベシ

テ曰ク法ヲ作爲セシ弊害ハ此程マデニナリツル  
カトテ遂ニ一夜ノ宿ヲ借ルベキ所ナク露宿シテ  
秦ヲ去リ魏ニ之キケルガ魏ニ於テモ之ヲ惡ミテ  
其國ニ置カズ執ヘテ之ヲ秦ニ送リケレバ秦人大  
ニ喜ビテ軋驪ノ刑ニ處シ以テ國中ニ示シタリ鞅  
ガ廟堂ニ立チシ時法ヲ行フ極メテ峻酷ニシテ  
民ノ所有地ヲ測量シ一步ノ間六尺ヲ超過スル者  
アルトキハ必ズ之ニ罰ヲ加ヘ灰ハ田地ノ肥料ト  
爲ルベキ者ナレバ妄ニ之ヲ道路ニ棄ツル者アル  
トキハ必ズ之ヲ刑ニ處ス嘗テ渭水ノ濱ニ於テ囚  
徒ノ罪ヲ斷ゼシ時人ヲ殺ス一甚カ多クシテ流血  
淋漓水面盡ク赤色ニ變ゼシ程ナリシト云ス  
惠文王薨子武王武王使甘茂伐韓茂曰宜陽大縣其  
實郡也今倍數險行千里攻之難魯人有與曾參同姓名

長帝王誠ヲ  
推シテ民ヲ  
化スルノ道  
ト相反スル  
所以ナリ甘  
茂ガ韓ヲ伐  
ツニ方リ武  
王ト息壤ニ  
盟ヒシ事ス  
霍渭屋論シ  
テ曰ク盟ハ  
衰世ノ事ナ  
リ秦ノ君臣  
息壤ニ盟フ  
ハ豈ニ怪ム  
ベシ既ニ盟

者殺人人告其母母織自若及三人告之母投杼下機踰  
牆而走臣賢不及曾參王之信臣又不如其母疑臣者非  
特三人臣恐大王之投杼也魏文侯令樂羊伐中山三年  
而後拔之反而論功文侯示之謗書一篋再拜曰非臣之  
功君之力也今臣羈旅之臣也樽里子公孫詭挾韓而譏  
王必聽之王曰寡人弗聽乃盟于息壤茂伐宜陽五月而  
不拔二人果爭之武王乃伐欲罷兵茂曰息壤在彼王乃  
悉起兵佐茂遂拔之

ヒテ、讒言猶

ホ間スルヲ

ヲ得タリ王

ノ茂ニ於ケ

ル相知ルヲ

際カラズ相

信ナルヲ篤

カラザルノ

ニ嘗テ齊ノ

威王ガ章子

ニ任ジテ將

ト爲シ、ヲ

觀ルニ、秦ノ

軍ト壘ヲ對

シテ、使者數

相往來シ、章

子徽章ヲ變

ジテ、秦ノ軍

ニ雜ハル候

者言フ、章子

齊ヲ以テ秦

ニ入ルト、威

輯釋 宜陽大縣其實郡也 十六郡ト爲キ郡ノ下ニ縣

アリ、郡縣ノ制始メテ定マルソレヨリ以前ハ、郡ト

曰ヒ縣ト曰フモ、其區別判然セザレ、郡ハ縣ヨリ

大ナルニハ相違ナシ、宜陽ハ大縣其實ハ郡ナリト

ハ、宜陽ノ地ハ縣ナレ、郡ホドノ大サアリトノ謂

ナリ、宜陽ハ古ノ邑ノ名ニシテ、春秋ノ時ニハ晉

ニ屬シ、戰國ノ時ニハ韓ニ屬シ、其後秦ニ歸ス、○

倍數險ニ、函谷及ビ三嶠五谷ヲ謂フトアリテ、數ケ

所ノ險阻ヲカマハ ○自若モ動カヌヲイス、○杼機

織ヲ持ス ○驍旅之臣 茂ハ下蔡ノ人ニシテ、來リテ

秦ニ仕ス、○樛里子 秦ノ惠文王ノ弟ニシテ、名ハ疾

故ニ云ス、○樛里子 トイフ者ナリ、渭南ノ陰郷ニ居

ル、其里ニ大樛アリ、故ニ樛里子ト ○挾韓 韓ヲ護ス

胸中ニ挾ムナリ、樛里子ノ母ハ韓ノ女ニシ

テ、公孫奭ハ本、韓ノ諸公子ナリ、故ニ云ス、

講義 惠文王薨ビテ、其子武王立ツ、武王將軍甘茂ヲ

陽ハ大縣ニシテ、實地ノ廣サハ郡ホドモアリ、今ヤ

數ケ所ノ險阻ニカマハズ、千里ノ長途ヲ馳セ行キ

集腋成裘

集腋成裘

十八史記集解

六

ヲ言フ者人ヲ異ニシテ辭ヲ同ジウス、王何ッ將ヲ廢シテ之ヲ擊タザルヤ、王曰久此寡人ニ叛カサルヲ明ケシ、曷爲之ヲ擊タント、項間アリテ齊兵大ニ勝チ、秦兵大ニ敗ル、呼齊威ノ章子ニ於テ

ノ賢ニシテ、万々人ヲ殺ス、ナシト雖、氏之ヲ告グル者再三スレバ、其母ヲシテ疑ハシムルニ至ル、然ルノ臣ヲ信ゼラル、一、其母ニ如カズ、而シテ臣ヲ疑フ者三人ノミニ止マラズ、故ニ臣ガ命ヲ奉ジテ赴キシ後、大王讒者ノ説ヲ納レテ、臣ガ爲メニ杼ヲ投ジタマハシ、一、氣ツカハシク存ズルナリ、往年魏ノ文侯ガ樂羊ヲシテ中山ヲ伐タシメシ時、三年ノ久シキヲ歷テ、而シテ後ニ之ヲ拔キ、魏ニ及リテ、朝ニ軍功ヲ評議セシニ、文侯曰、臆ノ書類ヲ出カシテ、羊ニ示サル、羊其書ヲ讀ムニ、盡ク中山在陣ノ日ニ當リテ、羊ガ軍功ナキヲ誹謗シ、或ハ羊ガ異圖アルヲ讒謗セシ者ナリ、然ルニ文侯羊ヲ信ズルヲ篤クシテ、敢テ之ヲ顧リミズ、皆篋中ニ藏メ置キ、羊ノ反ルヲ俟チテ示サレシナリ、羊之ヲ讀ミ畢リテ、再拜シテ曰ク、中山ノ欽、臣ガ功ニ非ズ、全ク君ノ心ヲ動カシタマハザリシニ、因ルト、感謝セシトナリ、今ヤ臣ハ下蔡ノ賤民ニシテ、先君ノ朝ニ始メテ仕ヘ奉リタル、流寓羈旅ノ孤臣ナリ、王ノ寵臣杼里子公孫奭ノ輩、陰ニ韓ヲ護スルノ意ヲ挾ミテ、臣ガ攻戰ノ得失ヲ譏議セバ、王必ズ之ヲ聽キ納レテ、臣ヲ疑ヒタマフニ相違ナシ、カクテハ臣ガ功ヲ全タウスベキニ非ズト述ベケレバ、王曰ク、吾寡人汝ガ出陣ノ後ニ於テ、如何ナル説ヲ唱フル者アリ、氏決シテ之ヲ聽カザルナリ、心安ク思フベシトテ、乃チ息壤トイフ處ニ會シ、君臣互ニ確實ナル誓約ヲ定メ、而シテ後ニ、甘茂ハ兵ニ將トシテ宜陽ヲ伐チケルガ、既ニ五ヶ月ヲ歷テ拔ケザルニ及ビ、杼里子公孫奭ノ二人、果シテ王ノ前ニ種々ノ浮言ヲ述ベテ、甘茂ヲ沮ミケレバ、武王大ニ疑惑ヲ生ジ、茂ヲ召シテ兵ヲ罷メント欲セシニ、茂曰ク、息壤彼ニ在リ、王誓約ヲ忘レタマフ、母レト答ヘケレバ、王解悟シテ、

ル、相如ル、深く相信ズルヲ篤シト謂フベシ、是ノ如クンバ、百クビ市ニ虎アリトイフ、氏揺カビ、豈三タビ告ガルヲ以テ杼ヲ投ゼンヤ、惜イカナ、秦武ノ茂ニ任ズルヲ、齊威ノ章ニ任ズルニ如カ

約ヲ忘レタマフ、母レト答ヘケレバ、王解悟シテ、

サリシ宜

陽ノ拔ケタ

ルモ亦幸ニ

シテ勝チシ

ノミト此論

實ニ然ル范

睢ガ遠交近

攻ノ策ニ就

テハ宋ノ林

之奇論シテ

曰ク六國ノ

秦ニ於ケル

其地ハ則チ

六倍ノ地其

兵ハ則チ六

倍ノ兵其食

ハ則チ六倍

ノ食ナリ而

シテ卒ニ秦

ニ并セラル

、所以ノ者

ハ蓋シ秦ハ

天下ノ勢ヲ

知り六六國

ハ知ラザル

ガ故ナリ秦

ノ之ヲ知ル

所以ノ者ハ

其謀范睢ガ

遠交近攻ノ

策ニ出テタ

リ韓魏ヲ取

乃チ悉ク兵ヲ起シ、茂ヲ佐ケ  
テ、遂ニ之ヲ拔キタリケル、

武王有力好戲力士任鄙烏獲孟說皆至大官王與子說

舉鼎絶脈死

**講義** 武王勇カアリテ、常ニ功績ヲ好ミ、力士任鄙、烏獲、孟說ヲ寵シ、皆授クルニ、大官ヲ以テス、王嘗

テ孟說ト與ニ鼎ヲ舉ゲ、ルガカヲ用フル度ニ過キテ、脈管ヲ斷絶シテ死ス、胡三省曰ク、脈ハ藏府

ニ係絡シテ、其血理支體ノ間ニ分行ス、人重キヲ舉ゲテ、力勝フルヲ能ハズ、故ニ脈ヲ絶テテ死ス、史記

甘茂ノ傳ニ、武王周ニ至リテ周ニ卒ストアレバ、蓋シ鼎ヲ舉グトハ、九鼎ヲ舉ゲタルナリト、但シ脈ノ

字史記秦本紀ニハ、膺ニ作ル、正義ニ曰ク、膺ハ脛骨ナリト、

弟昭襄王稷之有魏人范睢者嘗從須賈使齊齊王聞其

辯口乃賜之金及牛酒賈疑睢以國陰事告齊歸告魏相

魏齊魏齊怒使擊睢折脅拉齒睢佯死卷以箆置廁中使

醉客更溺之以懲後睢告守者得出更姓名曰張祿秦使

者王魏至魏潛載與歸薦于昭襄王以為客卿教以遠交

近攻之策

**輯釋** 溺ハ溺没ノ義トナルトキハ音「テ」キ、尿ト同

シ「ネ」ウハ吳音ニテ、○客卿他國ヨリ來リテ卿ト爲

其漢音ハ「カ」ウナリ、客卿ルガエエニ、客卿トイフ



リテ天下ノ  
樞ヲ執ラバ  
齊楚安ガ滅  
ビザルコトヲ  
得ンヤ其遠  
ク齊楚ニ交  
ハルヤ二十  
年兵ヲ楚ニ  
加ヘズ四十  
年兵ヲ齊ニ  
加ヘズ而シ  
テ近ク韓魏  
ヲ攻ムルヤ  
今年韓ヲ伐  
テ明年魏ヲ  
伐テ更に出テ

**講義** 武王薨ジテ其弟昭襄王稷立ツ時ニ魏ノ人范  
曄トイフ者アリ嘗テ大夫須賈ニ隨從シテ齊  
ニ使セシ時齊王眡ガ能辯ナルコトヲ聞テ之ヲ優待  
シ金ト牛肉ト酒トヲ賜ヒケルニ賈ハ眡ガ本國ノ  
密事ヲ齊ニ告ゲタルカト疑ヒ歸リテ魏ノ相魏齊  
ニ告ゲレカバ魏齊怒リテ眡ヲ答撃シ其辯ヲ折リ  
眡ヲ拉キタリ眡倅リ死シテ逃レント欲セシニ魏  
齊ハ猶ホモ足レリトセズ其體ヲ實ニ卷キテ廁ノ  
中ニ置キ酒ニ酔ヒタル賓客ヲシテ蹙ニ小便ヲシ  
カケサセ後來人ノ他國ニ往キテ機密ヲ泄ス者ノ  
懲戒トセリ眡ハ廁ニ在リテ氣息纒ニ絶エガリケ  
レバ間ヲ窺ヒ守者ニ憐ヲ乞ヒテ出ヅルコトヲ得タ  
リ而シテ再ビ魏齊ノ捕ニ遭ハンコトヲ恐レ姓名ヲ  
張祿ト野メテ匿レ居タリケルニ秦ノ使者王齎魏  
ニ至リテ蹙ニ車ニ載セテ歸リ昭襄王ニ薦メテ客  
卿ト爲シヌ眡志ヲ秦ニ得テ王ト爲メニ遠ク交ハ

送ニハリテ  
殆ンド寧戚  
ナレ故ニ韓  
魏文ヘズレ  
テ終ニ折レ  
テ秦ニ入り  
ヌ韓魏既ニ  
折レテ秦ニ  
入ルハ此燕  
趙齊楚ノ相  
繼テ亡ブル  
所以ナリ秦  
ノ六國ヲ取  
ルハ之ヲ蠶  
食ト謂フ蓋  
シ蠶ノ葉ヲ

リ近ク攻ムルノ謀ヲ教ス其策ニ云ク今夫韓魏ハ  
中國ノ蹙ニシテ天下ノ樞ナリ王若シ霸タラント  
欲セバ必ズ中國ニ親レシメテ以テ天下ノ樞ヲ爲シ  
而シテ楚趙ヲ威サバ則チ齊内附シテ韓魏虜ニス  
ベシト其意蓋シ秦ニ近キ韓魏ニ交リテ秦ニ遠キ  
楚趙ヲ攻メ楚趙破ルレバ齊ハ自ラ歸伏セン而シ  
テ後ニ韓魏ヲ四面ヨリ圍ミ一舉ニ  
テ之ヲ虜ニスベシトノ謀略ナリ

時穰侯魏冉用事眡說王廢之而代爲丞相號應侯魏使  
須賈聘秦眡敝衣閒步往見之賈驚曰范曄固無恙乎留  
坐飲食曰范曄一寒如此哉取一綈袍贈之遂爲賈御至  
相府曰我爲君先入通于相君實見其久不出問門下門

食フ、近キ  
ヨリシテ遠

キニ及ボセ  
バナリ六國

天下ノ樞ノ  
韓魏ニ在ル

一ヲ知ラズ  
秦人之ヲ伐

チ天齊楚救  
ハズ是天下

ノ樞ヲ以テ  
秦ニ委ヌル

ナリ六國安  
ガ亡ビザル

一ヲ得ンヤ  
ト蘇轍モ亦

論曰ク  
天下ノ諸侯

五倍ノ地十  
倍ノ衆ヲ以

テ發憤西向  
シ以テ山西

千里ノ秦ヲ  
攻メテ滅亡

ヲ免レズ夫  
秦ノ諸侯ト

天下ヲ爭フ  
所ノ者ハ齊

楚燕趙ニ在  
ラズシテ韓

魏ノ郊ニ在  
リ諸侯ノ秦

下曰無范叔鄉者吾相張君也賈知見欺乃膝行入謝罪

睢坐責讓之曰爾所以得不死者以縗祀戀戀尚有故人

之意爾乃大供具請諸侯賓客置莖豆其前而馬食之使

歸告魏王曰遠斬魏齊頭來不然且屠大梁賈歸告魏齊

魏齊出走而死

輯釋范叔ノ字ナリ○一寒ノ甚シキヲイフナリ○

縗袍ハ厚キ縗ナリ袍ハ釋名ニ杖夫ノ下ニ著

膝行膝ヲ屈シ地ニ就

○戀戀シキ貌○故人ビトナリ○供具馳

ヲナリ○諸侯賓客史記范睢ノ傳ニハ請諸侯使

ル諸侯ノ使者○莖草ヲ斬リタルヲ莖ト

本傳ニハ置莖豆其前令兩黥徒夾而馬食之

テキガミタル草ト豆トヲ須賈ノ前ニ置キ兩人ノ

入墨シタル刑人ヲ左右ニ立タシメテ馬

ノアツカヒニテ之ヲ食ハシメシナリ

講義范睢秦ノ客卿トナリシ時魏冉トイフ者政柄

ヲ執リテ穰侯ト號シ勢威甚ク盛ニナリケル

が睢昭襄王ニ説キテ之ヲ廢シ自ラ代リテ穰相ト

爲リ應ノ地ニ封ゼラレテ應侯ト號ス是時マデモ

魏ノ郊ニ在

諸侯ノ秦

十

集戎官載版

ト天下ヲ爭  
フ所ノ者ハ、  
齊楚燕趙ニ  
在ラズレテ、  
韓魏ノ野ニ  
在リ秦ノ韓  
魏アルハ譬  
ヘバ人ノ腹  
心ノ疾アル  
ガ如シ韓魏  
秦ノ衝ヲ塞  
ギテ山東ノ  
諸侯ヲ蔽フ  
故ニ夫ノ天  
下ノ重ンゴ  
ル所ノ者ハ、

秦ニ弊洞セシメタリ、雖ハ賈ガ來ルト聞テ、故ニ  
往キテ之ニ見エケレバ、賈ハ驚キテ曰ク、范叔固ニ  
恙ナカリシカトテ、之ヲ留メテ對坐シ、酒肉ヲ與ヘ、  
其服ノ粗ナルヲ見テ、范叔寒ユルヲ此ノ如キマデ  
ニナリツルカト曰ヒテ、厚繒ノ長襦一領ヲ贈リケ  
レバ、雖ハ佯リテ恩ヲ謝シ、遂ニ賈ノ爲ニ馬車ノ轡  
ヲ取リ、案内者ト爲リテ宰相ノ府ニ至リテ曰ク、我  
君ノ爲ニ先ヅ入りテ、宰相殿下ニ君ガ來臨ヲ通ズ  
ベシトテ、門内ニ入りケルガソレヨリ時刻ノ移ル  
マデ、出デ來ラザルヲ見テ、賈ハ門下ノ番士ニ向ヒ、  
郷ニ入りタル范叔ハ如何セシヤト尋ネケルニ、番  
士曰ク、范叔トイフ者ハ之ナシ、郷ニ入りタマヒタ  
ル人ハ吾ガ宰相張君ナリト答ヘケレバ、賈ハ始メ  
テ雖ニ欺カレシヲ心付キ、乃チ彌詢藤行シテ門  
内ニ入り、先年ノ罪ヲ謝シケレバ、雖ハ上坐ニ居ナ

韓魏ニ如ク  
ハナシ、昔者  
范雎秦ニ用  
ヒラレテ韓  
ヲ收メ商鞅  
秦ニ用ヒラ  
レテ魏ヲ收  
ム、昭王未ダ  
韓魏ノ心ヲ  
得ザリシト  
キ兵ヲ出カ  
シテ齊ノ剛  
壽ヲ攻ム、而  
シテ范雎以  
テ憂ト爲セ  
リ、然ラバ則

ホリテ、嚴シク之ヲ責讓シテ曰ク、往事ヲ細想スレ  
バ、爾ハ實ニ活ケ置クベキ者ニ非ズ、然ルニ今日爾  
ガ死セザルヲ得ルトイフハ、吾ニ贈リタル厚繒  
ノ長繒、何トナクナツカシクシテ、マカ昔ナジミノ  
心、地スルヲ以テナリ、イザヤ是ヨリ爾ニ返禮ヲス  
ベシトテ、乃チ山海ノ珍味ヲ席上ニ陳ネ、關東諸侯  
ノ使節トシテ、咸陽ニ來合ハセ居タル賓客ヲ招待  
シ、莖豆ヲ賈ヲ前ニ置キテ、之ヲ馬ノヤウニ食ハシ  
大満座ノ中ニ辱ヲ與ヘ、ソレヨリ國ニ逐ヒ歸シテ、  
魏王ニ告ゲシメテ曰ク、早々魏齊ガ頭ヲ斬リ來レ、  
サナクバイマニモ大梁ヲ濬リテ、目ニ物見スベシ  
ト、威シ付ケシカバ、賈ハ亡ゲ歸リテ、事ノ始末ヲ魏  
齊ニ告グ、魏齊大ニ懼レ  
テ、遂ニ出徒シテ死セリ、

雎既得志于秦、一飯之德、必償、雎耻之、怨必報、王既用雎、

秦ノ忌ム  
所ノ者以テ  
見ルベシ秦  
ノ兵ヲ燕趙  
ニ用フルハ  
秦ノ危事ナ  
リ韓ヲ越エ  
魏ヲ過ギテ  
人ノ國都ヲ  
攻メバ燕趙  
之ヲ前ニ拒  
ギテ韓魏之  
ヲ後ニ乗ゼ  
ン此危道ナ  
リ而シテ秦  
ノ燕趙ヲ攻

策歲加兵ニ晉斬首數萬周赧王恐與諸侯約從欲伐秦  
秦攻周赧王入秦頓首請罪盡獻其邑二十六周亡

輯釋 償 相當ノアイサツ  
○睚眦之怨 睚眦ハ目ヲ眦  
眦ノ怨トハ雙方目ニカド立テ、ニラミ合  
ヒタル怨ニテ、怨ノ最モ小ナルモノナリ

講義 范雎既ニ秦ノ相ト爲リテ其望ム所成就セシ  
ヨリ嘗テ人ニ受ケタル鉅一杯ノ徳モ必ズ相  
當ノ謝儀ヲ爲シ、互ニ憎クシト思ヒテニラミ合ヒ  
タル些細ノ怨モ必ズ之ニ意趣返シテ爲レズ、弟ク  
テ昭襄王ハ雎ノ計略ヲ用ヒ、毎年趙魏韓ノ三晉ニ  
攻メ入リテ、數萬人ノ首ヲ斬リケレバ、周ノ赧王之  
ヲ恐レテ、關東ノ諸侯ト合從ヲ約シ、秦ヲ攻メント  
欲セシニ、及リテ秦ノ攻メ寄スル所ト爲リ、赧王秦

ノテ、未ダ嘗  
ニ入リテ、頓首シテ處置ヲ請ヒ、其僅ニ存スル三  
十六邑ヲバ盡ク獻ジタリ、是ニ於テ周遂ニ亡ズ

秦將武安君白起與范雎有隙廢爲士伍賜劍死于杜郵

王臨朝而歎曰内無良將外多強敵雎懼蔡澤曰四時之

序成功者去雎稱病澤代之昭襄王薨子孝文王柱立薨

子莊襄王楚立薨嗣爲王者政也遂并六國是爲秦始皇帝

得レム此豈  
天下ノ勢ヲ  
知ランヤ區  
ヤタル韓魏  
ヲ委ネテ以  
テ強虎狼ノ

講義 秦ノ將軍武安君白起范雎ト相和セカリケレ  
バ、雎之ヲ廢シテ、兵士ノ伍列ニ編入シ、又之ニ  
劍ヲ賜ヒテ、咸陽城ノ西ニ在ル杜トイフ所ノ郵舎  
ニ於テ自殺セシメタリ、其後昭襄王朝廷ニ臨ミテ、  
内外ノ政事ヲ聽クニ當リ、白起ノ事ヲ思ヒ出ダシ  
テ、覺エズ嘆息シ、内ニハ良將ナク、外ニハ強敵多シ

テテ其間ニ  
出入スルヲ  
知ランヤ區  
ヤタル韓魏  
ヲ委ネテ以  
テ強虎狼ノ

附クガ故ナ  
リ夫韓魏ハ  
諸侯ノ障ニ  
シテ秦人ヲ  
レテ其間ニ  
出入スルヲ

アザガルハ  
韓魏ノ秦ニ  
附クガ故ナ  
リ夫韓魏ハ

テテ未ダ嘗  
ニ入リテ、頓首シテ處置ヲ請ヒ、其僅ニ存スル三  
十六邑ヲバ盡ク獻ジタリ、是ニ於テ周遂ニ亡ズ

十八史記卷六十五 留侯世家 十一